

平成 26 年度

F D 活 動 報 告 書

駒澤大学 F D 推 進 委 員 会

目 次

1. 委員会	1
(1) FD推進委員会	
(2) FD推進委員会小委員会	
2. 研修会	6
(1) FD研修会	
(2) 平成26年度新規採用教員オリエンテーション	
3. 公開授業	7
4. 学生による授業アンケート	15
(1) 「学生による授業アンケート」の概要	
(2) 授業アンケート質問項目	
(3) 項目別平均値	
(4) 受講生の講義への取り組み	
(5) 授業についての評価	
5. 総評	87
6. FD NEWSLETTERの発行	89
○FD NEWSLETTER 第39号	平成26年 6月30日発行
○FD NEWSLETTER 第40号	平成26年 9月30日発行
○FD NEWSLETTER 第41号	平成26年 12月15日発行
○FD NEWSLETTER 第42号	平成27年 3月15日発行

【付録資料】

- 駒澤大学FD推進委員会規程
- 平成26年度 駒澤大学FD推進委員会委員名簿
- 平成26年度 駒澤大学FD推進委員会小委員会委員名簿
- 平成26年度 駒澤大学FD推進部会委員名簿

1. 委員会

(1) FD推進委員会

○第1回

日 程 平成26年4月30日(水)

議 題 1. 報告事項

(1) 平成26年度新規採用教員オリエンテーションについて

(2) 2014(平成26)年度学生による授業アンケート(前期)について

(3) その他

2. 審議事項

(1) 学生による授業アンケートの公開について

(2) 平成26年度FD推進委員会活動年間日程(案)について

(3) 平成26年度FD活動計画について

(4) その他

3. その他

○第2回(臨時)

日 程 平成26年9月24日(水)

議 題 1. 報告事項

(1) その他

2. 審議事項

(1) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組評価について

(2) 教学に関する施策体系(案)の具体化について(諮問)

(3) その他

3. その他

○第3回

日 程 平成26年10月30日(木)

議 題 1. 報告事項

(1) 平成27年度入学者への入学前教育について

(2) 2014(平成26)年度「学生による授業アンケート」(後期)について

(3) 平成26年度「公開授業」の実施について

(4) 平成26年度「FD研修会」のWG報告について

- (5) その他
- 2. 審議事項
 - (1) 教学に関する施策体系（案）の具体化について（継続）
 - (2) その他
- 3. その他

○第 4 回

日 程 平成 27 年 3 月 12 日（木）

議 題

- 1. 報告事項
 - (1) 平成 26 年度『FD NEWSLETTER』第 42 号の発行について
 - (2) 2014（平成 26）年度「学生による授業アンケート」（後期）について
 - (3) 平成 26 年度「公開授業」の実施について
 - (4) 平成 26 年度「FD 研修会」の実施について
 - (5) 平成 26 年度『FD 活動報告書』の発行について
 - (6) 平成 27 年度「学生による授業アンケート」の実施期間について
 - (7) 平成 27 年度新規採用教員オリエンテーションの実施について
 - (8) その他
- 2. 審議事項
 - (1) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組評価について
 - (2) 平成 27 年度「学生による授業アンケート」の質問項目について
 - (3) 平成 27 年度「学生による授業アンケート」の結果公開について
 - (4) 平成 26 年度 FD 推進委員会の活動報告及び今後の課題について
 - (5) その他
- 3. その他

(2) FD 推進委員会小委員会

○第 1 回

日 程 平成 26 年 4 月 30 日（水）

議 題

- 1. 報告事項
- 2. 審議事項
 - (1) 『FDハンドブック』（改訂版）について（継続）
 - (2) 平成 26 年度『FD NEWSLETTER』の編集委員について

- (3) FD 推進委員会小委員会のワーキング・グループ設置について
- (4) 平成 26 年度 FD 活動計画について
- (5) その他

○第 2 回

日 程 平成 26 年 6 月 5 日 (木)

議 題

1. 報告事項

- (1) 平成 26 年度『FD NEWSLETTER』第 39 号の発行について
- (2) 平成 27 年度各種入学試験合格者への入学前教育の実施について
- (3) 『FDハンドブック』(改訂版) 実践編の執筆者について
- (4) 「学生による授業アンケート」の実施依頼について
- (5) その他

平成 26 年度「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマ B】インターンシップ等の取組拡大」選定結果について

2. 審議事項

- (1) 公開授業の実施方法等について
- (2) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組評価について
- (3) その他
 - ①授業アンケートに関するWG開催について

○第 3 回

日 程 平成 26 年 7 月 23 日 (水)

議 題

1. 報告事項

- (1) 平成 26 年度『FD NEWSLETTER』第 40 号の発行について
- (2) 『FDハンドブック』(改訂版) 実践編の執筆者の変更について
- (3) 平成 26 年度「学生による授業アンケート」(前期)について
- (4) その他

2. 審議事項

- (1) 公開授業の実施方法等について (継続)
- (2) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組評価について (継続)
- (3) 授業アンケートに関するWG報告について

- (4) その他
- 3. その他
 - ①各種出張案内について
 - ②FDハンドブックに関するWG開催について

○第4回

- 日 程 平成26年10月2日(木)
- 議 題 1. 報告事項
 - (1)平成27年度特別入試合格者を対象とした入学前教育について
 - (2)平成26年度「学生による授業アンケート」(後期)について
 - (3)『FDハンドブック』(改訂版)について
 - (4)その他
- 2. 審議事項
 - (1) 教学に関する施策体系(案)の具体化について(諮問)
 - (2) 公開授業の実施方法等について(継続)
 - (3) その他
- 3. その他

○第5回(臨時)

- 日 程 平成26年10月14日(火)
- 議 題 1. 報告事項
 - (1)平成26年度『FD NEWSLETTER』第41号の発行について
 - (2) その他
- 2. 審議事項
 - (1) 教学に関する施策体系(案)の具体化について(継続)
 - (2) FD研修会に関するWG報告について
 - (3) その他
- 3. その他
 - ①授業改善を支援する「電子著作物相互利用事業」の利用について
 - ②平成27年度各種入学試験合格者への入学前教育の実施について
 - ③平成26年度駒澤大学FD推進部会委員名簿の確認について

○第6回

- 日 程 平成27年1月28日(水)
- 議 題 1. 報告事項

- (1) 平成26年度「学生による授業アンケート」(後期)について
 - (2) 公開授業について
 - (3) 「FD研修会について」
 - (4) 『FDハンドブック』(改訂版)の発行について
 - (5) その他
2. 審議事項
- (1) 「学生による授業アンケート」(後期)について
 - (2) 平成27年度「学生による授業アンケート」について
 - (3) その他
3. その他

○第7回

日 程 平成27年2月17日(火)

議 題 1. 報告事項

- (1) 平成26年度『FD NEWSLETTER』第42号の発行について
 - (2) 「FD研修会」について
 - (3) 平成27年度新規採用教員オリエンテーションの実施について
 - (4) その他
2. 審議事項
- (1) 平成27年度「学生による授業アンケート」について(継続)
 - (2) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組評価について
 - (3) 平成26年度FD推進委員会の活動報告及び今後の課題について
 - (4) その他
3. その他

2. 研修会

(1) FD研修会

全教職員を対象としたFD研修会を開催した。

日 時：平成27年1月28日（水）16：00～17：30

場 所：1号館 1-301教場

テ ー マ：「新入生セミナーを振り返る」

講 師：内藤 寿子 先生（総合教育研究部日本文化部門）

「総合教育研究部日本文化部門担当教員の取組み」

中村 公一 先生（経営学部経営学科）

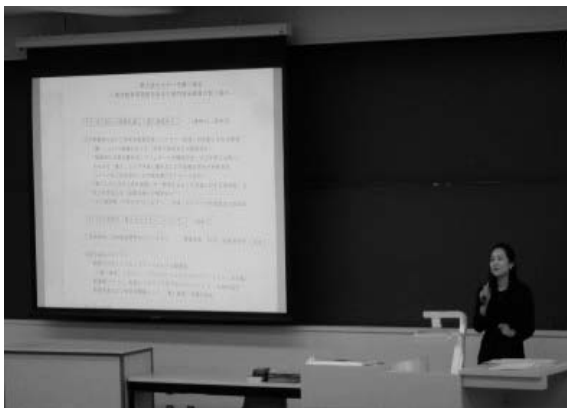
「経営学部担当教員の取組み」

岩崎 皇 先生（総合教育研究部第二部門）

「新入生セミナーのシラバスについて」

参 加 者：教員 65名

職員 13名



(内藤 寿子 先生)



(中村 公一 先生)



(岩崎 皇 先生)



(2) 平成 26 年度新規採用教員オリエンテーション

新規採用専任教員・非常勤教員を対象にしたオリエンテーションを開催した。

日 時：平成 26 年 4 月 1 日（火）14：40～17：00

出席者数：80 名（対象者 150 名）

次 第：学長挨拶

教務部長挨拶

FD 推進委員会小委員会委員長挨拶

大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）

3. 公開授業

公開授業の目的は、授業改善のための教員による相互研鑽を目的とし、工夫に富んだ授業に接し、その体験によるさまざまな発見を通して、今後の授業改善のためのヒントを得ることにある。

本年度の公開授業は、各学部等の FD 推進部会の協力により、本年度の新規採用教員を中心とした教員により「平成 26 年度公開授業一覧」（表 1）のとおり実施した。参観希望の授業科目の時間に直接教場に行き、後方に着席し、当日、学部によっては意見交換会が開催された。また、本年度より、「公開授業実施結果の報告」（表 2）のとおり実施結果について報告がなされた。

(表 1) 平成 26 年度公開授業一覧

学部	担当教員	実施日	時限	教場	科目名称
仏教	石井 清純	11/11 (火)	3	禅研-坐禅堂	坐禅
	熊本 英人				
	村松 哲文	11/28 (金)	2	1-403	仏教美術史
文	寺前 直人	11/27 (木)	4	9-178	考古学特講 V
経済	吉田 真広	11/25 (火)	1	9-392	国際金融論 b
	石川 祐二		3	2研-203	会計史
	清水 卓		3	9-391	現代西欧経済論
	鈴木 伸枝		3	1-301	ゲーム理論 b
	岩波 文孝	11/26 (水)	1	8-360	企業管理論 b/経営管理論 b
	宮田 惟史		1	1-401	経済学史 b
	有井 行夫		2	8-255	経済理論 A・資本の原理/ 経済理論 I A・資本の原理
	北口 りえ		3	8-465	税務会計論 b
	森田 佳宏		3	1-302	会計監査論 b
	友松 憲彦		4	8-255	西洋経済史 b

経済	小林 正人	11/27 (木)	1	8-255	日本経済論 b
	番場 博之		1	8-465	流通政策 b
	荒木 勝啓		2	8-360	ミクロ経済学
	小西 宏美		2	8-465	ファイナンス基礎 b
	鄭 章淵		2	8-467	アジア経済論 b
	村松 幹二		3	8-256	契約理論
	谷敷 正光		3	9-391	教育経済論 b
	小西 宏美		4	8-257	グローバル・ファイナンス b
	瀬戸岡 紘		4	1-301	アメリカ経済論 b
	中濟 光昭		5	8-151	就業力応用IV
	松田 健		5	8-152	就業力応用IV
	江口 允崇		11/28 (金)	1	9-392
	小杉 修二	2		1-404	中国経済論 b
	山縣 弘志	2		8-151	ロシア・東欧経済論 b
	吉田 真広	2		8-150	貿易史 b
	友松 憲彦	3		9-392	経済学入門 b
	西村 健	4		8-255	企業経済学 b
	石川 祐二	5		2研-203	管理会計論 b
	曾我 信孝	11/29 (土)	3	2研-209	マーケティング b
	代田 純	12/1 (月)	1	9-391	金融論 b
	姉齒 暁		3	1-303	消費経済論 b
	荒木 勝啓		3	1-302	応用ミクロ経済学 b
	溝手 芳計		3	8-465	農業政策 b
	村松 幹二		4	1-203	制度の経済学
	明石 英人	12/3 (水)	1	9-391	経済理論 Ab
	齊藤 正		2	8-256	現代銀行事情
	堀 龍二		3	8-152	人的資源管理論 b
	小栗 崇資	12/4 (木)	2	8-150	財務会計論 b
	松井 柳平		2	8-152	ミクロ経済学
	石川 純治		3	1-302	会計情報論 b
舘 健太郎	3		9-392	産業組織論 b	
大石 雄爾	4		9-289	経済理論 B・経済システムの原理/ 経済理論 I B・経済システムの原理	
瀬戸岡 紘	4		1-301	アメリカ経済論 b	

	浅田 進史		5	1-203	キャリア・デザイン応用 b
	明石 英人	12/5 (金)	2	8-152	社会経済学 b
	浅田 進史		4	9-391	経済史 b
	吉田 敬一	12/6 (土)	1	2研-102	中小企業政策論
	百田 義治	12/8 (月)	4	8-466	企業経営学 b
	光岡 博美		5	9-392	社会政策 b
法	岡田 好弘	11/26 (水)	3	8-360	民事執行・保全法
経営	豊田 太郎	11/25 (火)	2	8-255	経営学
医療健康科	森口 央基	12/2 (火)	1	7-202	医療統計学
GMS	服部 哲	11/26 (水)	2	1-401	Web コンテンツ基礎
総合教育 研究	黒住 早紀 子	11/25 (火)	5	9-171	教職実践演習 (中・高)
	瀧本 誠	12/2 (火)	2	玉川第2体育 館地下・トレー ニングルーム	健康・スポーツ実習

(表 2) 平成 26 年度「公開授業実施結果」報告

学部	仏教学部	担当教員	石井 清純・熊本 英人
1. 実施日・曜日・時限	11月11日 (火)・3時限	教場	禅研一坐禅堂
2. 実施科目名	坐禅	報告者	石井 清純・熊本 英人
3. 学生履修者数	120人		
4. 公開授業参加者数	5人		
5. 授業実施状況 通常の坐禅実習の通り、坐禅2回、間に経行、2回目の坐禅では提唱(講義)を行った。 参加教員は、坐禅または椅子坐で、実習を見学した。 授業終了後、数名の参加教員と振り返りの意見交換を行った。 その後、参加教員と、メールの交換によって、振り返りシートの確認、振り返りの意見交換を行った。			
6. 授業改善ポイント指摘事項 提唱(講義)のマイクの音量調整については、意見を取り入れ早速改善した。 実習の際の服装について、どの程度まで規制するか今後の課題とする。 照明や空調など、教場(坐禅堂)設備については、検討課題とする。			

学部	仏教学部	担当教員	村松 哲文
1. 実施日・曜日・時限	11月28日 (金)・2時限	教場	1-403
2. 実施科目名	仏教美術史	報告者	村松 哲文
3. 学生履修者数	120人		
4. 公開授業参加者数	5人		

5. 授業実施状況

1-403 教場にて通常の講義を行った。

- (1) 教材 レジюме (表裏) 2 枚 確認シート 1 枚 スライド資料
- (2) 機材利用 スライド利用 パワーポイント
- (3) 講義方法

資料配付の後、平等院鳳凰堂の阿弥陀如来坐像をテーマに映像資料を利用しながら講義を行った。講義の最後に確認シートを配布し、本講義の理解度の確認を行った。

6. 授業改善ポイント指摘事項

授業の進め方について、特にスライド利用の説明に学生が興味を持っている点は、とても参考になった。しかし、スライド転換時など、講義の流れについていけない学生もいるようなので、資料説明と講義のバランス、進め方の遅速などに留意が必要かもしれない。

スクリーン画面の大きさにも改善の余地があると思われるとの指摘があり、大教場における講義方法について学部としても取り組みを強化すべきと思われる。

最後に講義理解度を確認するのは、とても好い点であると思われる。

学部	文学部	担当教員	寺前 直人
1. 実施日・曜日・時限	11月27日(木)・4時限	教場	9-178
2. 実施科目名	考古学特講V	報告者	田中 靖
3. 学生履修者数	45人		
4. 公開授業参加者数	4人		
5. 授業実施状況			
<p>本講義は、歴史学科の専門科目で、受講者の内訳は2年生と3年生で約半分ずつであり、そこに少数の4年生で構成されている。専攻別では考古学専攻が多数を占め、そこに日本史学専攻と外国史専攻の学生が2割程度であった。この日の公開授業には、文学部教員3名と総合教育研究部教員1名の計4名が参加した。</p> <p>授業は、配布資料(プリント3枚)と板書、そしてパワーポイントによる資料提示によって行われた。授業内容は、基本的なことを確認しながらも、時折最新の研究をも紹介する本格的な専門の授業内容であった。大変聞き取りやすいお話のされ方であり、学生は私語・居眠りなどをせずにしっかりと授業に集中していた。学生には毎回質問用紙が配布されており、それが出席確認を兼ねており、講義終了後、学生はそれに様々な質問・コメント等を書き込んで提出している。配布プリントには前回の質問とそれに対する回答が一覧となって記載されており、毎回の授業が大変丁寧になされていることを伺い知ることが出来た。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>教員の講義方法等に関する改善点の指摘については、特に大きな指摘はなかった。しかし、この講義を行った9-178教場は、スクリーンを下ろすと黒板は半分使えない状態になってしまう。スライドの説明が学生の興味を引く内容であり、かつ重要なポイントであると見受けられたが、その際に板書をしないとノートを取っていない学生が散見された。この様な学生の理解度を高めるためにも、黒板とスクリーンを併用しやすい教場のインフラ整備が必要であると感じた。</p>			

学部	経済学部	担当教員	明石 英人
1. 実施日・曜日・時限	1 2 月 3 日 (水) ・ 1 時限	教場	9 - 3 9 1
2. 実施科目名	経済理論 Ab	報告者	明石 英人
3. 学生履修者数	8 4 人		
4. 公開授業参加者数	0		
5. 授業実施状況			
<p>マルクスの主著『資本論』第三巻における「利潤率の傾向的低下の法則」について授業を実施した。最初に、前回までに学習したことを復習し、とくに平均利潤と生産価格の概念について確認した。利潤率の均等化が、社会全体で生みだされる剰余価値の再配分を意味するという点は、理解が困難であると思われるので、改めて図を板書して説明した。</p> <p>本題については、まず小西一雄『資本主義の成熟と転換』（桜井書店、2014 年）の議論を紹介しつつ、戦後の日本において総資本営業利益率（マルクスが定義する利潤率に近い指標）が傾向的に低下していることをグラフで示した。その後で、利潤率が上昇する場合を理論的におさえ、『資本論』第一巻の議論を必要な範囲内で復習した。次にマルクスの主眼が、「資本構成の高度化によって利潤率が下がることは、同時に生産規模の拡大による利潤量の増大ということをともなっている」点にあることを強調した。「利潤率の傾向的低下の法則」をめぐる論争史にも簡単に触れて、ミヒャエル・ハインリッヒによるマルクス批判を例として取り上げ、その問題点を指摘した。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>今回は、レジュメを配布し、板書と口頭説明で授業を進めた。今後は、パワーポイント等も有効に用いていきたい。難解な話が多くなりがちなので、適宜具体的な事例を差し挟むようにしたい。</p>			

学部	経済学部	担当教員	西村 健
1. 実施日・曜日・時限	1 1 月 2 8 日 (金) ・ 4 時限	教場	8 - 2 5 5
2. 実施科目名	企業経済学 b	報告者	西村 健
3. 学生履修者数	2 1 9 人		
4. 公開授業参加者数	1 人		
5. 授業実施状況			
<p>企業の立地戦略および製品差別化戦略について授業を実施した。講義では、パワーポイントの資料をプロジェクターで映しながら、内容を説明した。授業内容に関する現実のデータ（店舗の立地状況など）を紹介して、学生の興味を引くように工夫した。また、パワーポイントのファイルを事前に印刷して、講義前に配布するようにしている。学生には、プロジェクターで映されたスライドを見ながら、配布資料の空欄部分を埋めるように、最初の講義で指示している。講義後には、授業で説明した内容の復習を兼ねて YeStudy の小テストで問題を解かせるようにしている。また、授業で使用したものと同一ファイルを YeStudy 上でダウンロードできるようにした。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>公開授業に参加して頂いた仏教学部教員の方より、いくつかご指摘を頂戴した。たとえば、遅刻者が多い、若干名が全く授業に参加していない、といった点についてである。また、理解度をどのように把握しているか、というご質問をいただいた。この点については、YeStudy で小テストを毎週出題しており、その結果を用いて理解度の把握に努めている。</p>			

学部	法学部	担当教員	岡田 好弘
1. 実施日・曜日・時限	11月26日(水)・3時限	教場	8-360
2. 実施科目名	民事執行・保全法	報告者	岡田 好弘
3. 学生履修者数	300人		
4. 公開授業参加者数	5人		
5. 授業実施状況 教科書を早めに終わらせており、今回は重要ポイントの復習を行う回であった。学生が試験前の復習をしやすいように配慮した。平易な言葉で、学生が理解しやすいように配慮して講義を行った。参考書に掲載された古典的な判例だけでなく、最新の判例も紹介し講義の学術水準の維持を図った。			
6. 授業改善ポイント指摘事項 判例解説では、より具体的に何の文脈によるものかを付け加えた方が良い、などの指摘を受けた。			

学部	経営学部	担当教員	豊田 太郎
1. 実施日・曜日・時限	11月25日(火)・2時限	教場	8-255
2. 実施科目名	経営学	報告者	豊田 太郎
3. 学生履修者数	258人		
4. 公開授業参加者数	12人		
5. 授業実施状況 (授業内容) テキスト『ケースに学ぶ経営学(新版)』を予め学生に読んでおいてもらって、概説・補説をおこなった。(テーマ:第17章 会社は誰のものか) ・授業中は静穏な環境を保つことができた。 ・数名の学生に発表してもらった。 ・後期に入ってから学生に見せている映像資料との関連を意識して授業をおこなった。			
6. 授業改善ポイント指摘事項 ・もっとこまめに学生からの意見等を吸い上げる必要があると感じた。 ・もっとわかりやすい、見やすい板書をするべきである。 ・欠席者を減らす対策を講ずるべきである。			

学部	医療健康科学部	担当教員	森口 央基
1. 実施日・曜日・時限	12月2日(火)・1時限	教場	7-202
2. 実施科目名	医療統計学	報告者	森口 央基
3. 学生履修者数	44人		
4. 公開授業参加者数	2人		
5. 授業実施状況 資料を用い、統計学における検定の具体的な解説法について解説しました。個々の手法について解説をした後、練習問題を解き、実際にどのように検定が行われているかを解説しました。 学生はいつも静かに聴講していますが、本日の授業ではさらに静かでした。私の説明が長いのか、学生からは今日も質問がありませんでした。今後はもう少し学生の理解を確認しつつ前に進むように心がけます。			

6. 授業改善ポイント指摘事項

学生がどの程度理解しているのかわからない。質問を随時してみてもうだろう。

学部	GMS 学部	担当教員	服部 哲
1. 実施日・曜日・時限	11 月 26 日（水）・2 時限	教場	1-401
2. 実施科目名	Web コンテンツ基礎	報告者	服部 哲
3. 学生履修者数	319 人		
4. 公開授業参加者数	0		
5. 授業実施状況			
ホームページに動きを与える Javascript の 2 回目を実施した。サンプルをネット上に用意しておき、各学生は自分たちのパソコンを利用して、サンプルを拡張しながら、ホームページに動きを与える方法の基礎を学んだ。			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
公開授業参加者からのコメントはないが、Javascript の、あるいは、そもそもコンピュータプログラムの基礎事項を豊富な事例とともに紹介するべきであった。			

学部	総合教育研究部	担当教員	黒住 早紀子
1. 実施日・曜日・時限	11 月 25 日（火）・5 時限	教場	9-171
2. 実施科目名	教職実践演習（中・高）	報告者	黒住 早紀子
3. 学生履修者数	24 人		
4. 公開授業参加者数	3 人		
5. 授業実施状況			
<p>本授業では、教職課程を履修する学生が教育実習の振り返りをするとともに教職に関する理解を深めることを目的として、教育実習に関する一つのテーマに関するディスカッションを行った。ディスカッションのテーマとその内容に関する資料収集は、担当の学生（本授業時は 3 名）があらかじめ準備し、当日の司会進行も当該学生が務める。本授業時のディスカッションテーマは「現職教師ではなく教育実習生だからできること」であり、このテーマに関して担当学生（3 名）の司会進行のもと、参加学生（16 名）が自らの意見を述べながら、ディスカッションが進められた。</p>			
6. 授業改善ポイント指摘事項			
<p>本授業に参加された先生方から、以下のような肯定的意見と改善ポイントのご指摘をいただいた。</p> <p>肯定的意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ科目の授業を担当している者として、学生を主体とする授業を作っていく上で、とても参考になりました。授業の組み立てと進め方が丁寧に考えてあり、このことは学生が自分たちの考えを深める授業を行う上で大事であると、学ばせていただきました。また、学生たちのディスカッションが落ち着いた雰囲気の中で行われていたことが印象的でした。 ・皆の意見がスクリーン上で確認できるのはよいと思いました。 ・複数の学生が協力しながら、司会を務め、討論会を運営しているので、進行がスムーズであった。 <p>改善ポイントの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業スタイルを、学生に定着させるのが難しそうに思った。 			

- ・着地点がどのような形で想定されているのかが気になりました。
- ・学生主導で議論を進める場合に、教員がどのようにして積極的な発言を誘導すべきなのか（あるいは、することができるのか）という点が気になりました。（現実には多くの学生が積極的に発言をしていた印象を受けたので、これまでの経緯をご教示いただきたく思いました。）

学部	総合教育研究部	担当教員	瀧本 誠
1. 実施日・曜日・時限	12月2日（火）・2時限	教場	玉川第2体育館地下・トレーニングルーム
2. 実施科目名	健康・スポーツ実習	報告者	瀧本 誠
3. 学生履修者数	24人		
4. 公開授業参加者数	3人		
5. 授業実施状況 準備運動、ストレッチ、メディシンボールによるトレーニング、マシンによるトレーニング（各自）、ストレッチ、次週に行うことの告知			
6. 授業改善ポイント指摘事項 現在、トレーニングルームにあるマシンは、型も古く故障しているものも多い。トレーニングルーム内にある器材を工夫して使い何とか授業を行っているのが現状である。 今以上に充実した授業を展開する為には、トレーニングルーム内の設備の改善が必要と考えられる。			

4. 学生による授業アンケート

(1) 「学生による授業アンケート」の概要

各教員の授業の改善を目的に、平成 26 年度「学生による授業アンケート」を下記の要領で実施した。本年度より C-Learning システムの導入により、Web 上で学生は回答をし、教員は結果を確認する方式となった。本報告書では、集約したデータの学部学科・質問項目ごとの平均値を示した。

◇実施期間

下記の期間に、該当科目の授業時間内に実施した。

前期（前期終了科目対象）： 2014 年 6 月 2 日～21 日

後期（後期・通年科目対象）： 2014 年 11 月 10 日～29 日

◇対象科目および対象学生数

全科目を対象に実施した。ただし、演習科目、集中講義科目ならびに受講者数が 20 名未満の科目は対象外とした。

前期	1, 265 科目	83, 286 人（延べ人数）
後期	1, 668 科目	141, 755 人（延べ人数）

◇実施科目数および回答者数

前期	1, 265 科目	46, 822 人（56.2%）
後期	1, 668 科目	57, 572 人（40.6%）

(2) 授業アンケート質問項目

Q 1. 所属学部学科等

20: 仏教	13: 社会学	6: 法律 B
19: 国文	12: 社会福祉学	5: 政治
18: 英米文	11: 心理	4: 経営
17: 地理	10: 経済	3: 市場戦略
16: 日本史学	9: 商	2: 診療放射線技術科
15: 外国史学	8: 現代応用経済	1: グローバル・メディア
14: 考古学	7: 法律 A	

Q 2. 学年

5: 4 年 4: 3 年 3: 2 年 2: 1 年 1: その他

Q 3. あなたの学生番号・氏名を担当教員に公開してよいか (※この設問で「公開する」を選択しても、実際に学生番号・氏名が公開されるわけではありません)。

Q 4. どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

- 11: 一般入試
- 10: 大学入試センター試験利用入試
- 9: 一般推薦入試
- 8: スポーツ推薦入試
- 7: 指定校推薦
- 6: 附属校推薦入試
- 5: 留学生特別入試
- 4: 帰国生特別入試
- 3: 編入学試験
- 2: その他
- 1: 回答しない

Q 5. この授業に何回欠席しましたか。

5: 0 回 4: 1~2 回 3: 3~4 回 2: 5~6 回 1: 7 回以上

Q 6. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数回答可)

- 5: シラバスを読んで興味を持った
- 4: 資格の取得
- 3: 周りの人に勧められた
- 2: 必修科目または選択必修科目だったから
- 1: その他

Q 7. この授業の予習・復習にあてた時間は 1 週間に何時間くらいでしたか。

5: 4 時間以上 4: 約 4 時間 3: 約 3 時間 2: 約 2 時間 1: 1 時間未満

Q 8. 授業に熱心に取り組みましたか。

- 5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
- 1: そう思わない

Q 9. 授業はほぼ定刻通りに行われていましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 10. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 11. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 12. この授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 13. 教科書・資料・教材・器具・用具等は効果的に使われていましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 14. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 15. 教員の話し方や説明の仕方は適切と思いましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 16. この科目の授業内容についてよく理解できましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 17. 授業内容に興味を持ってましたか。

5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない
1: そう思わない

Q 18～20 担当教員による個別質問（択一形式）

Q 21. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q 22. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

Q 23. 担当教員による個別質問（テキスト形式）

(3) 項目別平均値

「項目別平均値」に関しては、前期・後期で実施されたアンケートについて、質問項目 Q5～Q17 の学部・学科・専攻・部門別平均値を表に示したものである。学科・専攻・部門は、担当教員の所属による集計となっている。

これらの表を解釈する際、Q5 から Q8 までが学生の授業への取り組みについての結果であるのに対して、Q9 から Q17 までが該当授業の内容についての結果であることを念頭においておく必要がある。

なお、担当教員による個別質問の項目 (Q18～Q20、Q23) 及び学生による自由記述項目 (Q21、Q22) に関してはここでは報告していない。

I. 学部・学科別平均値

表 1 学科等別平均値 (前期実施科目) ※「-」は前期アンケート対象科目なし

(学部)学科・専攻・部門	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	-	-	-	3.9	3.9	-	4.6	4.6	-
Q6 平均値	-	-	-	2.8	2.8	-	2.0	2.0	-
Q7 平均値	-	-	-	1.1	1.1	-	1.1	1.1	-
Q8 平均値	-	-	-	3.3	3.3	-	4.1	4.1	-
Q9 平均値	-	-	-	3.9	3.9	-	4.5	4.5	-
Q10 平均値	-	-	-	4.1	4.1	-	4.7	4.7	-
Q11 平均値	-	-	-	4.1	4.1	-	4.2	4.2	-
Q12 平均値	-	-	-	3.7	3.7	-	4.0	4.0	-
Q13 平均値	-	-	-	3.8	3.8	-	4.1	4.1	-
Q14 平均値	-	-	-	3.8	3.8	-	4.3	4.3	-
Q15 平均値	-	-	-	3.5	3.5	-	4.2	4.2	-
Q16 平均値	-	-	-	3.0	3.0	-	4.0	4.0	-
Q17 平均値	-	-	-	3.2	3.2	-	3.9	3.9	-
有効回答数	-			59			117		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.1	-	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.2	3.7
Q6 平均値	2.4	-	2.4	3.7	3.6	3.9	3.6	3.2	4.1
Q7 平均値	1.4	-	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
Q8 平均値	3.8	-	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	4.1	-	4.1	4.3	4.4	4.1	4.4	4.5	4.2
Q10 平均値	4.3	-	4.3	4.5	4.5	4.4	4.6	4.6	4.5
Q11 平均値	4.0	-	4.0	4.1	4.2	3.8	4.4	4.4	4.3
Q12 平均値	3.7	-	3.7	3.8	3.9	3.6	4.1	4.0	4.2
Q13 平均値	4.1	-	4.1	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.1	-	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.0	-	4.0	3.9	3.9	3.8	4.2	4.2	4.2
Q16 平均値	3.7	-	3.7	3.6	3.7	3.5	3.7	3.7	3.8
Q17 平均値	3.4	-	3.4	3.8	3.8	3.7	4.0	4.0	4.0
有効回答数	184			1,034			621		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.4	4.4	4.2	4.0	4.4	3.8	4.5	4.7	4.4
Q6 平均値	2.5	2.2	4.0	3.9	2.0	4.5	3.4	2.6	3.9
Q7 平均値	1.2	1.0	1.9	1.1	1.0	1.1	1.3	1.1	1.4
Q8 平均値	3.9	3.8	4.3	3.9	3.8	3.9	4.0	4.2	3.9
Q9 平均値	4.2	4.2	4.3	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5
Q10 平均値	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.6	4.8	4.7	4.9
Q11 平均値	4.3	4.3	4.5	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5	4.3
Q12 平均値	4.1	4.1	4.0	4.0	4.1	4.0	4.2	4.5	4.0
Q13 平均値	4.1	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.5	4.3
Q14 平均値	4.3	4.3	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	4.6	4.2
Q15 平均値	4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3	4.5	4.2
Q16 平均値	4.0	4.0	4.2	3.9	4.3	3.8	3.9	4.2	3.7
Q17 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.4	3.9
有効回答数	149			191			134		

(学部)学科・専攻・部門	(文)社会学			(文)社会福祉学			(文)心理		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.8	3.8	3.9	4.0	4.1	4.0	3.9	-	3.9
Q6 平均値	3.5	3.4	3.6	4.0	3.7	4.1	4.3	-	4.3
Q7 平均値	1.2	1.3	1.2	1.2	1.1	1.2	1.1	-	1.1
Q8 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	4.0	3.9	-	3.9
Q9 平均値	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.3	4.4	-	4.4
Q10 平均値	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.4	4.6	-	4.6
Q11 平均値	4.2	4.4	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	-	4.3
Q12 平均値	3.9	4.1	3.9	4.2	4.2	4.1	4.0	-	4.0
Q13 平均値	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.1	4.0	-	4.0
Q14 平均値	4.1	4.2	4.1	4.4	4.5	4.3	4.2	-	4.2
Q15 平均値	3.9	4.0	3.8	4.3	4.4	4.2	4.1	-	4.1
Q16 平均値	3.7	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	-	3.8
Q17 平均値	3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.1	4.0	-	4.0
有効回答数	1,155			976			608		

(学部)学科・専攻・部門	(経済)経済			(経済)商			(経済)現代応用経済		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1	3.8	3.9	3.7
Q6 平均値	3.5	3.3	3.6	3.4	3.4	3.9	3.5	3.4	3.8
Q7 平均値	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.6	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.4
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.2	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値	4.0	4.0	4.0	3.7	3.8	3.5	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値	4.0	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
Q14 平均値	4.2	4.1	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2
Q15 平均値	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.7	4.0	4.0	4.1
Q16 平均値	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.4	3.7	3.7	3.8
Q17 平均値	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9
有効回答数	5,944			2,197			2,353		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.9	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8	4.0	4.1	4.0
Q6 平均値	2.6	2.2	3.6	3.3	2.9	3.5	3.0	2.0	3.7
Q7 平均値	1.4	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.9	3.9	4.0
Q9 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3
Q10 平均値	4.0	4.0	4.2	4.5	4.7	4.4	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値	4.0	4.0	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値	3.4	3.3	3.8	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9
Q13 平均値	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	4.1
Q14 平均値	3.9	3.9	4.0	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.2
Q15 平均値	3.6	3.5	3.7	4.1	4.2	4.0	4.0	4.1	3.9
Q16 平均値	3.4	3.3	3.5	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8
Q17 平均値	3.5	3.4	3.7	3.9	4.0	3.9	3.8	3.7	3.8
有効回答数	562			706			553		

(学部)学科・専攻・部門	(経営) 市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.9	4.0	3.8	4.4	4.5	4.4	3.8	3.7	3.9
Q6 平均値	3.0	2.8	3.7	2.1	2.1	2.1	2.7	2.8	2.6
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.3	1.7
Q8 平均値	3.8	3.8	3.6	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	4.2
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
Q10 平均値	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.4	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.2	4.4
Q12 平均値	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	4.0	3.9	4.1
Q13 平均値	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	4.1
Q14 平均値	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.3
Q15 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9	4.0	3.8	4.2
Q16 平均値	3.5	3.6	3.4	3.7	3.7	3.7	3.9	3.7	4.0
Q17 平均値	3.6	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	4.1
有効回答数	714			1,182			4,416		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 文化学			(総合教育研究) 自然科学			(総合教育研究) 日本文化		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	-
Q6 平均値	3.7	3.3	4.2	4.0	3.9	4.2	4.0	4.0	-
Q7 平均値	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-
Q8 平均値	3.7	3.6	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	-
Q9 平均値	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	-
Q10 平均値	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.7	4.7	-
Q11 平均値	4.2	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	-
Q12 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.2	-
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	-
Q14 平均値	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	-
Q15 平均値	4.0	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	-
Q16 平均値	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9	4.0	4.0	-
Q17 平均値	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	-
有効回答数	579			2,627			1,300		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
Q6 平均値	2.2	2.5	2.2	2.3	2.3	2.2	3.0	3.0	3.0
Q7 平均値	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.2	1.1
Q8 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.6
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5
Q12 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5
Q13 平均値	4.1	3.9	4.1	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4
Q14 平均値	4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	4.3	4.6	4.6	4.6
Q15 平均値	3.9	3.7	3.9	4.2	4.2	4.1	4.6	4.5	4.6
Q16 平均値	3.8	3.6	3.8	3.9	3.9	3.9	4.5	4.5	4.5
Q17 平均値	3.7	3.5	3.7	3.9	3.9	3.9	4.5	4.5	4.5
有効回答数	9,230			3,666			2,847		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 教職課程		
	全体	専任	非常勤
専任・非常勤区分			
Q5 平均値	4.1	4.1	4.1
Q6 平均値	3.8	3.8	3.8
Q7 平均値	1.1	1.1	1.1
Q8 平均値	3.9	3.9	4.0
Q9 平均値	4.5	4.5	4.5
Q10 平均値	4.6	4.7	4.5
Q11 平均値	4.3	4.3	4.3
Q12 平均値	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.2	4.2	4.2
Q16 平均値	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値	4.0	3.9	4.0
有効回答数	2,060		

表 2 学科等別平均値（後期実施科目）

(学部)学科・専攻・部門	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.9	4.2	3.9
Q6 平均値		2.2	2.2	2.7	2.4	2.3	3.9	2.8	2.1	3.0
Q7 平均値		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2
Q8 平均値		3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.9	3.7	3.9	3.7
Q9 平均値		4.0	4.0	4.3	4.1	4.1	4.0	4.3	4.4	4.3
Q10 平均値		4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	3.9	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0
Q13 平均値		3.9	3.9	4.1	3.9	3.9	4.2	4.1	4.1	4.1
Q14 平均値		4.2	4.2	4.3	4.2	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3
Q15 平均値		4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	4.2	4.1	4.2
Q16 平均値		3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8
Q17 平均値		3.6	3.5	3.9	3.6	3.6	3.9	3.9	3.9	3.9
有効回答数		1,870			1,747			1,378		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.7	3.6	3.9	4.1	4.2	3.9	4.2	4.3	4.0
Q6 平均値		2.8	2.7	3.1	3.7	3.5	4.0	3.7	3.5	4.0
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.1
Q8 平均値		3.9	3.9	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7
Q9 平均値		4.4	4.4	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.2
Q10 平均値		4.5	4.6	4.4	4.3	4.2	4.3	4.4	4.4	4.3
Q11 平均値		4.3	4.4	4.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2
Q12 平均値		4.1	4.1	4.1	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0
Q13 平均値		4.2	4.2	4.2	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.1
Q14 平均値		4.3	4.4	4.2	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値		4.2	4.2	4.1	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値		4.0	4.0	4.0	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.8
Q17 平均値		4.0	4.0	4.0	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9
有効回答数		1,154			1,248			830		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	3.7	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	3.4	2.9	3.8	3.3	2.7	3.9	3.0	2.4	3.8
Q7 平均値	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.1	1.2	1.1
Q8 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	3.8
Q9 平均値	4.1	4.0	4.2	4.2	4.0	4.4	4.1	4.1	4.2
Q10 平均値	4.1	4.0	4.2	4.4	4.2	4.5	4.0	4.0	4.2
Q11 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1
Q12 平均値	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9	4.0	3.8
Q13 平均値	3.9	3.8	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	3.9
Q14 平均値	4.0	3.9	4.1	4.3	4.2	4.4	4.2	4.4	4.0
Q15 平均値	3.8	3.6	3.9	4.1	4.1	4.1	4.0	4.2	3.8
Q16 平均値	3.6	3.5	3.7	3.8	3.7	3.8	3.7	3.9	3.6
Q17 平均値	3.7	3.6	3.8	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.8
有効回答数	1,247			1,109			464		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	3.9	4.0	3.9
Q6 平均値	3.4	2.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.5	2.8	3.7
Q7 平均値	1.4	1.4	1.3	1.1	1.1	1.2	1.2	1.1	1.2
Q8 平均値	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.8
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.5	4.2
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.5	4.6	4.4
Q11 平均値	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	4.0	3.7	4.0	4.1	4.0	4.0	3.9	4.0
Q13 平均値	3.8	4.0	3.7	4.1	4.2	4.0	4.0	4.0	4.0
Q14 平均値	4.1	4.3	4.0	4.3	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2
Q15 平均値	3.7	4.0	3.5	4.2	4.3	4.1	4.0	4.0	4.1
Q16 平均値	3.7	3.8	3.6	3.8	3.9	3.8	3.8	3.6	3.8
Q17 平均値	3.8	3.9	3.7	4.0	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9
有効回答数	640			900			2,192		

(学部)学科・専攻・部門	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9
Q6 平均値	3.5	3.3	3.7	3.5	3.5	4.0	3.5	3.4	3.9
Q7 平均値	1.2	1.2	1.3	1.2	1.2	1.4	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4
Q10 平均値	4.3	4.2	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値	3.9	3.8	4.0	3.8	3.9	3.6	4.0	4.0	4.1
Q13 平均値	3.9	3.7	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1
Q14 平均値	4.1	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
Q15 平均値	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.2
Q16 平均値	3.7	3.5	3.8	3.7	3.7	3.4	3.8	3.8	3.9
Q17 平均値	3.7	3.5	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	4.0
有効回答数	4, 298			1, 270			1, 485		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.5	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6
Q6 平均値	3.4	3.2	3.8	3.3	3.2	3.5	3.1	2.8	3.5
Q7 平均値	1.3	1.4	1.3	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.8
Q9 平均値	4.2	4.1	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2
Q10 平均値	4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2
Q12 平均値	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0
Q13 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	3.9	4.0
Q14 平均値	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1	4.0	4.2
Q15 平均値	4.0	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	4.0
Q16 平均値	3.6	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.5	3.8
Q17 平均値	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.6	3.9
有効回答数	5, 314			2, 639			3, 237		

(学部)学科・専攻・部門	(経営)市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.7	3.8	3.1	4.3	4.3	4.3	3.8	3.8	3.9
Q6 平均値	3.2	3.0	3.9	2.0	2.0	2.0	3.0	3.4	2.7
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.6	1.4	1.7
Q8 平均値	3.7	3.8	3.3	3.8	3.8	3.6	4.1	4.0	4.2
Q9 平均値	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.5	4.5	4.5
Q10 平均値	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.1	4.6	4.5	4.6
Q11 平均値	4.1	4.1	3.9	4.1	4.1	3.8	4.4	4.3	4.4
Q12 平均値	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.5	4.1	4.0	4.2
Q13 平均値	3.7	3.7	3.5	3.8	3.9	3.4	4.2	4.1	4.2
Q14 平均値	3.9	4.0	3.7	4.1	4.1	3.8	4.3	4.2	4.4
Q15 平均値	3.6	3.7	3.2	3.9	4.0	3.6	4.2	4.1	4.3
Q16 平均値	3.5	3.6	3.3	3.6	3.7	3.3	4.0	3.9	4.1
Q17 平均値	3.6	3.7	3.3	3.7	3.8	3.4	4.1	4.0	4.2
有効回答数	1,194			1,282			1,645		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究)文化学			(総合教育研究)自然科学			(総合教育研究)日本文化		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.7
Q6 平均値	3.6	3.5	3.6	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.4
Q7 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.6	3.6	3.6	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値	4.2	4.1	4.2	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5
Q11 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q12 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2
Q14 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q15 平均値	3.9	4.0	3.9	4.1	4.2	4.0	4.2	4.2	4.2
Q16 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値	3.7	3.8	3.6	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0
有効回答数	4,199			1,978			1,074		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1
Q6 平均値	2.2	2.5	2.1	2.3	2.6	2.2	3.8	3.8	4.2
Q7 平均値	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.5	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	3.9	4.2	4.2	4.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.5	4.3	4.3	4.3	4.6
Q10 平均値	4.3	4.1	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6
Q11 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.4	4.2	4.3	4.3	4.6
Q12 平均値	3.8	3.7	3.9	4.0	4.1	3.9	4.3	4.3	4.6
Q13 平均値	4.1	3.9	4.1	4.2	4.4	4.2	4.2	4.2	4.4
Q14 平均値	4.1	4.0	4.1	4.3	4.5	4.2	4.3	4.3	4.4
Q15 平均値	3.9	3.8	4.0	4.2	4.3	4.1	4.2	4.2	4.4
Q16 平均値	3.8	3.7	3.9	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.6
Q17 平均値	3.7	3.6	3.7	4.0	4.1	3.9	4.2	4.2	4.7
有効回答数	7, 148			3, 053			530		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 教職課程		
	専任・非常勤区分	全体	専任
Q5 平均値	4.2	4.2	4.2
Q6 平均値	3.9	3.8	3.9
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.9	4.0	3.9
Q9 平均値	4.3	4.4	4.3
Q10 平均値	4.4	4.5	4.3
Q11 平均値	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	4.1	4.2	4.0
Q13 平均値	4.1	4.2	4.0
Q14 平均値	4.3	4.4	4.2
Q15 平均値	4.1	4.2	4.1
Q16 平均値	4.0	4.0	3.9
Q17 平均値	4.0	4.0	3.9
有効回答数	2, 080		

表 3 学科等別平均値（全体）

(学部)学科・専攻・部門	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	4.0	4.3	3.9
Q6 平均値		2.2	2.2	2.7	2.5	2.4	3.9	2.8	2.1	3.0
Q7 平均値		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値		3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	3.7
Q9 平均値		4.0	4.0	4.3	4.1	4.1	4.0	4.3	4.4	4.3
Q10 平均値		4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	3.9	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0
Q13 平均値		3.9	3.9	4.1	3.9	3.9	4.2	4.1	4.1	4.1
Q14 平均値		4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3
Q15 平均値		4.0	4.0	4.1	3.9	3.9	4.0	4.2	4.1	4.2
Q16 平均値		3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9	3.8
Q17 平均値		3.6	3.5	3.9	3.6	3.6	3.9	3.9	3.9	3.9
有効回答数		1, 870			1, 806			1, 495		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.7	3.6	3.9	4.1	4.1	4.0	4.1	4.3	3.8
Q6 平均値		2.8	2.7	2.8	3.7	3.5	3.9	3.6	3.4	4.0
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1
Q8 平均値		3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7
Q9 平均値		4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.2
Q10 平均値		4.5	4.6	4.4	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.4
Q11 平均値		4.3	4.4	4.2	4.1	4.2	4.0	4.3	4.3	4.3
Q12 平均値		4.1	4.1	4.0	3.8	3.9	3.8	4.0	4.0	4.1
Q13 平均値		4.2	4.2	4.1	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1
Q14 平均値		4.3	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.3	4.4	4.3
Q15 平均値		4.1	4.2	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値		3.9	4.0	3.9	3.7	3.7	3.6	3.7	3.6	3.8
Q17 平均値		3.9	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9
有効回答数		1, 338			2, 282			1, 451		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.1	4.1	4.0	4.0	4.2	3.8	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	3.3	2.8	3.8	3.4	2.6	4.1	3.1	2.4	3.8
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8
Q9 平均値	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1	4.4	4.2	4.1	4.3
Q10 平均値	4.1	4.1	4.2	4.4	4.3	4.5	4.2	4.1	4.4
Q11 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.1
Q12 平均値	3.8	3.8	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9
Q13 平均値	3.9	3.8	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0
Q14 平均値	4.1	4.0	4.1	4.3	4.2	4.4	4.3	4.4	4.1
Q15 平均値	3.8	3.7	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	3.9
Q16 平均値	3.6	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.6
Q17 平均値	3.7	3.7	3.8	4.0	3.9	4.0	3.9	4.0	3.8
有効回答数	1,396			1,300			598		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.9	3.8	3.9	4.1	4.1	4.0	3.9	4.0	3.9
Q6 平均値	3.5	3.2	3.7	3.9	3.7	4.0	3.7	2.8	3.9
Q7 平均値	1.3	1.3	1.2	1.2	1.1	1.2	1.2	1.1	1.2
Q8 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.8
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.5	4.3
Q10 平均値	4.5	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.5	4.6	4.5
Q11 平均値	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.1	4.0	3.9	4.0
Q13 平均値	3.9	4.0	3.7	4.1	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0
Q14 平均値	4.1	4.2	4.0	4.3	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2
Q15 平均値	3.8	4.0	3.7	4.2	4.4	4.1	4.1	4.0	4.1
Q16 平均値	3.7	3.8	3.6	3.9	3.9	3.9	3.8	3.6	3.8
Q17 平均値	3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9
有効回答数	1,795			1,876			2,800		

(学部)学科・専攻・部門	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	4.0	3.8
Q6 平均値		3.5	3.3	3.7	3.4	3.4	3.9	3.5	3.4	3.8
Q7 平均値		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.5	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値		3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.8
Q9 平均値		4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.4
Q10 平均値		4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		3.9	3.9	4.0	3.8	3.8	3.5	4.0	3.9	4.1
Q13 平均値		3.9	3.8	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0
Q14 平均値		4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
Q15 平均値		3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.8	4.1	4.0	4.1
Q16 平均値		3.7	3.7	3.8	3.6	3.6	3.4	3.8	3.7	3.9
Q17 平均値		3.8	3.7	3.9	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9
有効回答数		10,242			3,467			3,838		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.7
Q6 平均値		3.4	3.1	3.8	3.3	3.2	3.5	3.1	2.7	3.6
Q7 平均値		1.3	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値		3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8
Q9 平均値		4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2
Q10 平均値		4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値		4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2
Q12 平均値		3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値		3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0
Q14 平均値		4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2
Q15 平均値		3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0
Q16 平均値		3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6	3.8
Q17 平均値		3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.6	3.9
有効回答数		5,876			3,345			3,790		

(学部)学科・専攻・部門	(経営)市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.8	3.9	3.4	4.4	4.4	4.3	3.8	3.8	3.9
Q6 平均値	3.1	2.9	3.8	2.0	2.0	2.1	2.8	2.9	2.6
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.3	1.7
Q8 平均値	3.7	3.8	3.4	3.8	3.9	3.7	4.0	3.8	4.2
Q9 平均値	4.2	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.4	4.5
Q10 平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.3	4.2	4.4
Q12 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	4.0	3.9	4.1
Q13 平均値	3.7	3.8	3.7	3.9	3.9	3.7	4.1	4.0	4.1
Q14 平均値	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.0	4.2	4.1	4.4
Q15 平均値	3.6	3.7	3.4	3.9	3.9	3.8	4.1	3.9	4.2
Q16 平均値	3.5	3.6	3.3	3.7	3.7	3.5	3.9	3.7	4.1
Q17 平均値	3.6	3.7	3.4	3.7	3.8	3.7	4.0	3.8	4.1
有効回答数	1,908			2,464			1,645		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究)文化学			(総合教育研究)自然科学			(総合教育研究)日本文化		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.7
Q6 平均値	3.6	3.4	3.7	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0	4.4
Q7 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.6	3.6	3.6	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値	4.2	4.1	4.2	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3
Q10 平均値	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5
Q11 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q12 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	3.9	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値	3.7	3.8	3.6	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.0
有効回答数	4,778			4,605			2,374		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q5 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
Q6 平均値	2.2	2.5	2.2	2.3	2.4	2.2	3.1	3.1	3.0
Q7 平均値	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.2	1.1
Q8 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	3.9	4.4	4.4	4.5
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3	4.5	4.5	4.6
Q10 平均値	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6	4.4	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.1	4.0	4.1	4.2	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5
Q12 平均値	3.8	3.7	3.9	4.0	4.1	4.0	4.4	4.4	4.5
Q13 平均値	4.1	3.9	4.1	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4
Q14 平均値	4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	4.3	4.5	4.5	4.6
Q15 平均値	3.9	3.8	4.0	4.2	4.3	4.1	4.5	4.5	4.6
Q16 平均値	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	3.8	4.5	4.4	4.5
Q17 平均値	3.7	3.6	3.7	3.9	4.0	3.9	4.5	4.4	4.5
有効回答数	16,378			6,719			3,377		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 教職課程		
	専任・非常勤区分	全体	専任
Q5 平均値	4.1	4.1	4.2
Q6 平均値	3.8	3.8	3.9
Q7 平均値	1.2	1.2	1.1
Q8 平均値	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値	4.4	4.4	4.4
Q10 平均値	4.5	4.6	4.4
Q11 平均値	4.3	4.3	4.3
Q12 平均値	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値	4.1	4.2	4.1
Q14 平均値	4.3	4.4	4.3
Q15 平均値	4.2	4.2	4.2
Q16 平均値	4.0	4.0	3.9
Q17 平均値	4.0	4.0	4.0
有効回答数	4,140		

Ⅱ. 学年別平均値

表 4、5 は、アンケート質問項目の学年別平均値を示したものである。Q 5 と Q 6 については、前期後期とも学年ごとに差が見られるが、Q 7～Q 17 については前期後期とも学年ごとの差は見られない。

表 4 学年別平均値（前期実施科目）

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	その他
Q5 平均値	4.2	3.9	3.8	3.5	0.0
Q6 平均値	2.6	3.1	3.7	3.8	0.0
Q7 平均値	1.3	1.3	1.2	1.3	0.0
Q8 平均値	4.0	3.8	3.8	3.9	0.0
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	0.0
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.6	0.0
Q11 平均値	4.2	4.2	4.2	4.4	0.0
Q12 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	0.0
Q13 平均値	4.1	4.0	4.0	4.1	0.0
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	0.0
Q15 平均値	4.1	4.0	4.0	4.2	0.0
Q16 平均値	3.9	3.8	3.8	4.0	0.0
Q17 平均値	3.9	3.8	3.9	4.1	0.0
有効回答数	20,971	14,553	7,294	3,346	0

表 5 学年別平均値（後期実施科目）

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	その他
Q5 平均値	4.1	3.9	3.6	3.2	3.8
Q6 平均値	2.8	3.2	3.7	3.7	4.0
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3
Q8 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.5
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.2	4.2	4.3	4.3
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3
Q14 平均値	4.1	4.2	4.2	4.3	5.0
Q15 平均値	4.0	4.0	4.0	4.2	4.5
Q16 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9
Q17 平均値	3.8	3.8	3.8	4.0	4.6
有効回答数	24,365	17,963	11,062	3,807	8

Ⅲ. 入試形態別平均値

表 6、7 はアンケートの質問項目の入試形態別平均値を示したものである。比較的、留学生特別入試での入学者が高い数値を示しているようである。

表 6 入試形態別平均値（前期実施科目）

入試形態	一般入試	大学入試センター試験利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q5 平均値	4.0	3.9	4.1	3.7	4.1	3.9	4.6	3.9	3.9	3.7	3.8
Q6 平均値	3.0	3.0	3.0	2.8	3.0	3.0	3.4	3.3	3.3	2.9	3.1
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.6	1.4	1.4	1.5	1.5
Q8 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9	4.0	4.2	4.0	4.0	3.9	3.9
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.5	4.3	4.4	4.5	4.2
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	4.6	4.4
Q11 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.4	4.1	4.4	4.3	4.1
Q12 平均値	4.0	4.0	3.9	4.0	3.9	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	3.8
Q13 平均値	4.1	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	4.3	4.0	4.1	4.1	3.9
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.2	4.3	4.2	4.1
Q15 平均値	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	4.2	4.0	4.2	3.9	3.9
Q16 平均値	3.9	3.9	3.7	3.9	3.7	3.8	4.1	4.0	3.9	3.7	3.6
Q17 平均値	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	3.7	3.7
有効回答数	24,703	4,018	4,770	1,399	4,753	4,738	595	93	342	152	601

表 7 入試形態別平均値（後期実施科目）

入試形態	一般入試	大学入試センター 試験利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q5 平均値	3.9	3.9	4.0	3.6	3.9	3.9	4.2	3.3	3.6	3.9	4.1
Q6 平均値	3.1	3.1	3.1	3.0	3.1	3.1	3.4	3.6	3.0	3.3	3.1
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.6	1.5	1.4	1.4	1.4
Q8 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	3.8	3.8	4.2	3.5	4.0	3.8	3.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.5	4.3	4.3	4.4	4.1
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.6	4.3	4.4	4.5	4.2
Q11 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.4	4.1	4.3	4.4	4.0
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	4.2	3.8	4.2	3.9	3.7
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.3	3.8	4.1	4.1	3.8
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.0	4.3	4.3	4.0
Q15 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	3.9	4.2	4.0	3.8
Q16 平均値	3.8	3.8	3.7	3.8	3.6	3.8	4.0	3.5	4.0	3.7	3.5
Q17 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.8	4.0	3.6	4.1	3.9	3.6
有効回答数	30,450	4,950	6,287	1,669	6,061	5,380	721	86	453	271	877

IV. 氏名公開の可否別平均値

授業改善に対する学生の誠実、真剣な意見・要望を集約できるようにするために、学生が氏名公開をするかしないかを選択できるようにした。氏名を公開するを選択した学生は、公開することによって不利になるようなことがない学生であると考えられる。学生がもっと真剣にアンケートに答えるよう今後分析結果方法に改善の余地があると思われる。

表 8 氏名公開の可否別の平均値
(前期実施科目)

公開の可否	公開する	公開しない
Q5 平均値	4.0	4.0
Q6 平均値	3.0	3.0
Q7 平均値	1.3	1.3
Q8 平均値	4.1	3.8
Q9 平均値	4.5	4.3
Q10 平均値	4.6	4.4
Q11 平均値	4.4	4.2
Q12 平均値	4.2	3.9
Q13 平均値	4.3	4.0
Q14 平均値	4.5	4.2
Q15 平均値	4.3	4.0
Q16 平均値	4.1	3.8
Q17 平均値	4.2	3.8
有効回答数	9,388	36,776

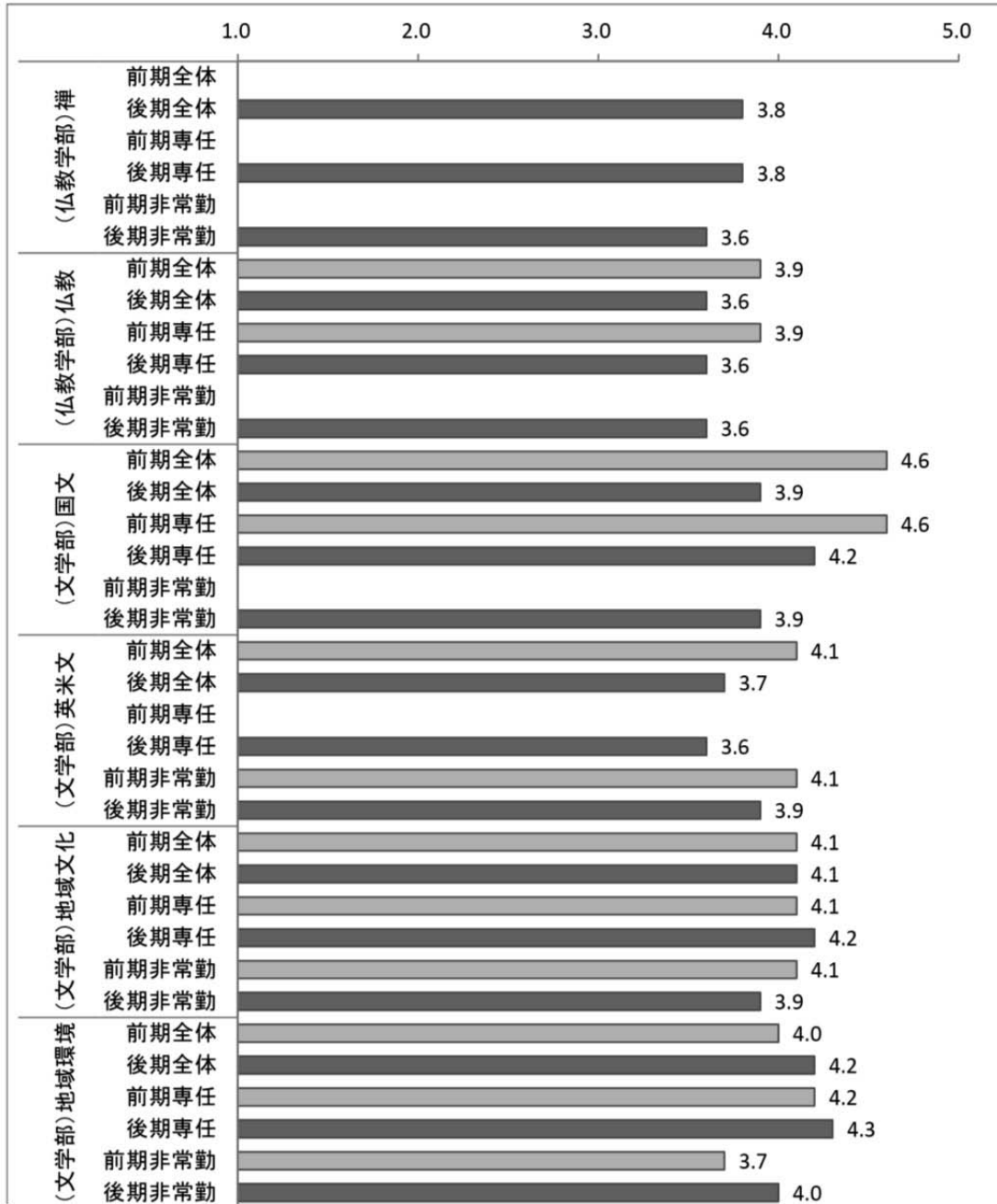
表 9 氏名公開の可否別の平均値
(後期実施科目)

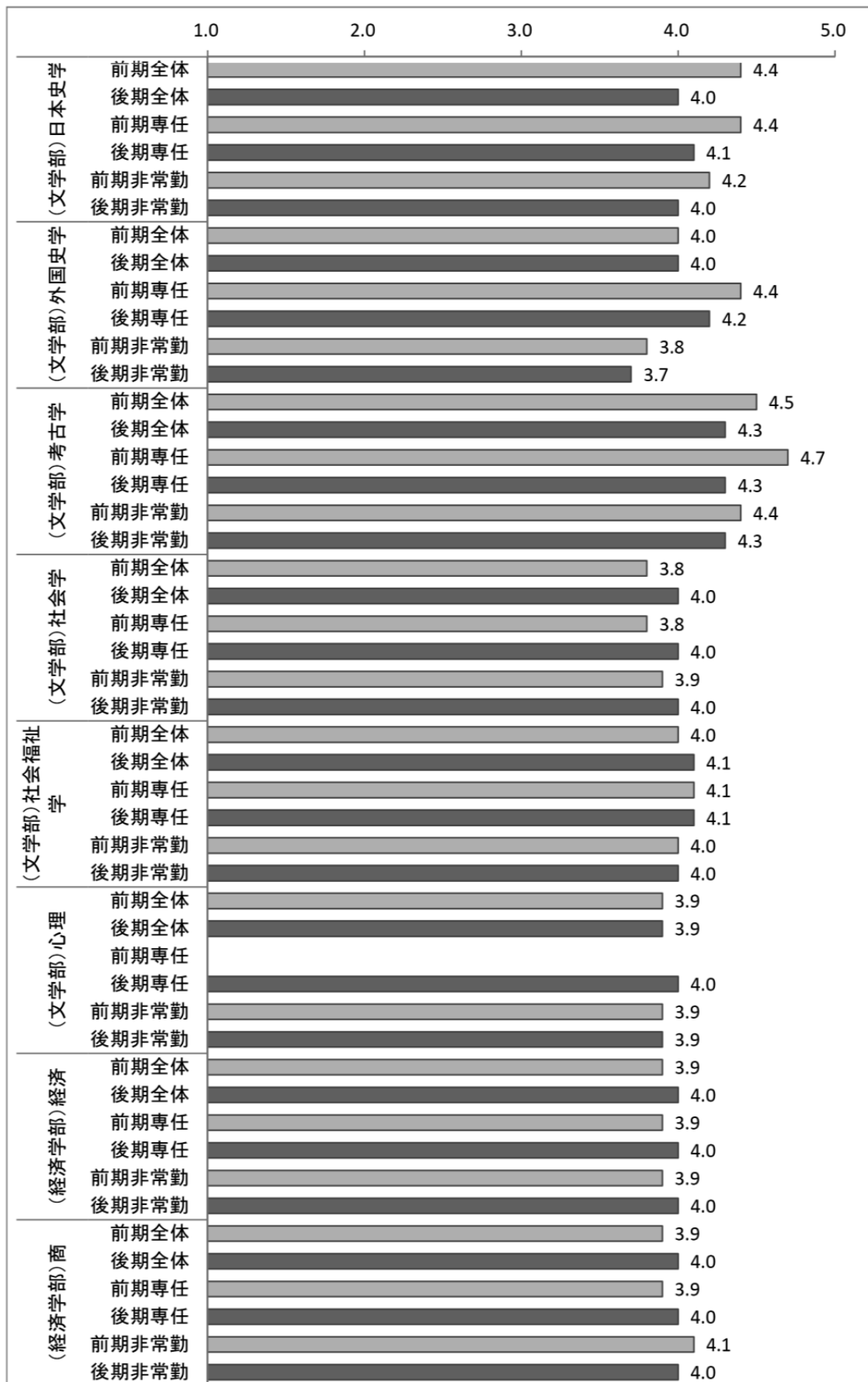
公開の可否	公開する	公開しない
Q5 平均値	3.9	3.9
Q6 平均値	3.2	3.1
Q7 平均値	1.3	1.3
Q8 平均値	4.0	3.7
Q9 平均値	4.5	4.2
Q10 平均値	4.5	4.3
Q11 平均値	4.4	4.1
Q12 平均値	4.2	3.9
Q13 平均値	4.3	3.9
Q14 平均値	4.4	4.1
Q15 平均値	4.3	3.9
Q16 平均値	4.0	3.7
Q17 平均値	4.1	3.7
有効回答数	9,390	47,815

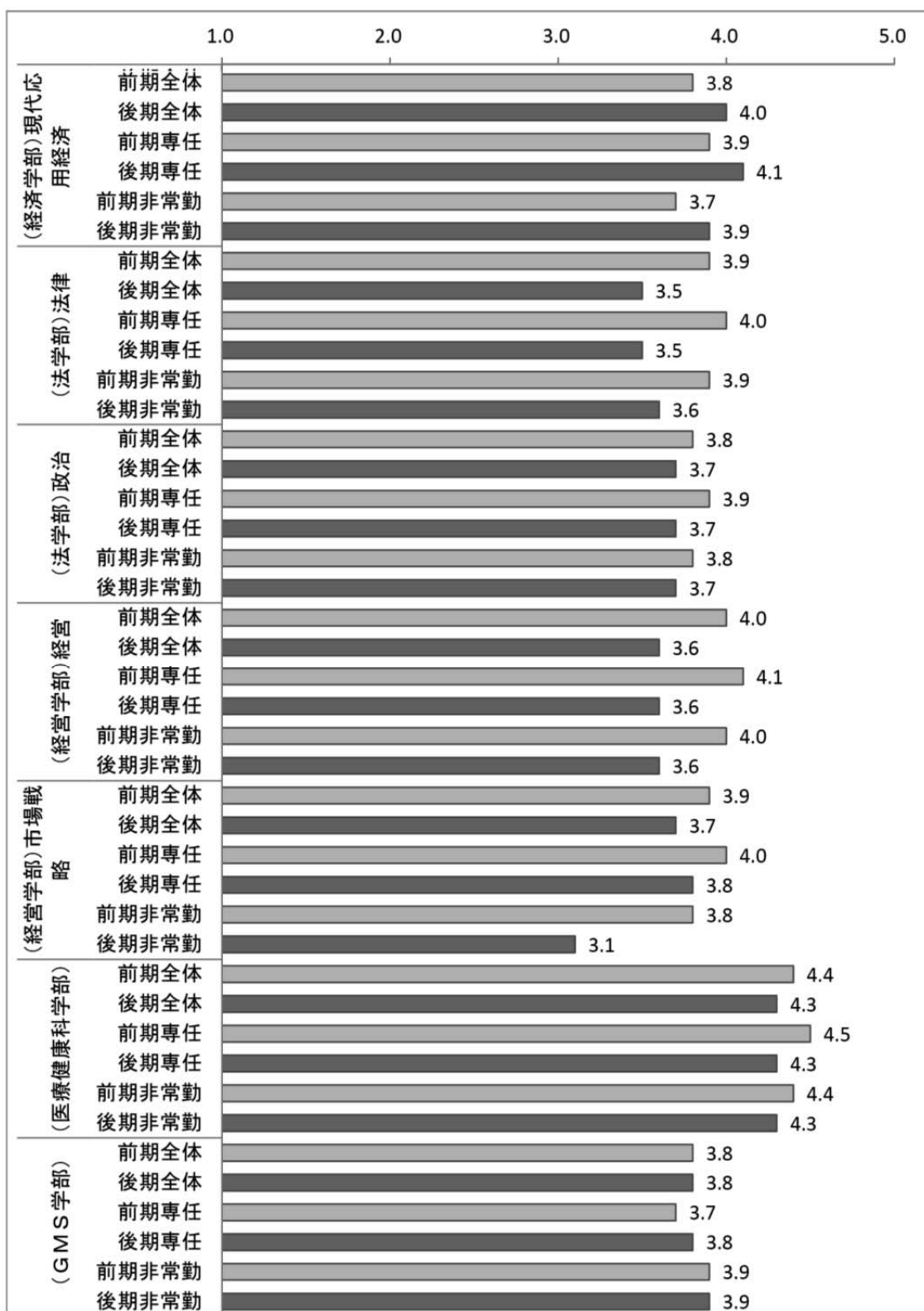
(4) 受講生の講義への取り組み

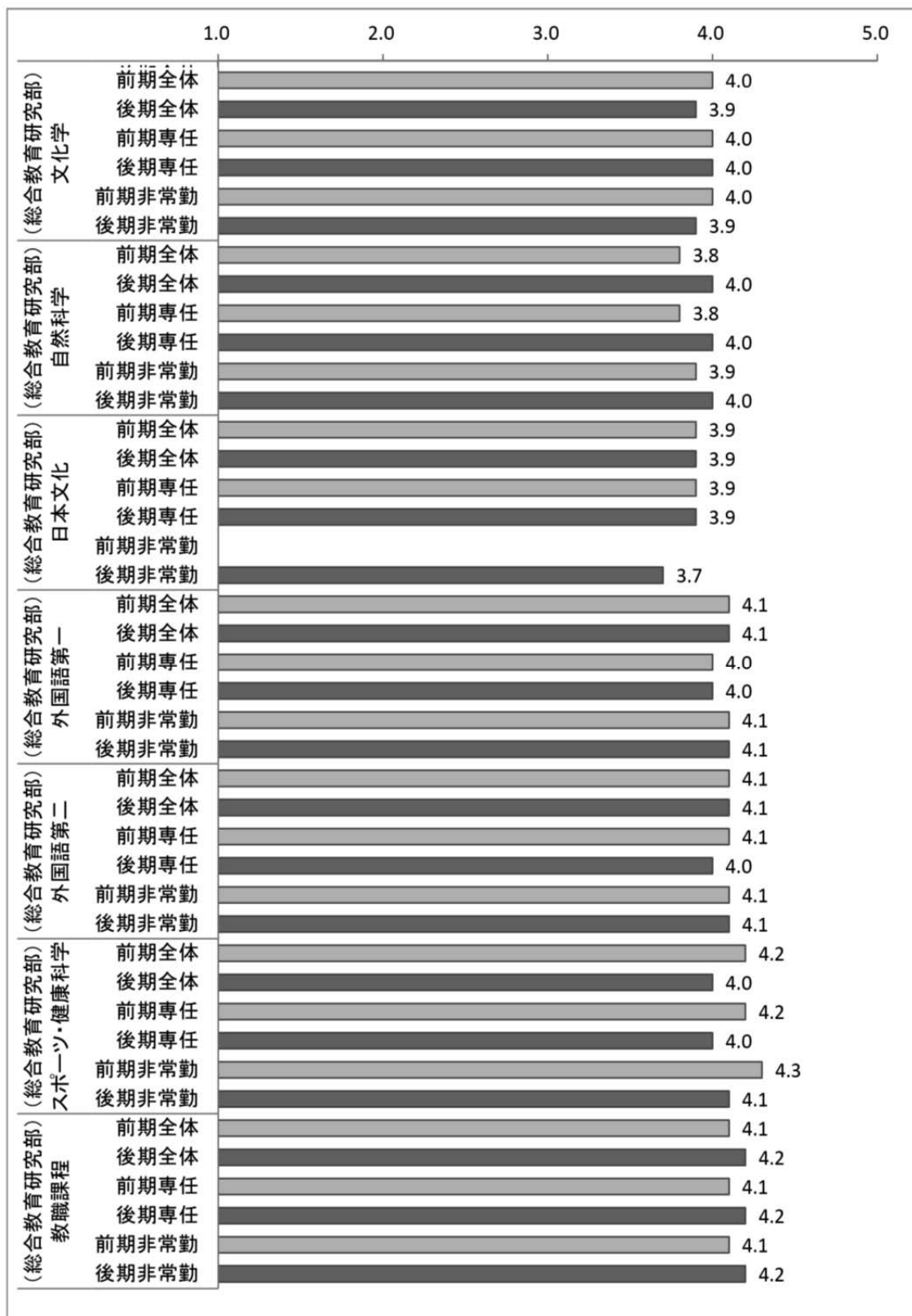
「受講生の講義への取り組み」に関しては、(3) 項目別平均値における(学)部・学科・部門別の全体・専任・非常勤別平均値を提示している。なお、各グラフには前期実施科目と後期実施科目の平均値を掲載している。各アンケート項目は5段階評価で、ポイントが大きいほど良い評価となっている。

I. Q5. この授業に何回欠席しましたか。
5:0回 4:1~2回 3:3~4回 2:5~6回 1:7回以上





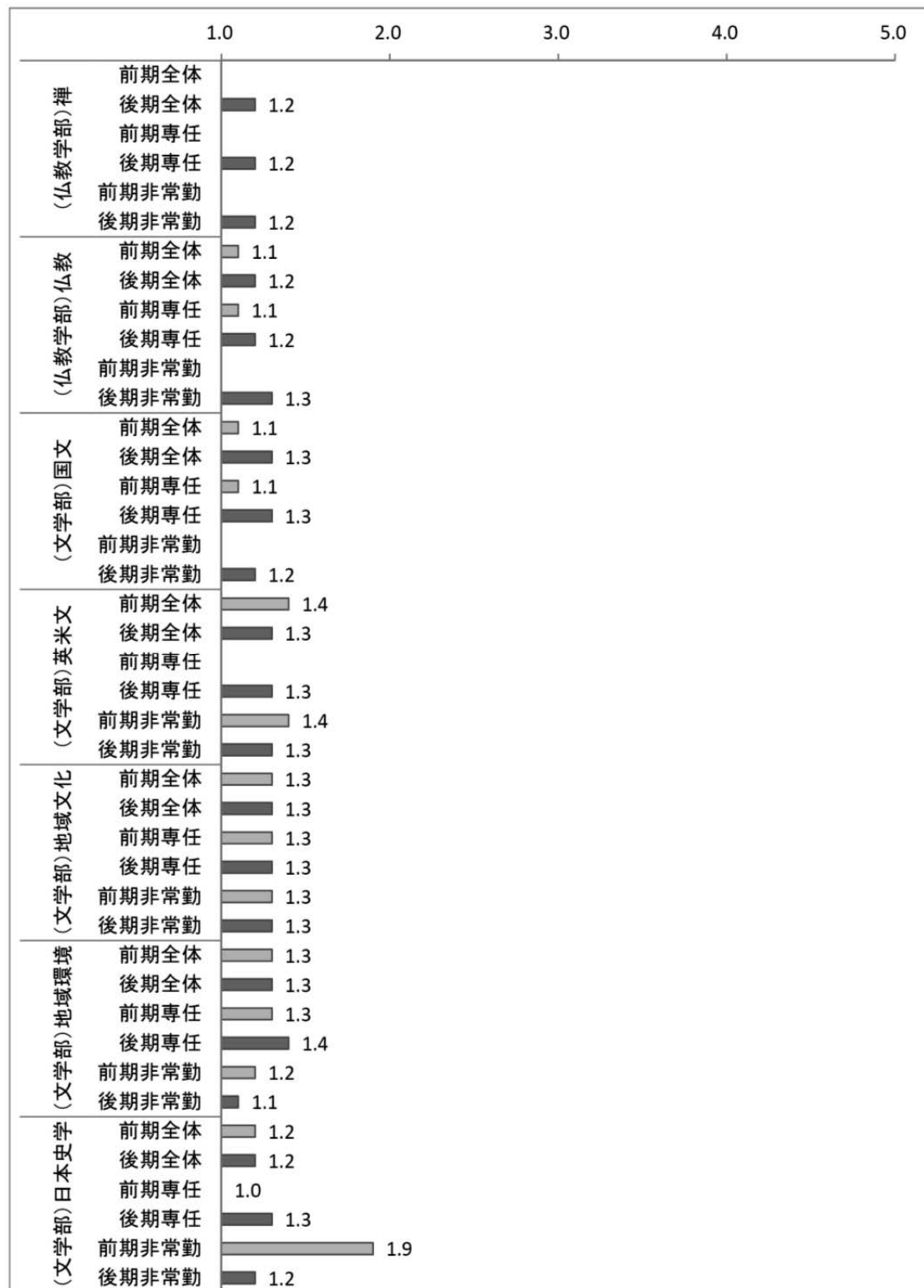


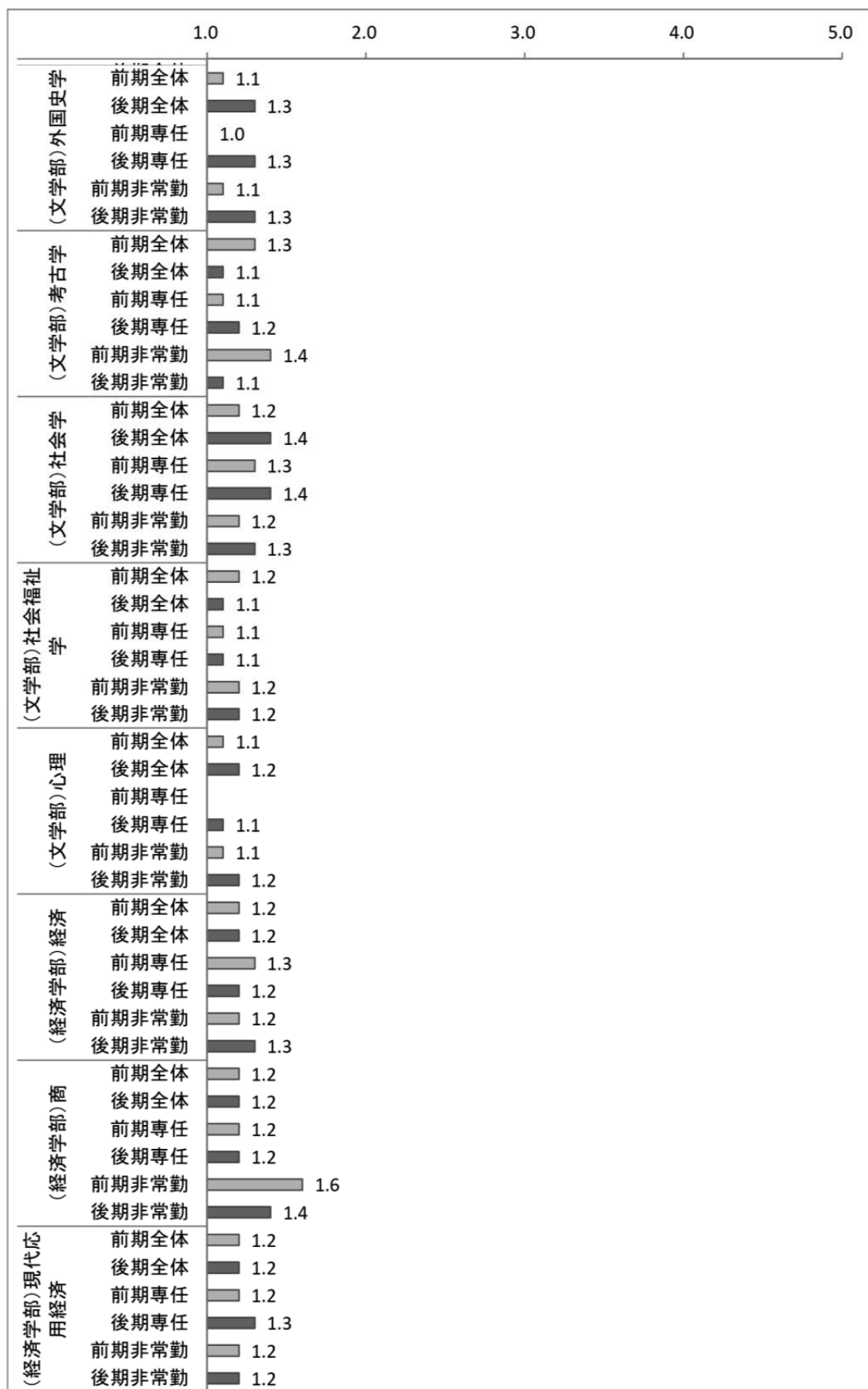


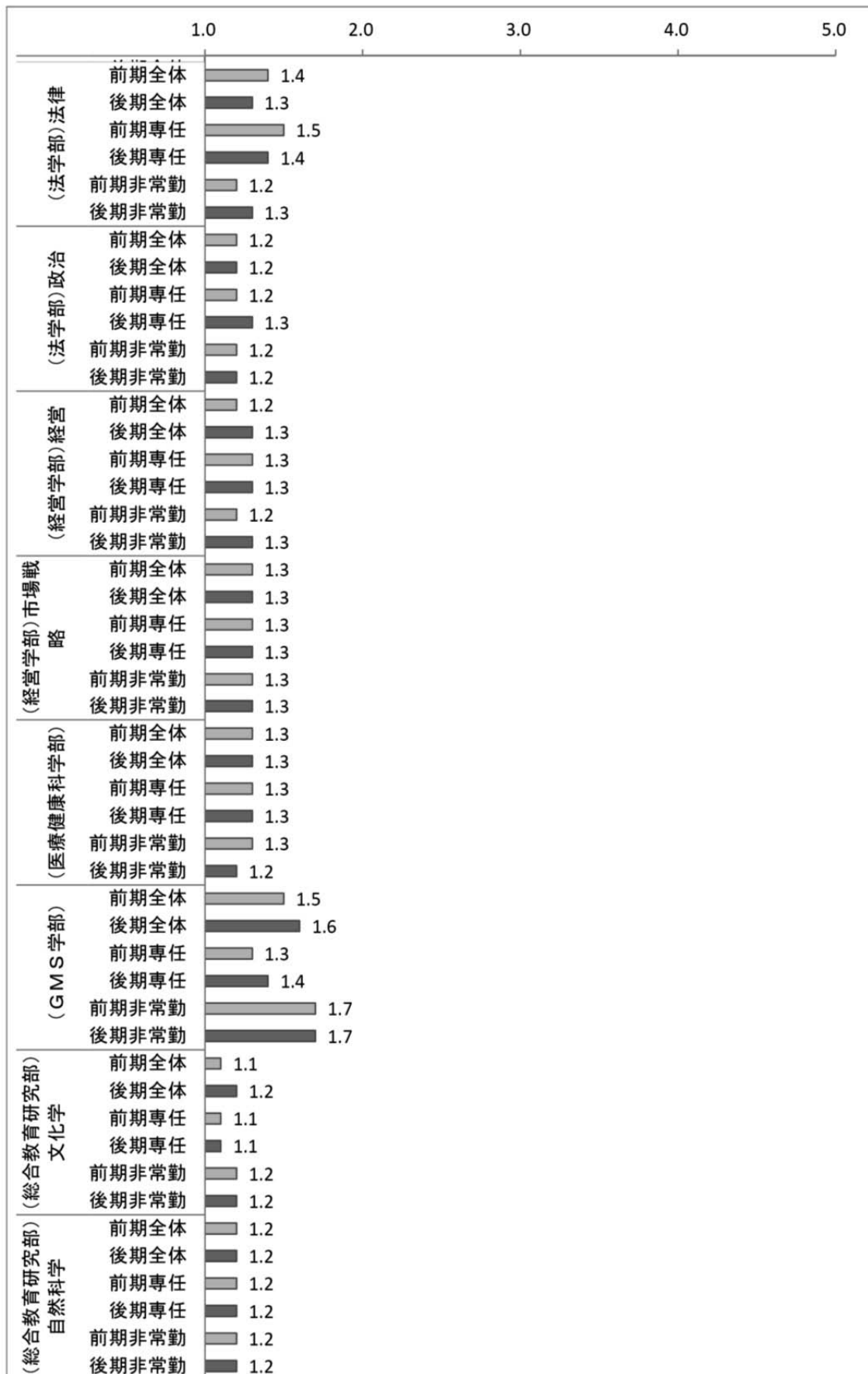
Ⅱ. Q7. この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいでしたか。

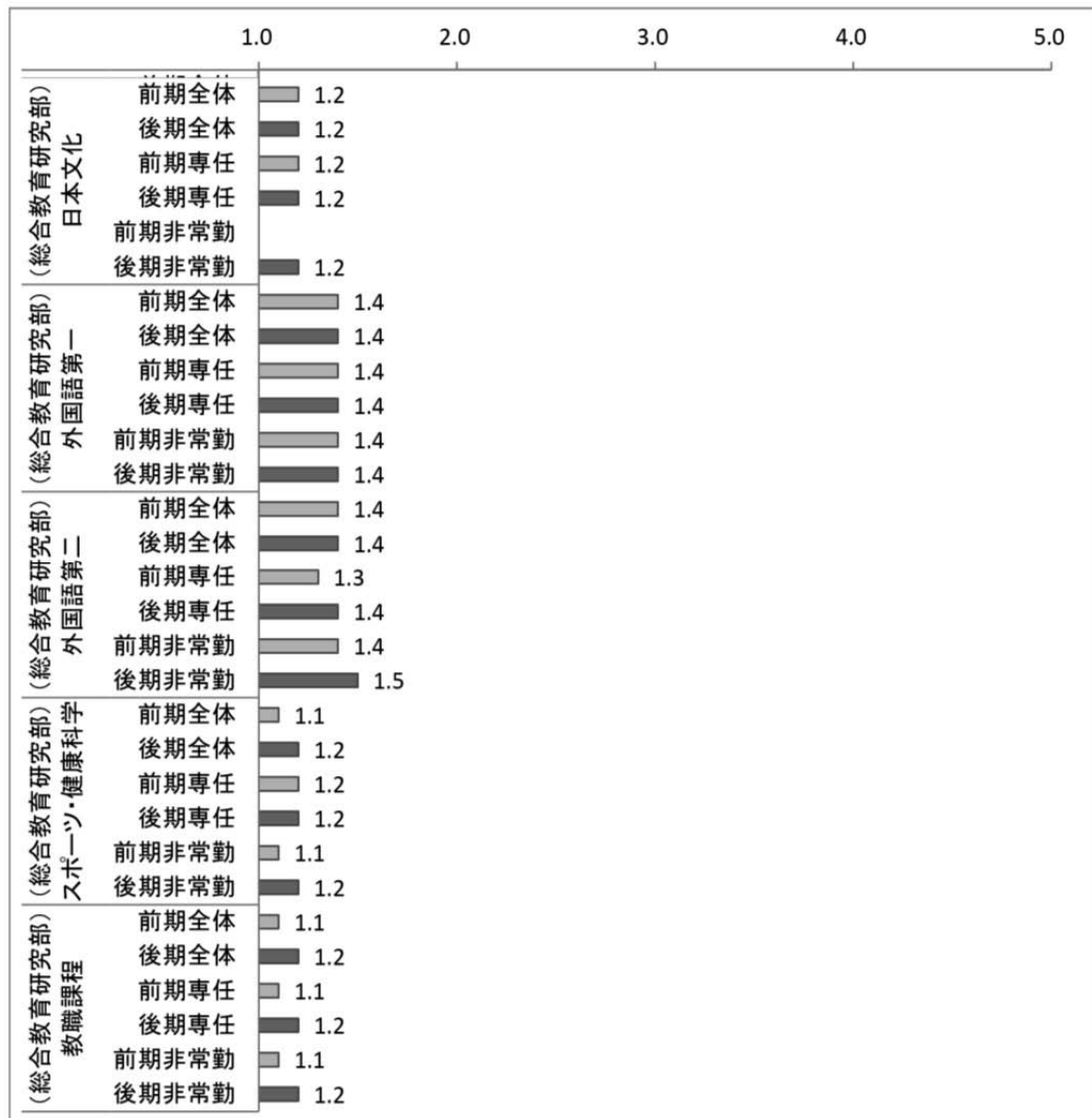
5: 4時間以上 4: 約4時間 3: 約3時間 2: 約2時間 1: 1時間未満

昨年度と同様に、ほとんどの学部において1ポイント台であり、受講科目についての授業以外での学習時間が週に1時間程度にとどまっていることがわかる。





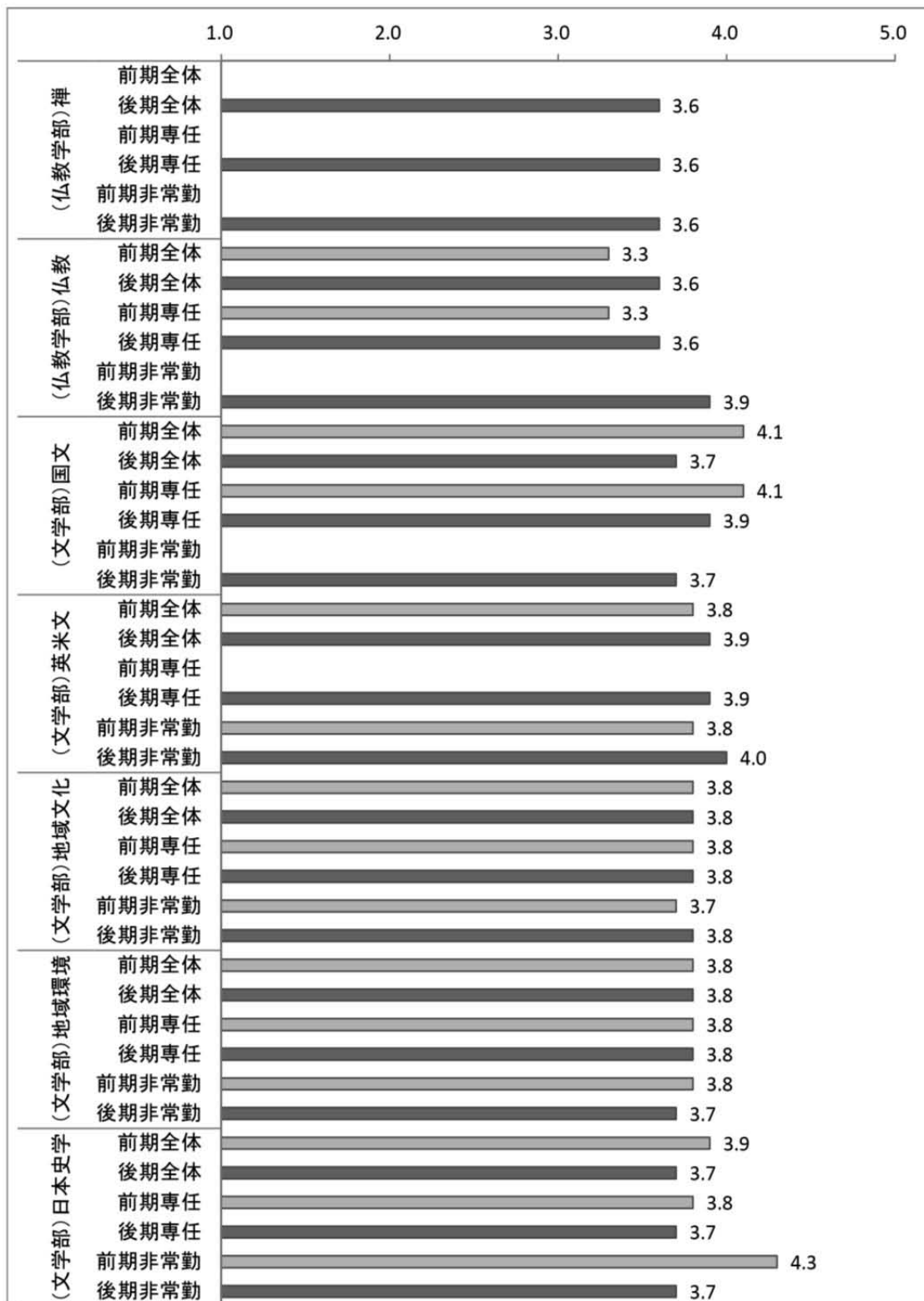


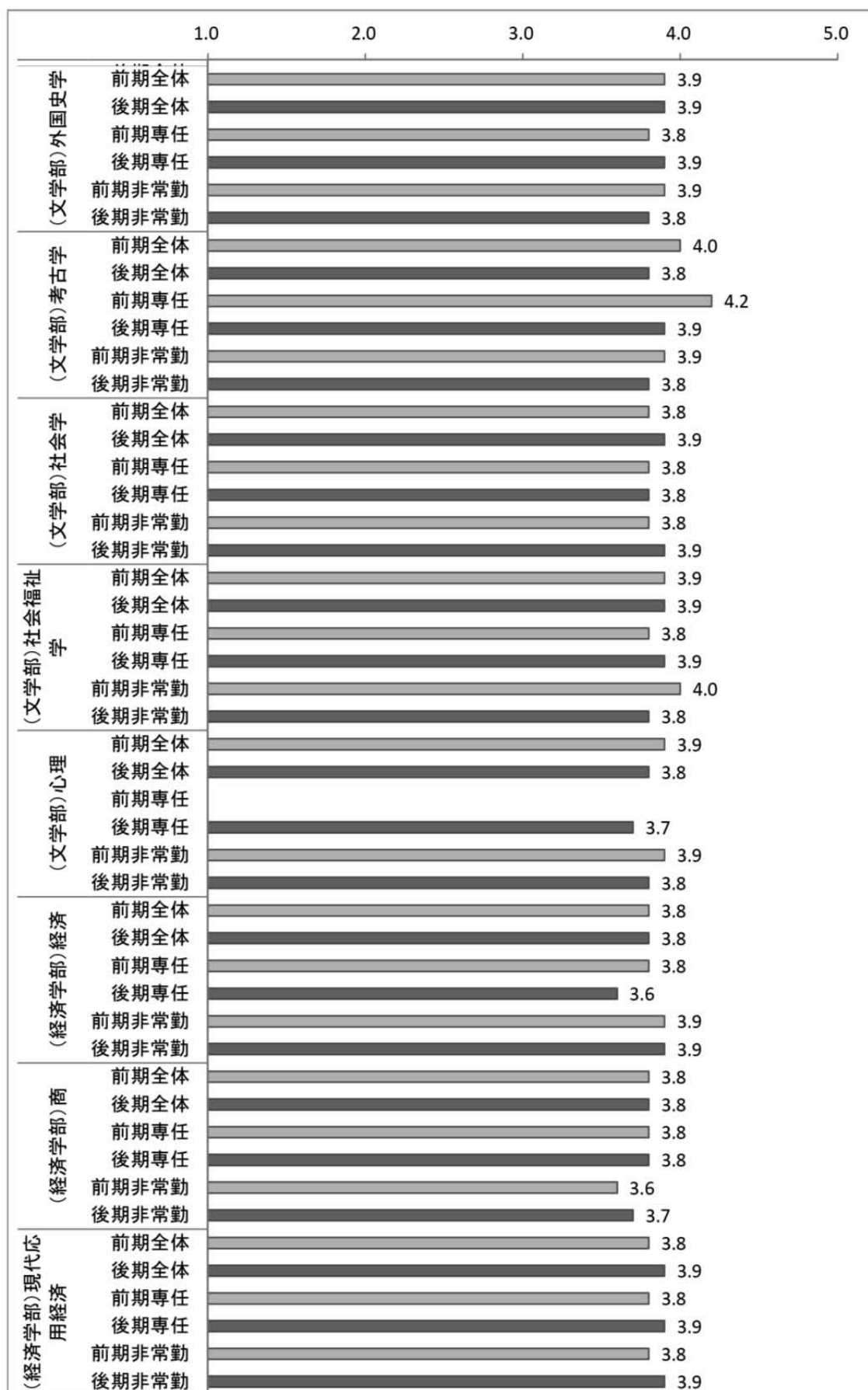


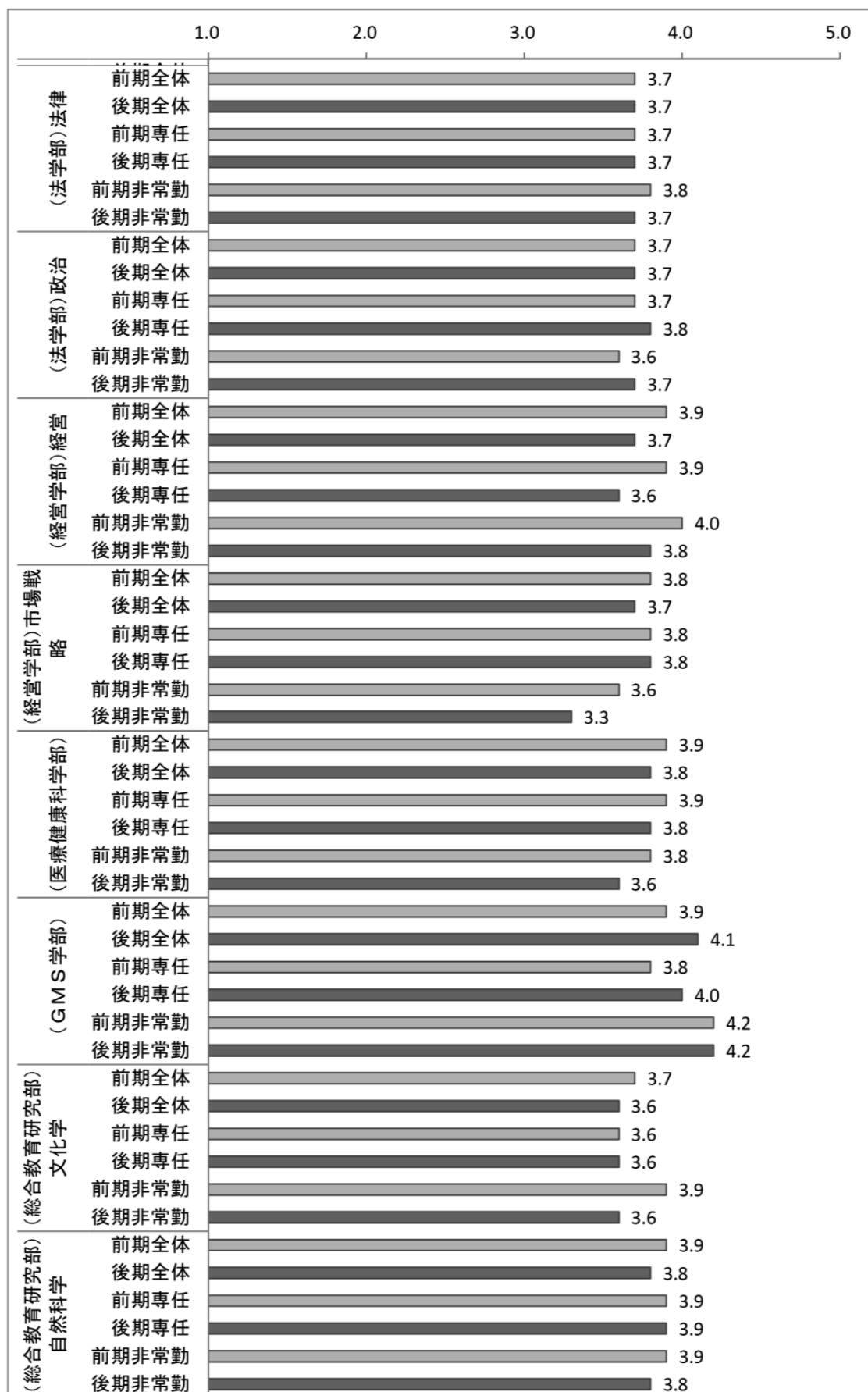
Ⅲ. Q 8. 授業に熱心に取り組みましたか。

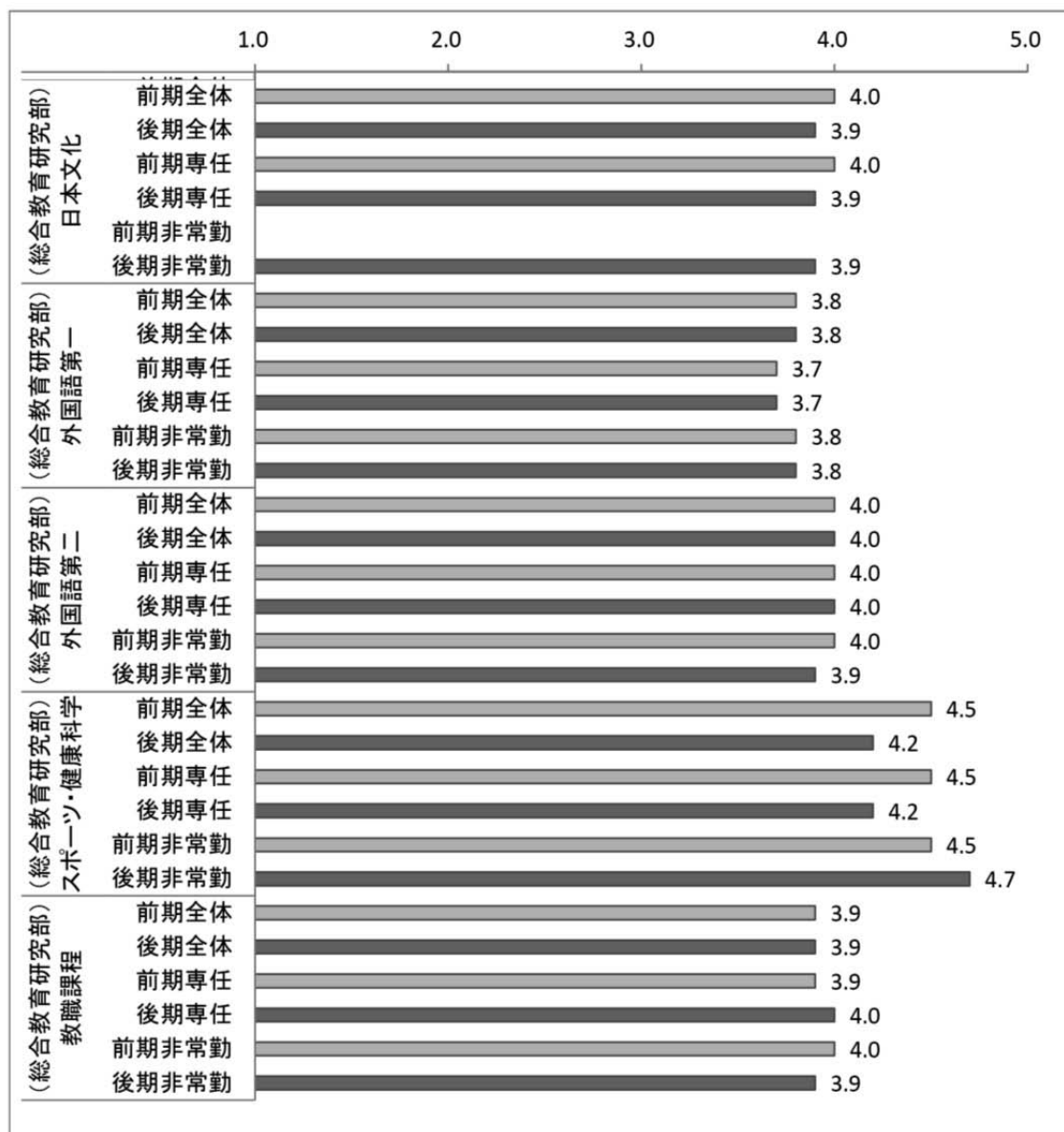
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

3 ポイント台後半に推移しており、熱心に取り組んだ傾向にあると思われる。







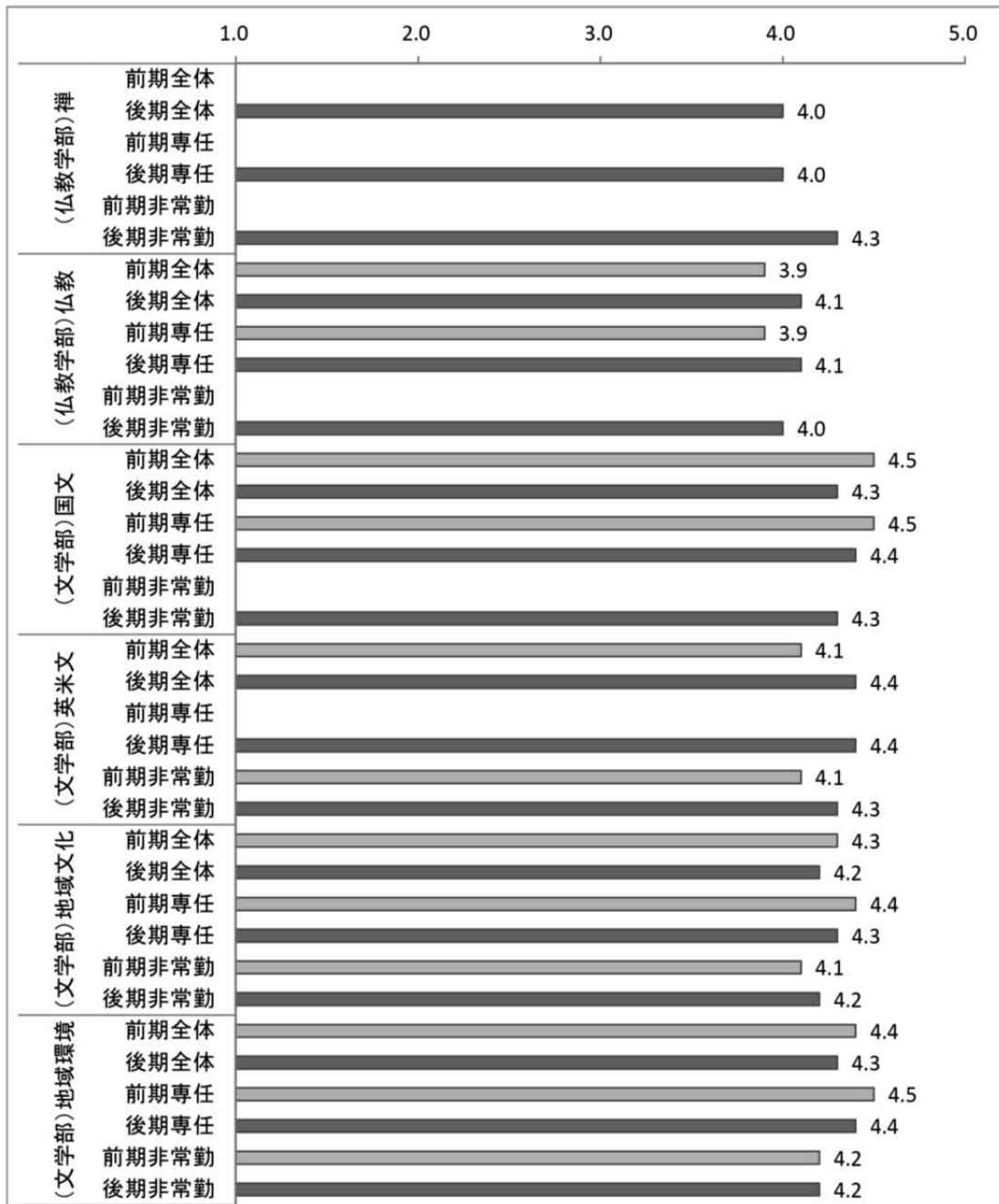


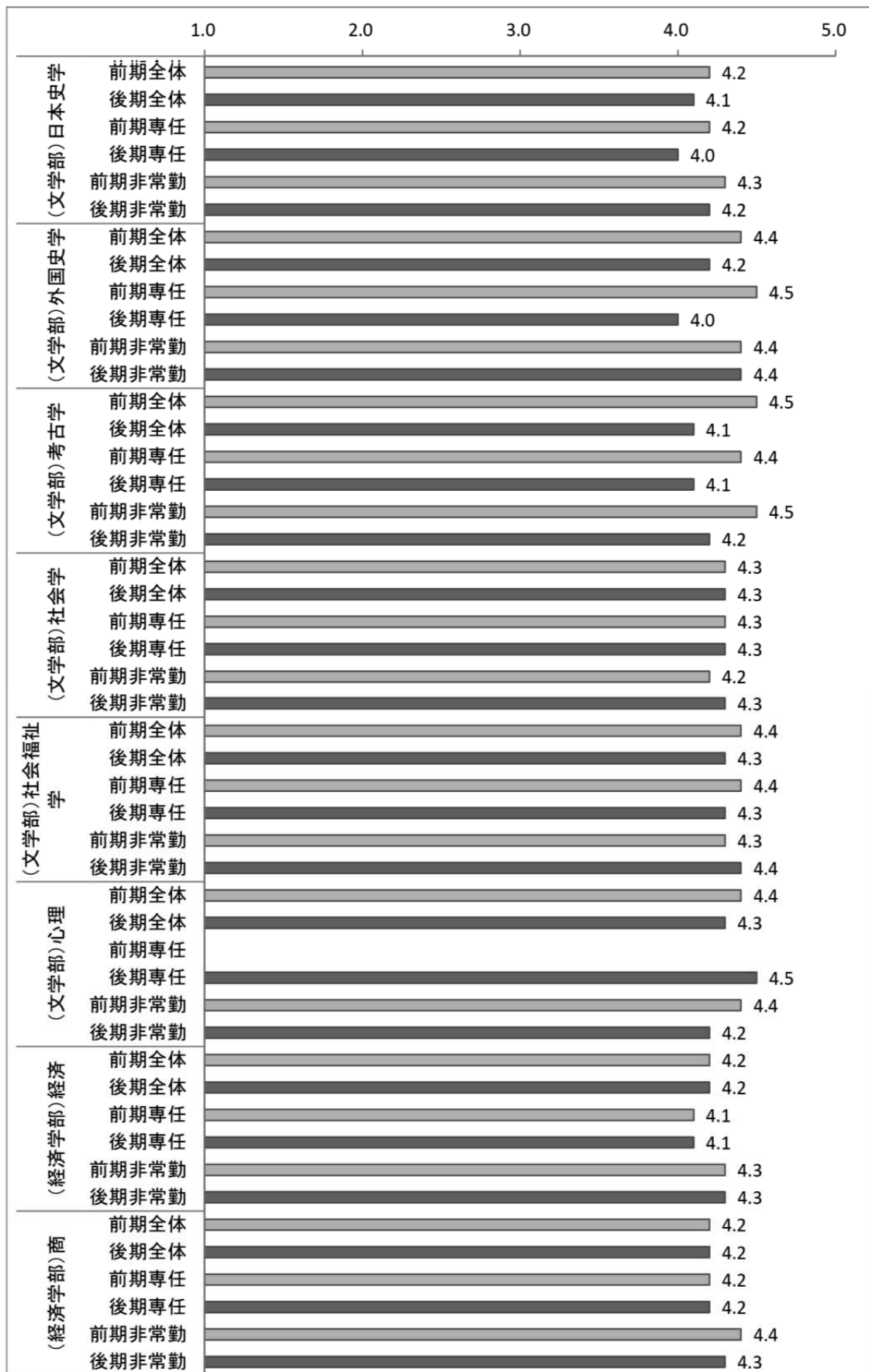
(5) 授業についての評価

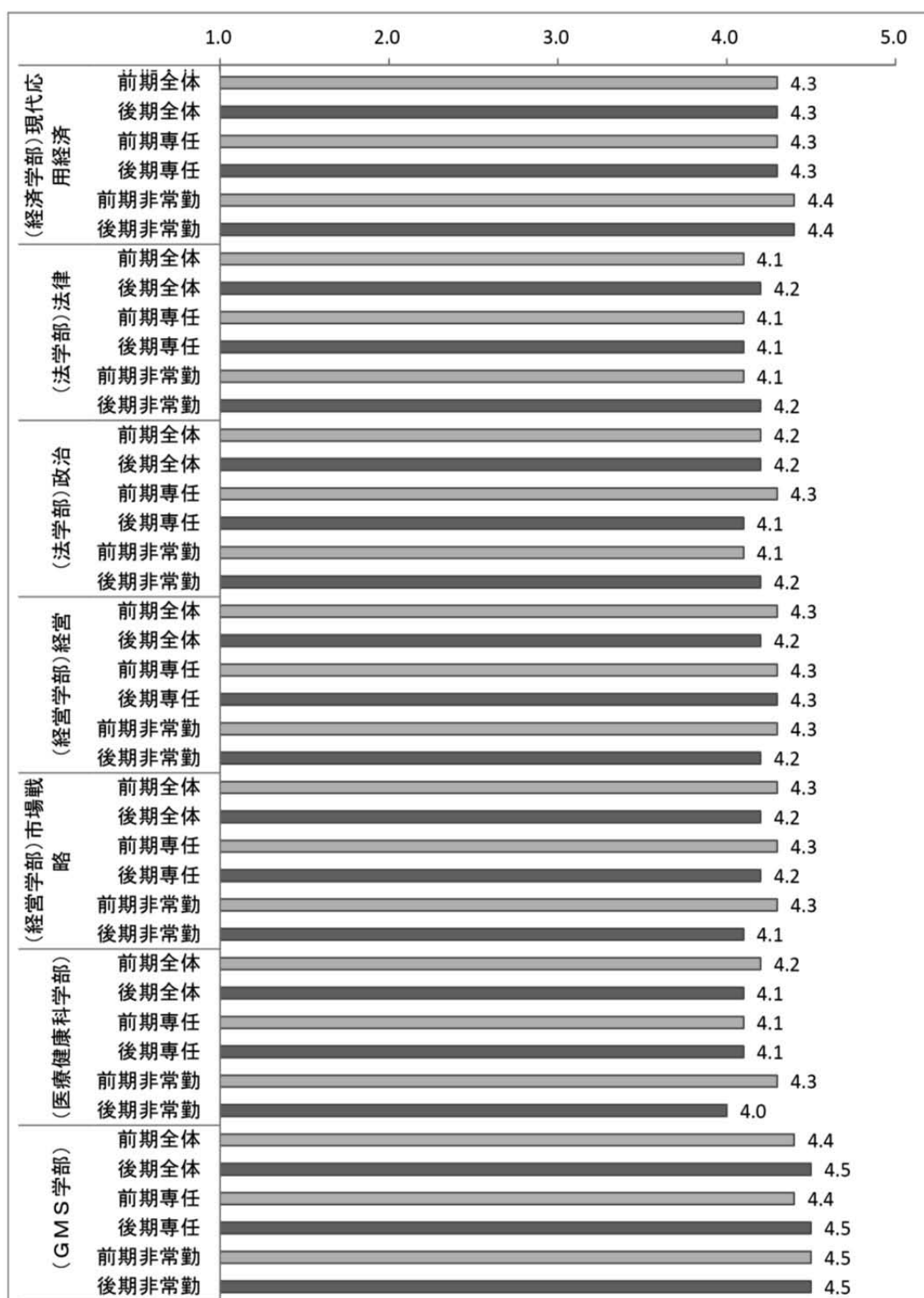
「授業についての評価」に関しては、(3) 項目別平均値における(学)部・学科・部門別専任・非常勤別平均値に基づき、授業の開始時刻・終了時刻(Q9)、休講(Q10)、シラバス内容の反映(Q11) 授業の進み方(Q12)、教材・資料・機材等の使い方(Q13)、授業に対する教員の取り組み(Q14)、授業の教え方のわかりやすさ(Q15)、授業内容の理解度(Q16)、授業内容への興味(Q17)を検討した。

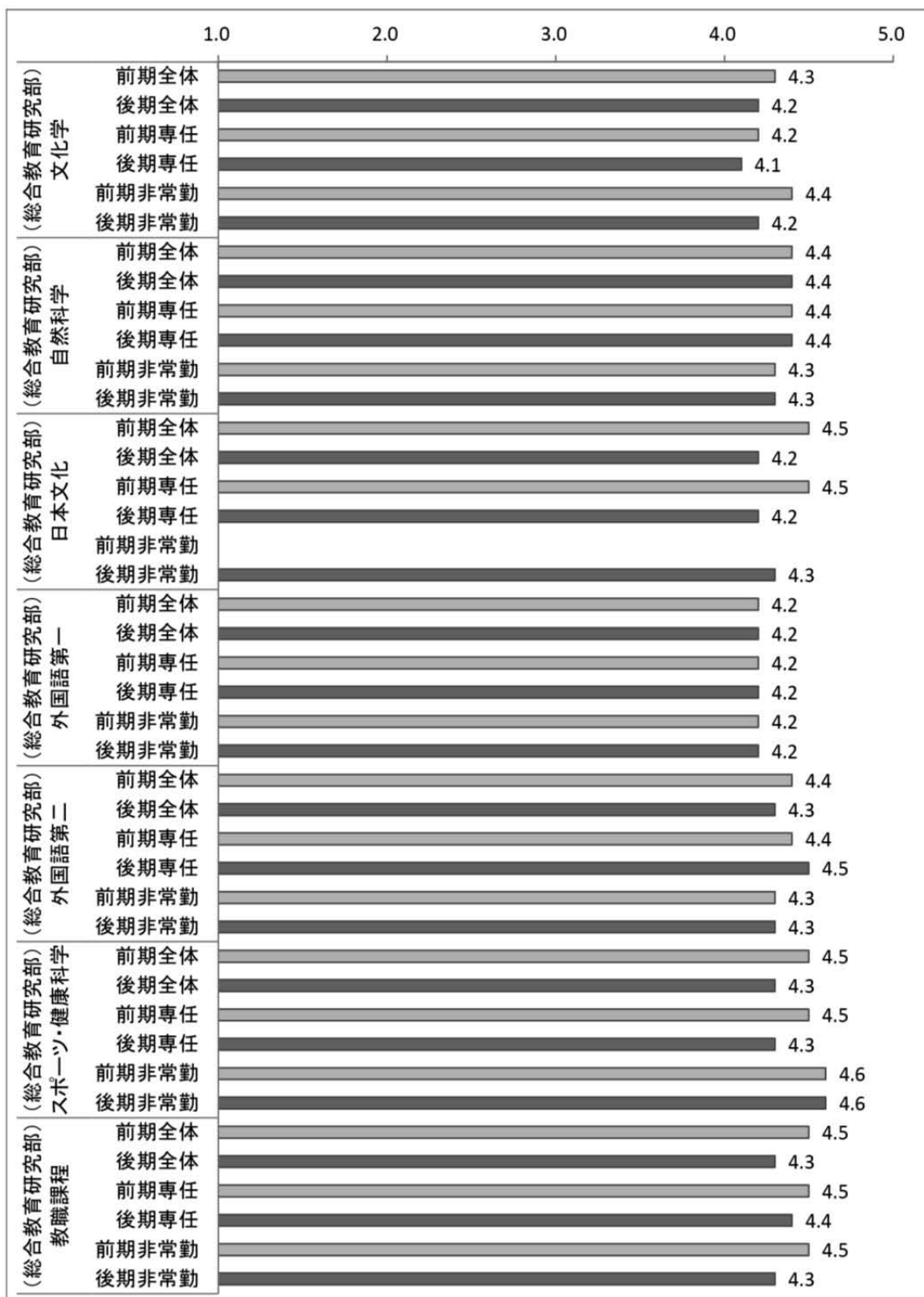
I. Q9. 授業はほぼ定刻通りに行われていましたか。
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

ほとんどの学部において、定刻通りに行われていたことがわかる。





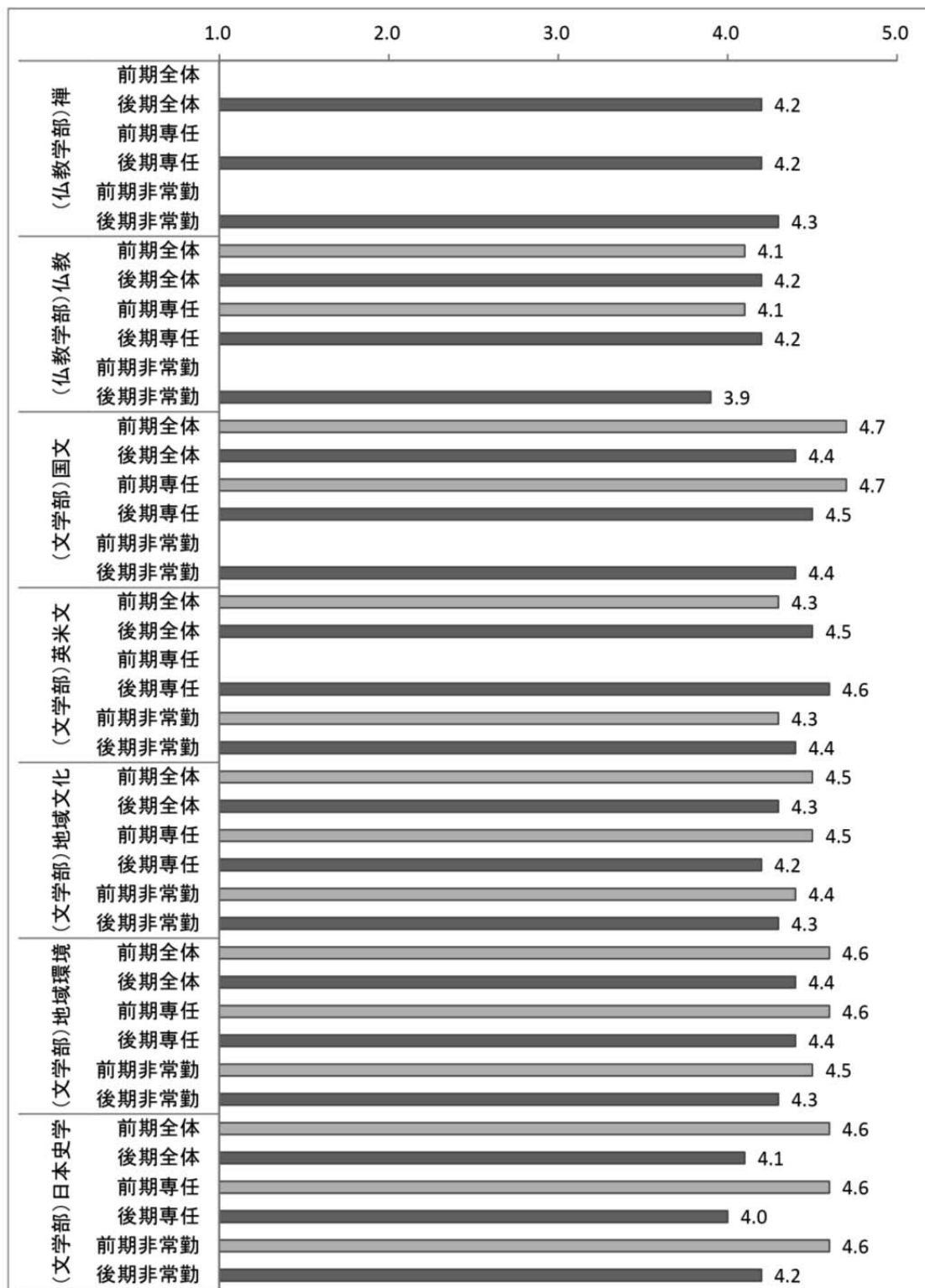


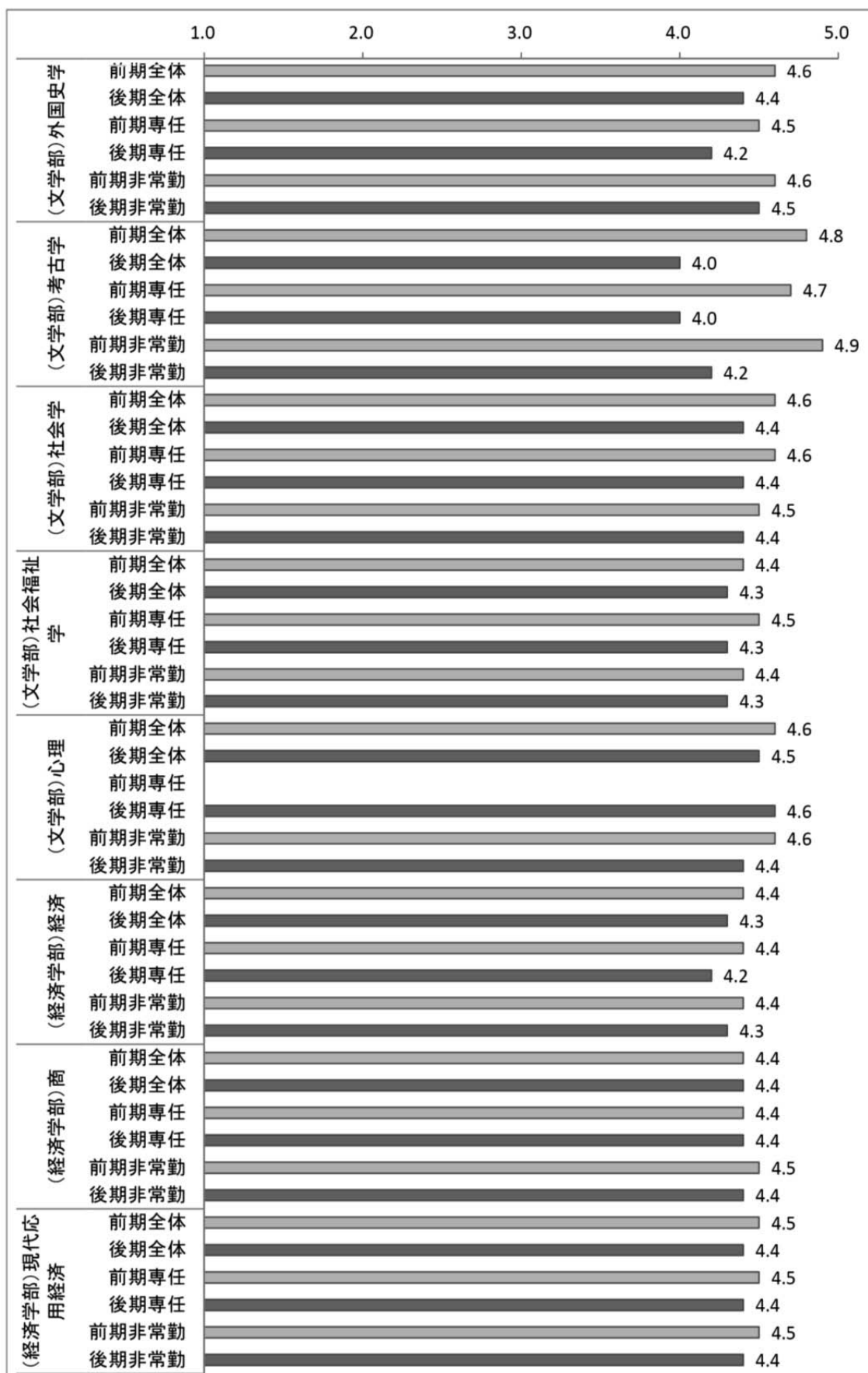


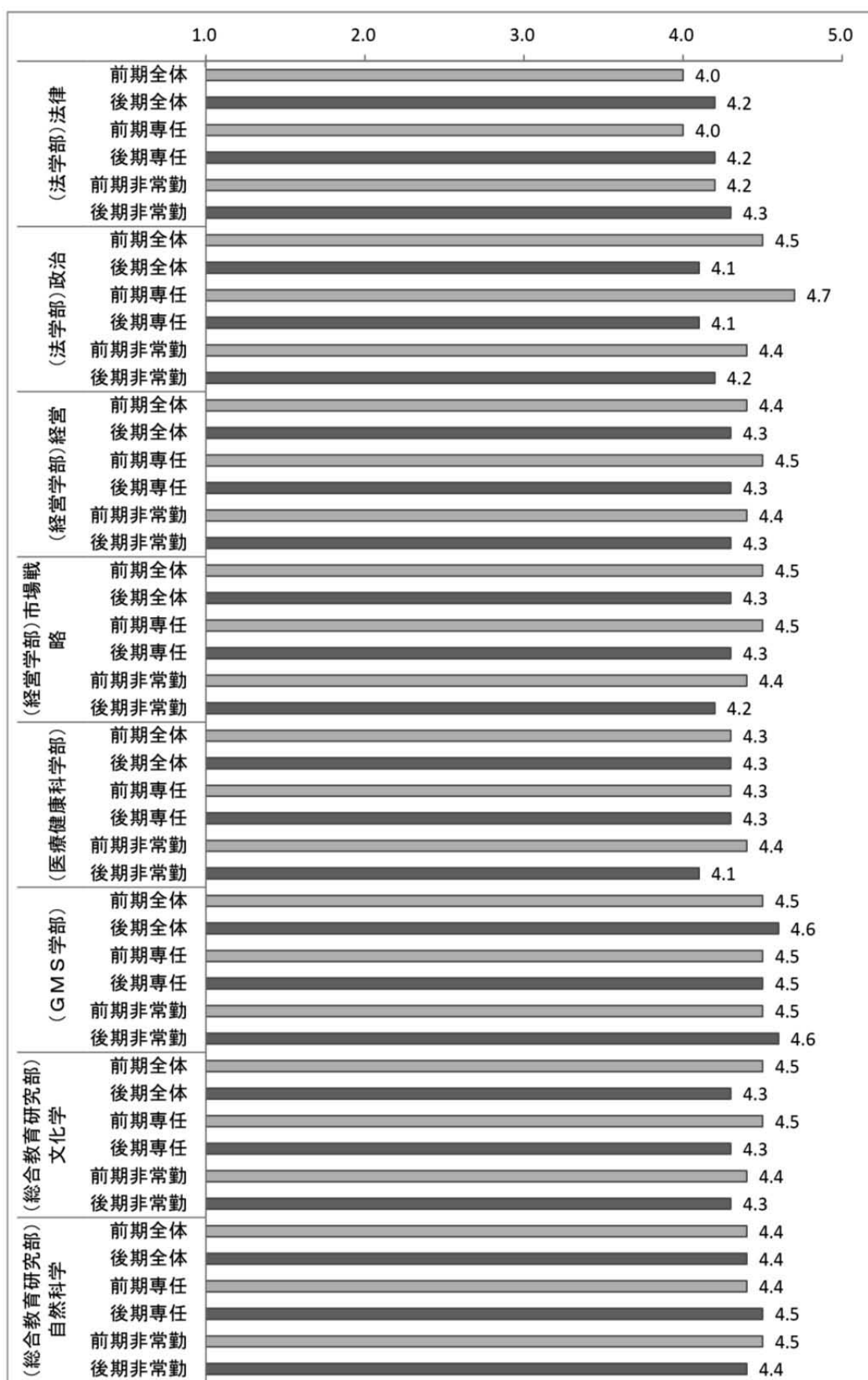
Ⅱ. Q10. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。

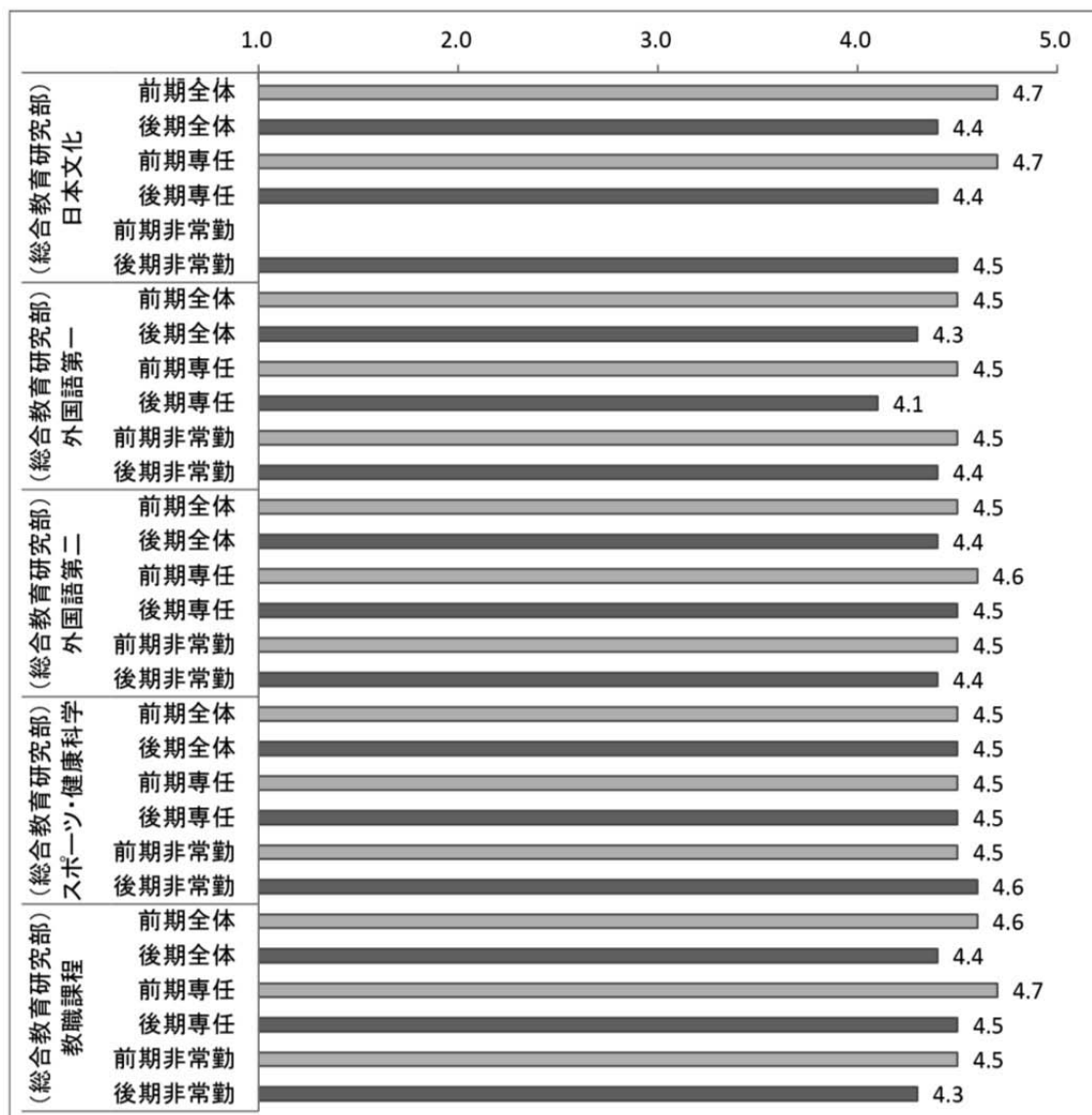
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

ほとんどの学部において、通常通り授業が実施されていたことがわかる。





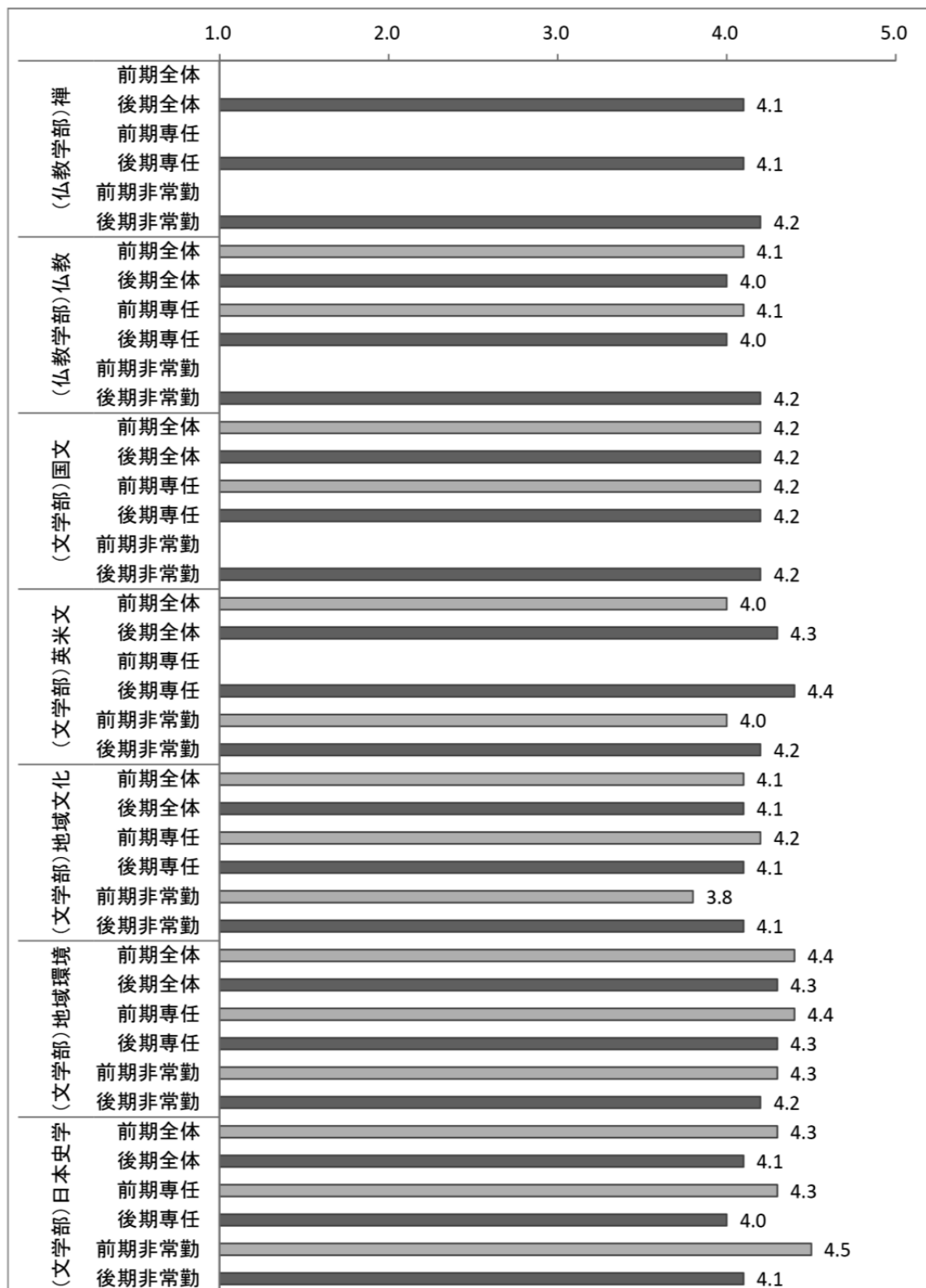


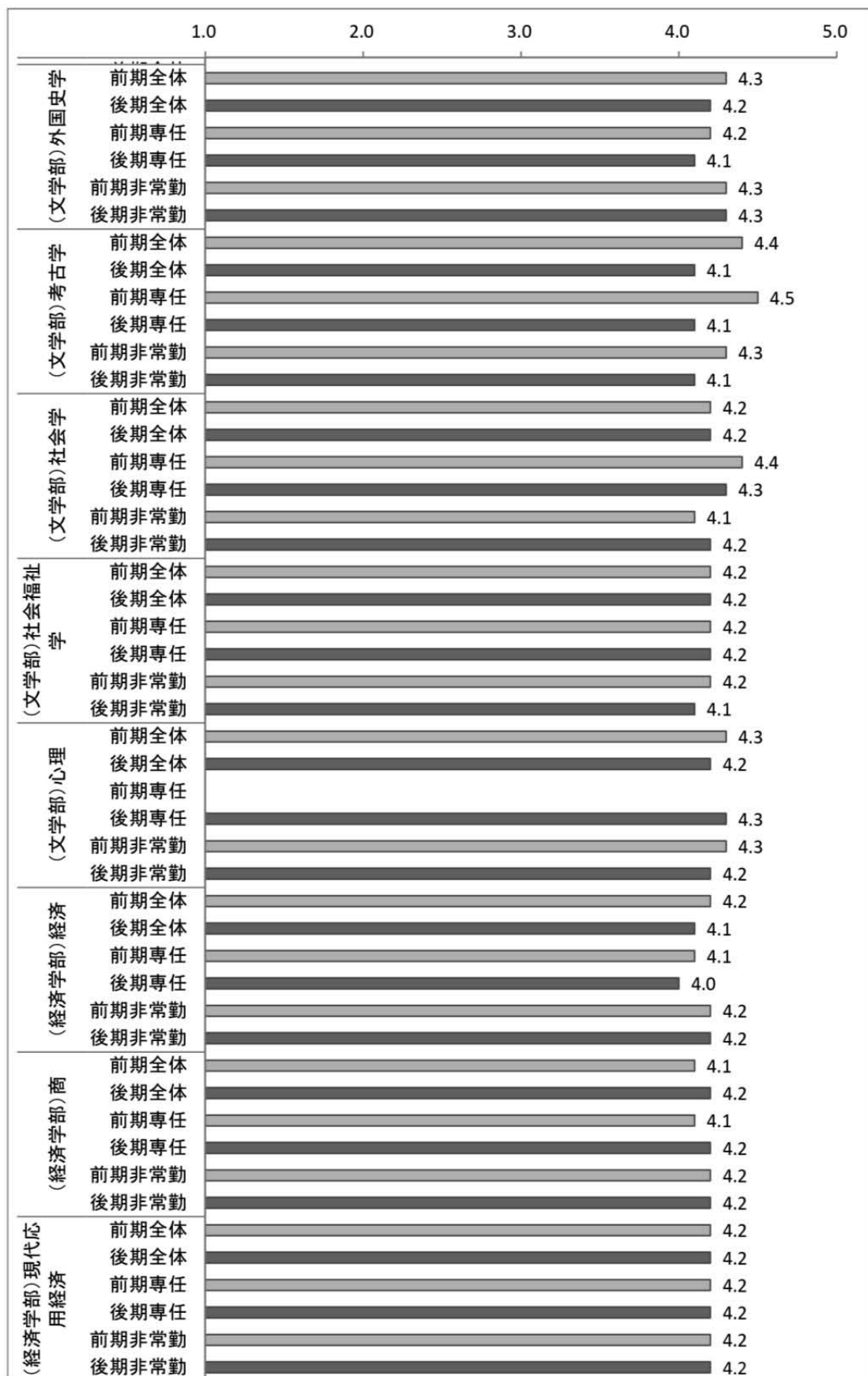


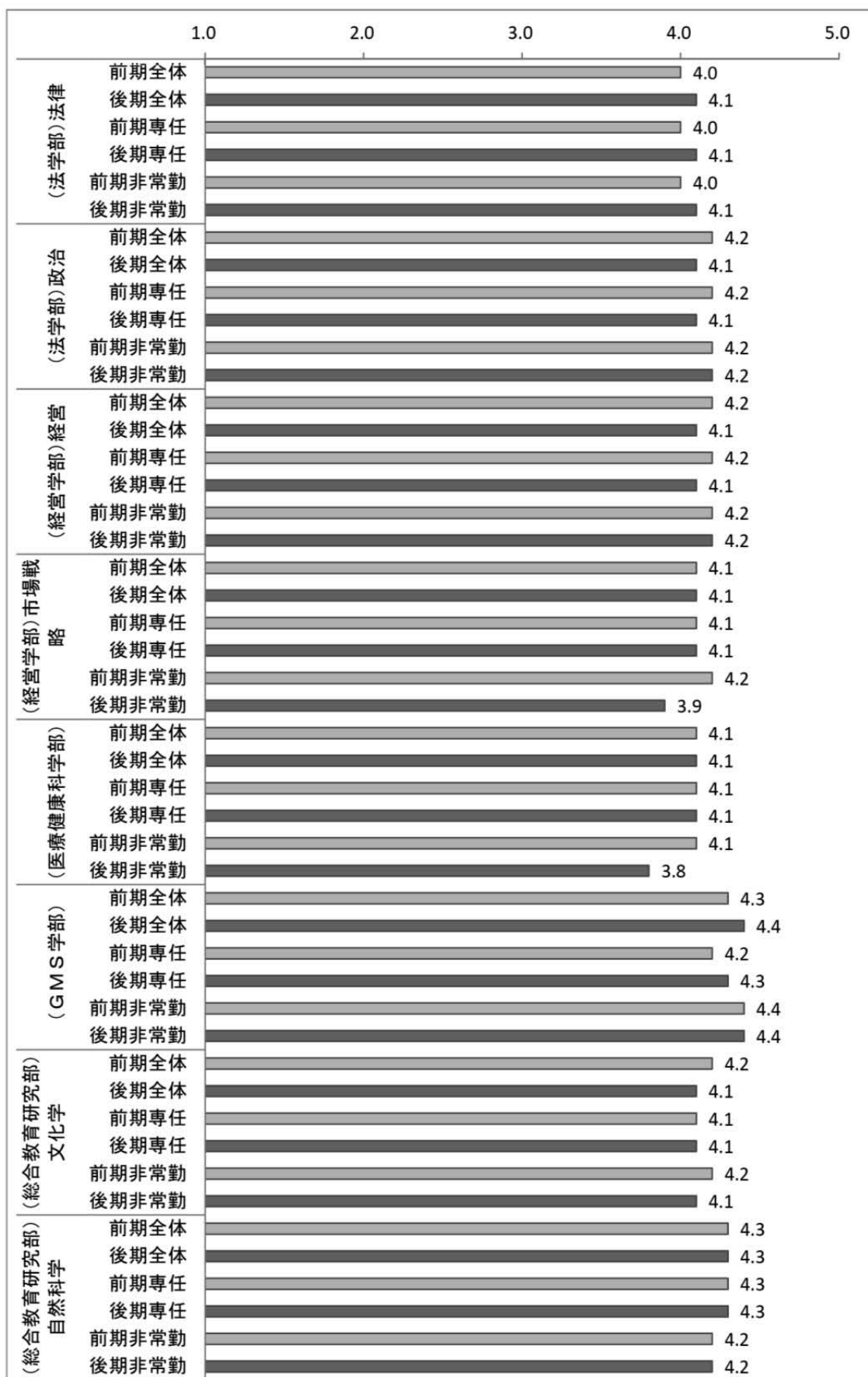
Ⅲ. Q 1 1. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていましたか。

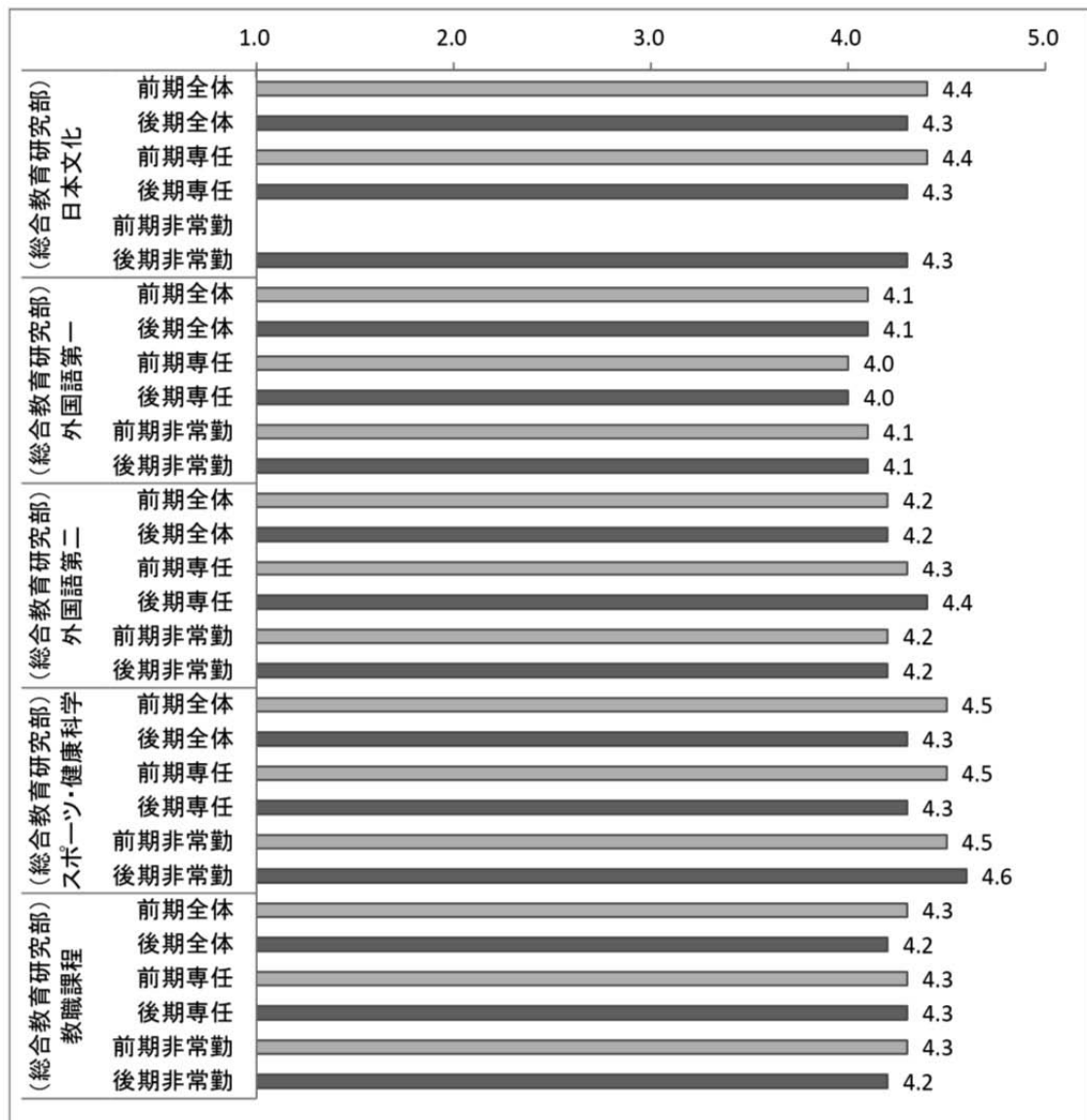
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

ほとんどの学部において、4.0 ポイント以上であり、シラバスの内容が反映されていたことがわかる。





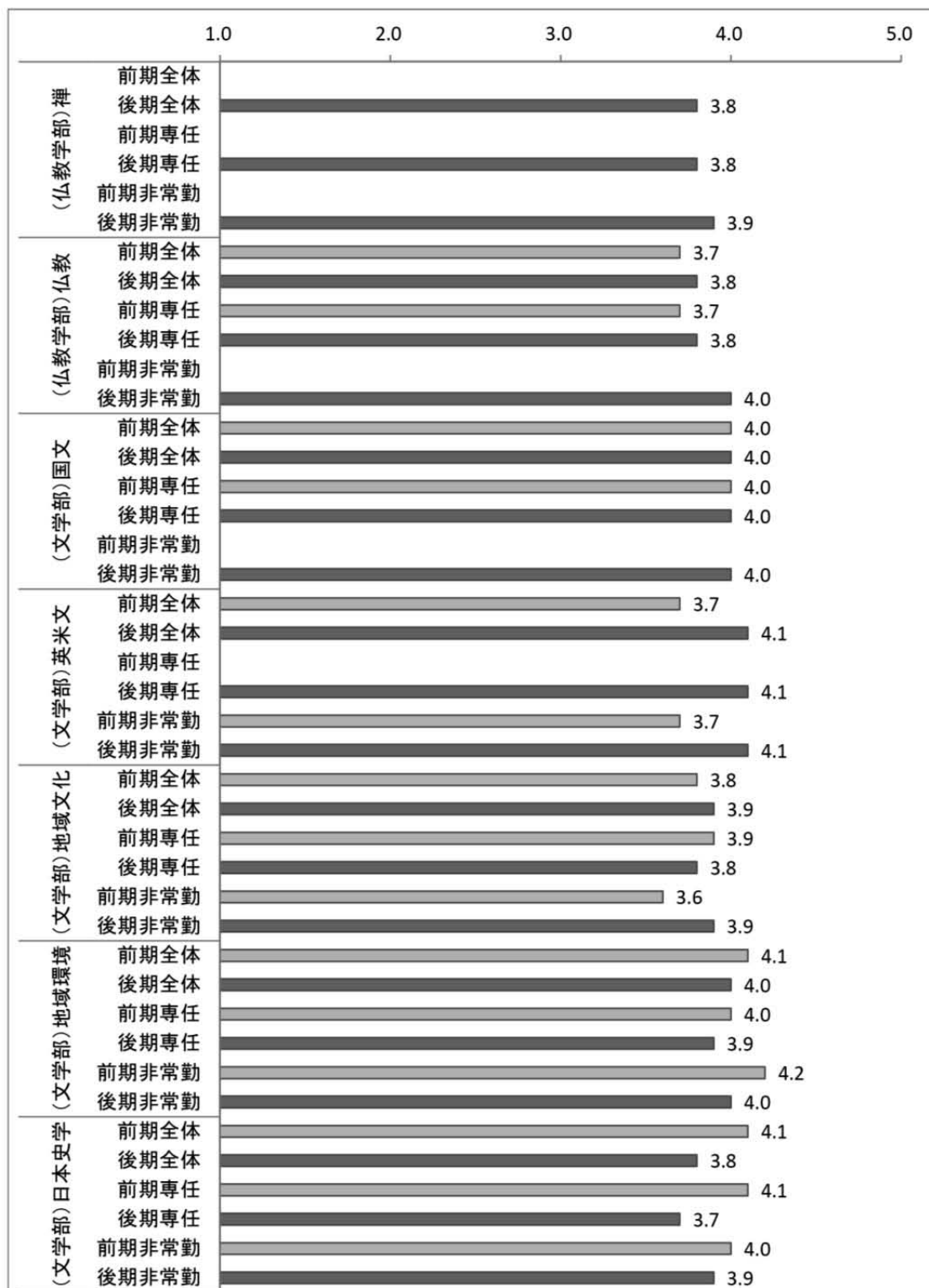


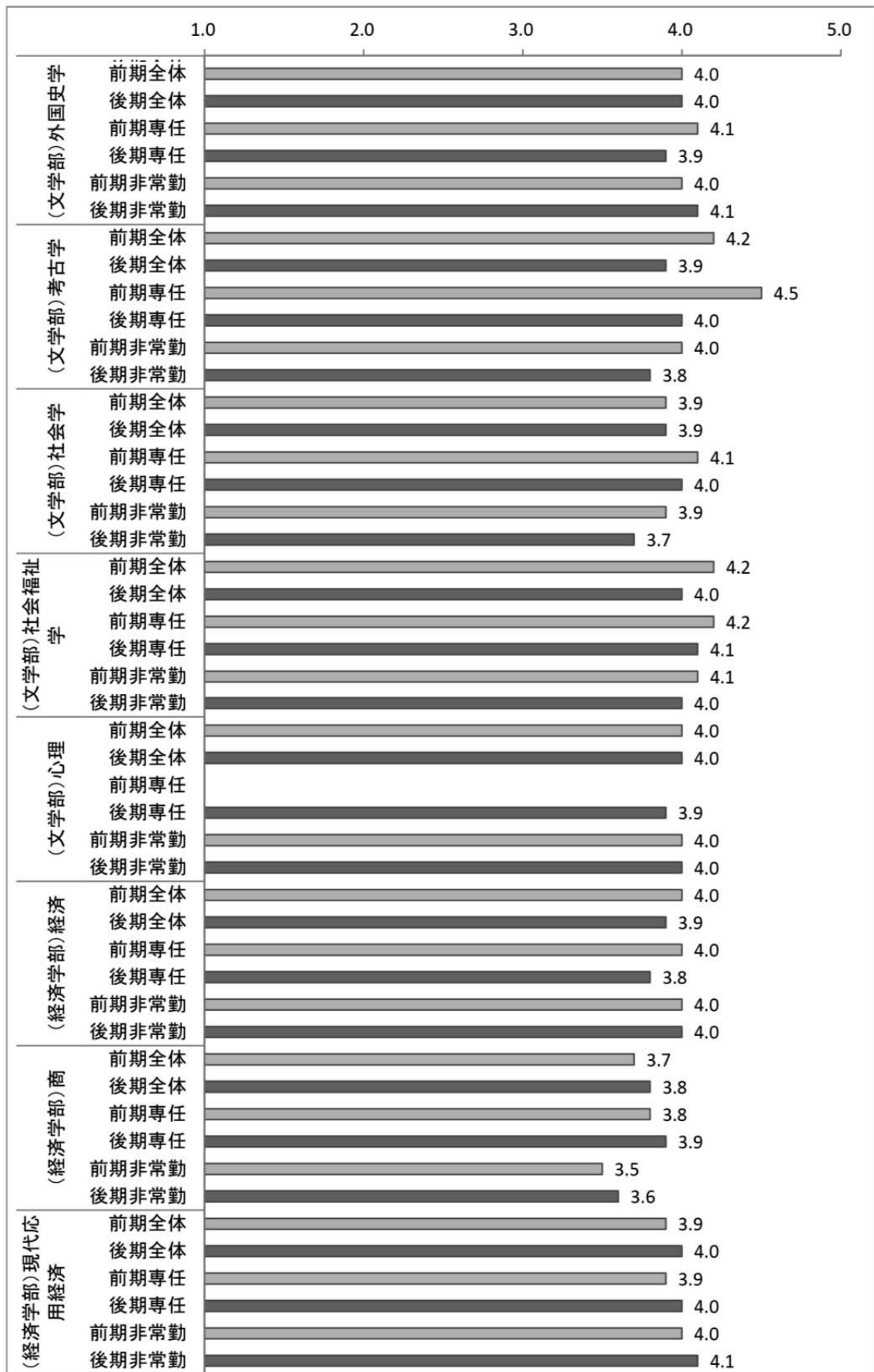


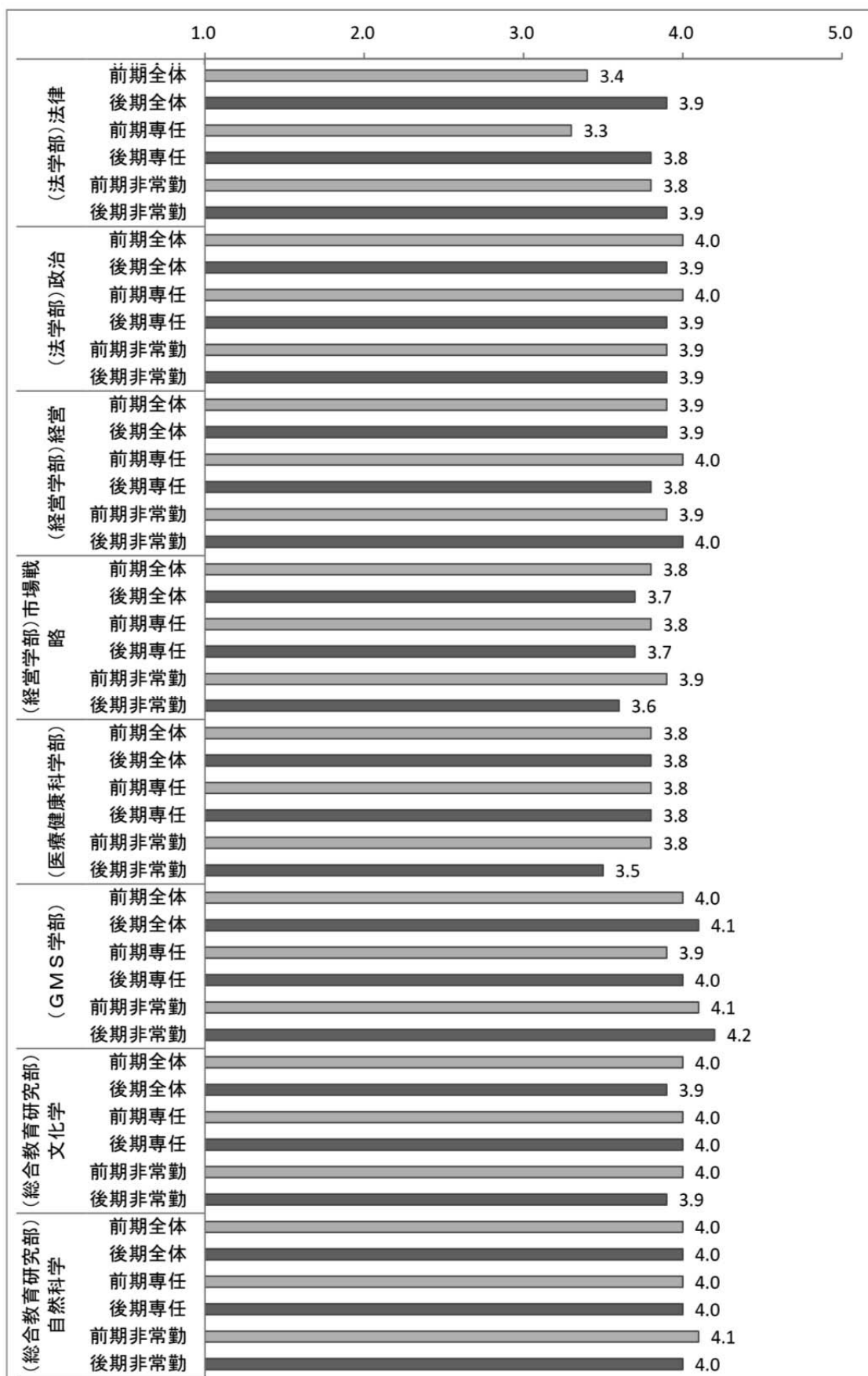
IV. Q 1 2. この授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。

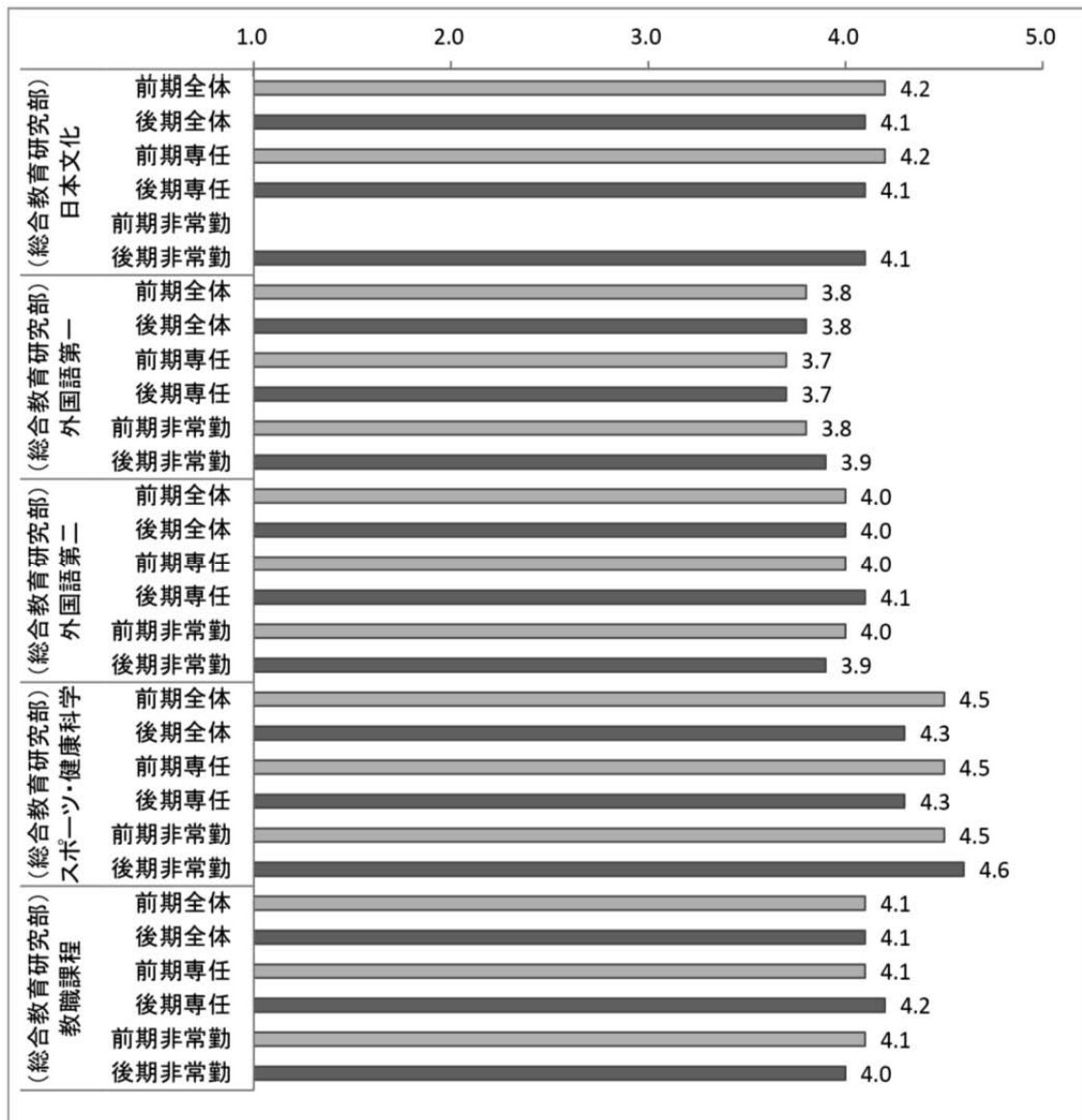
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

ほとんどの学部において、4 ポイントに近い値となっており、概ね適切だったと思われる。





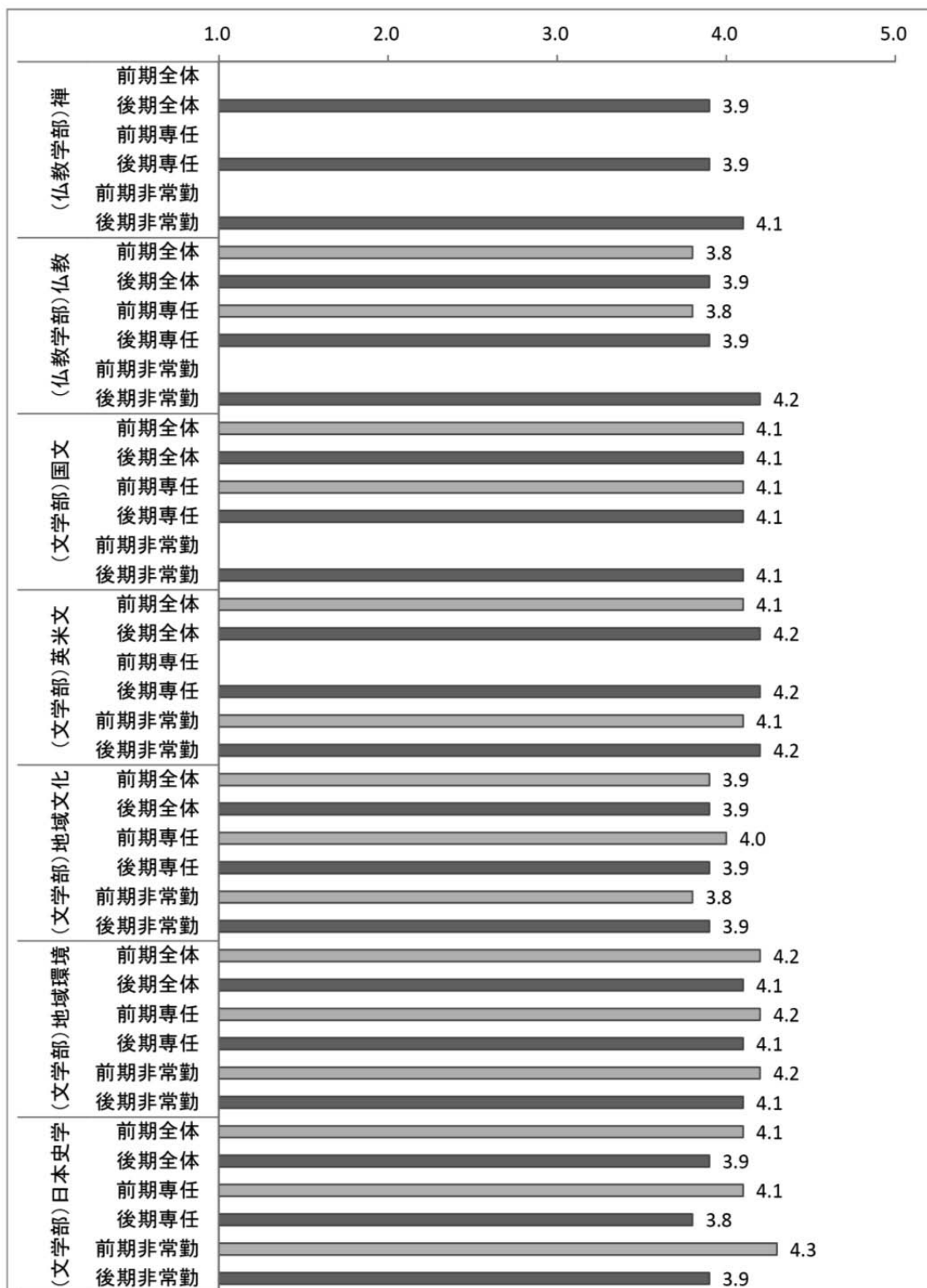


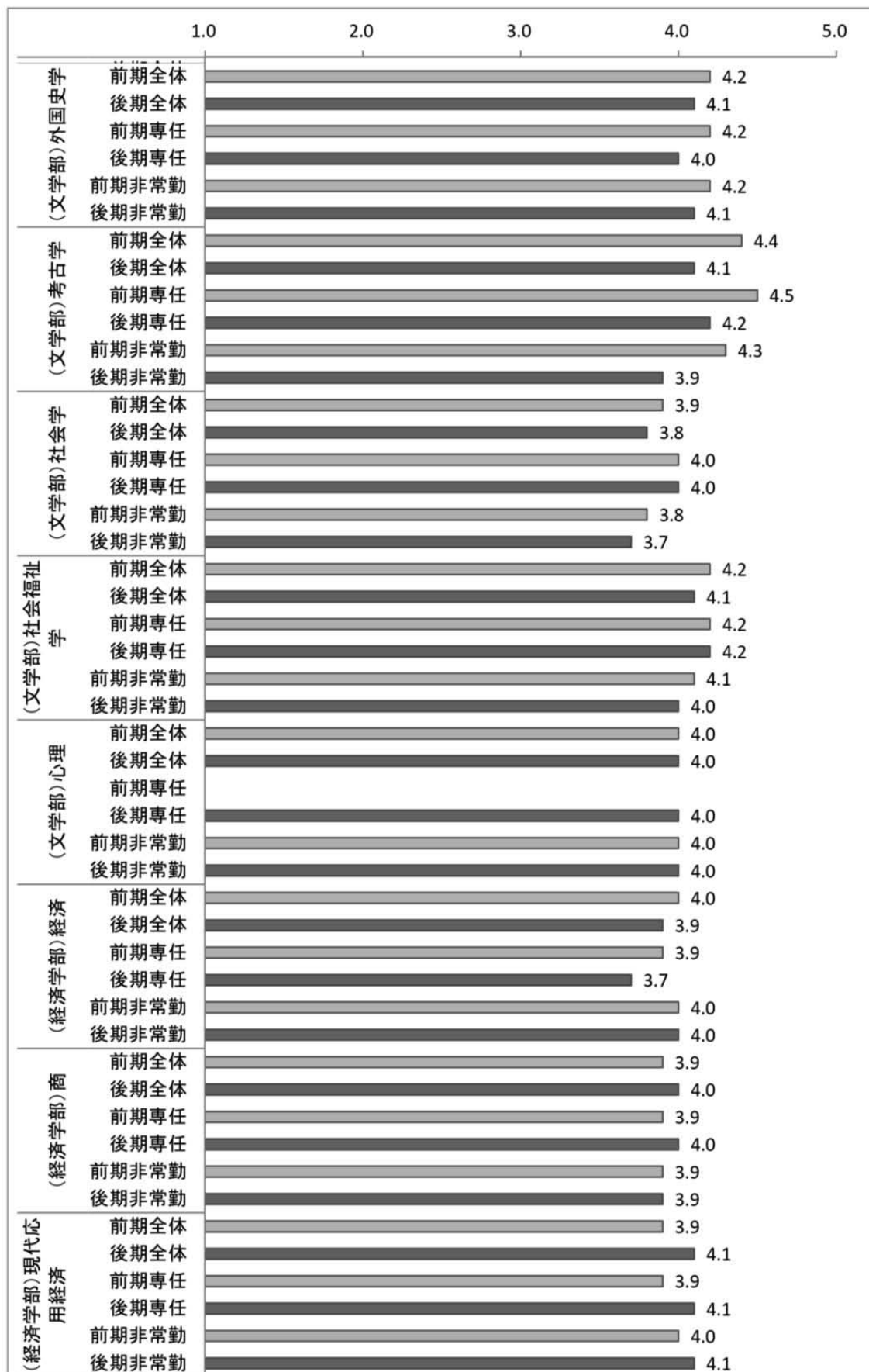


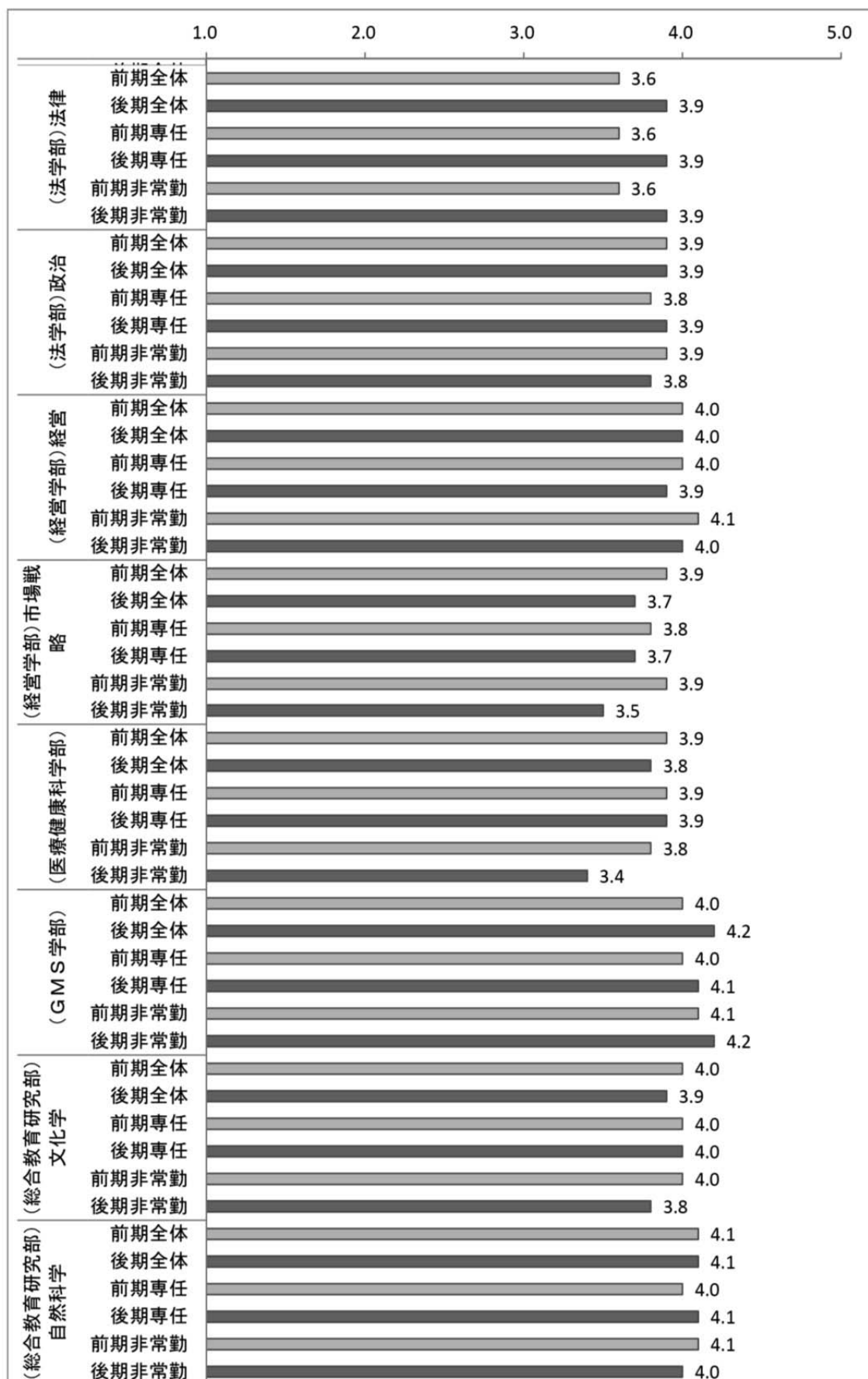
V. Q13. 教科書・資材・教材・用具等は効果的に使われていましたか。

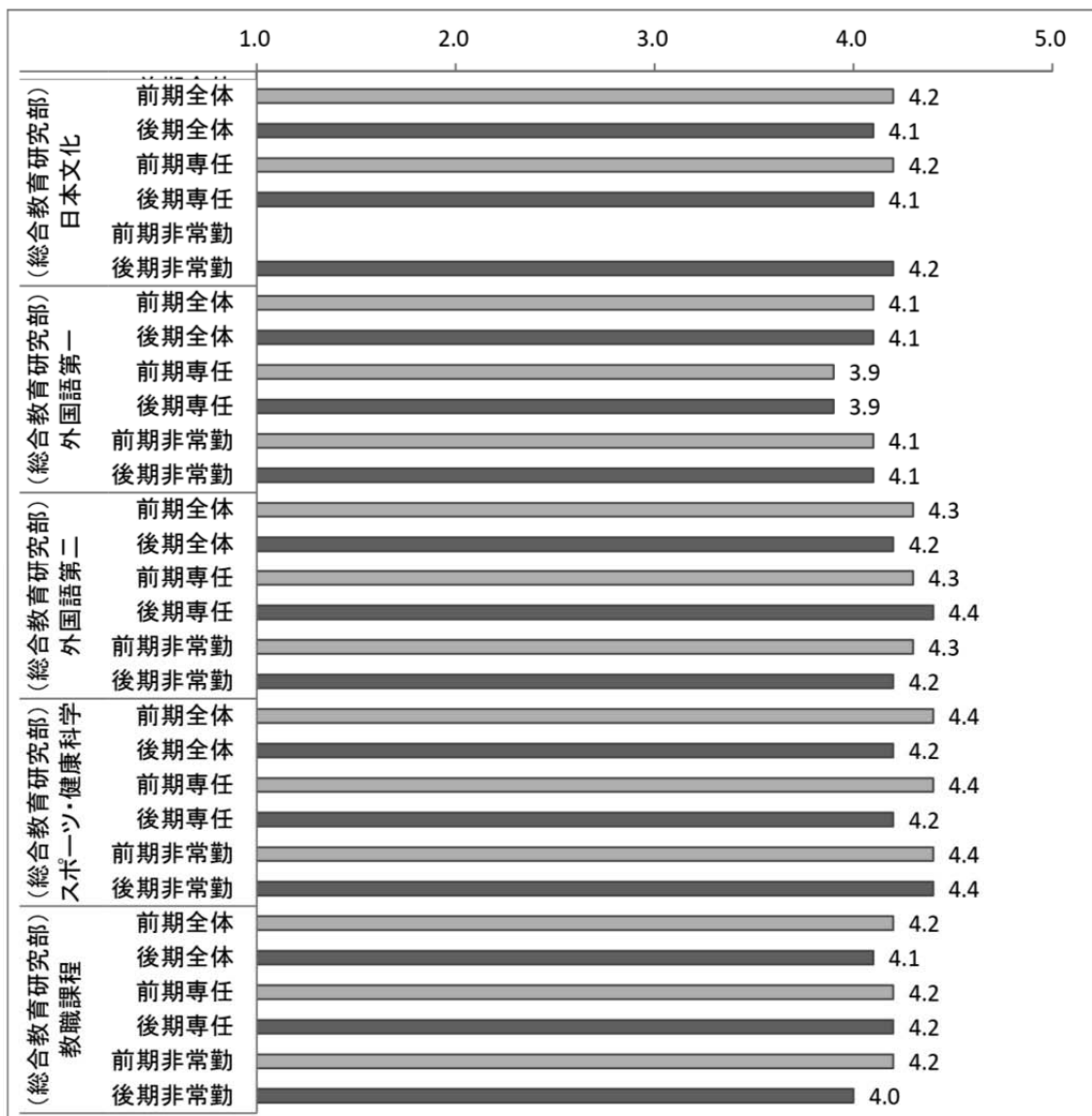
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

ほとんどの学部において、4.0 ポイントに近い値となっており、概ね効果的に使われていたと思われる。





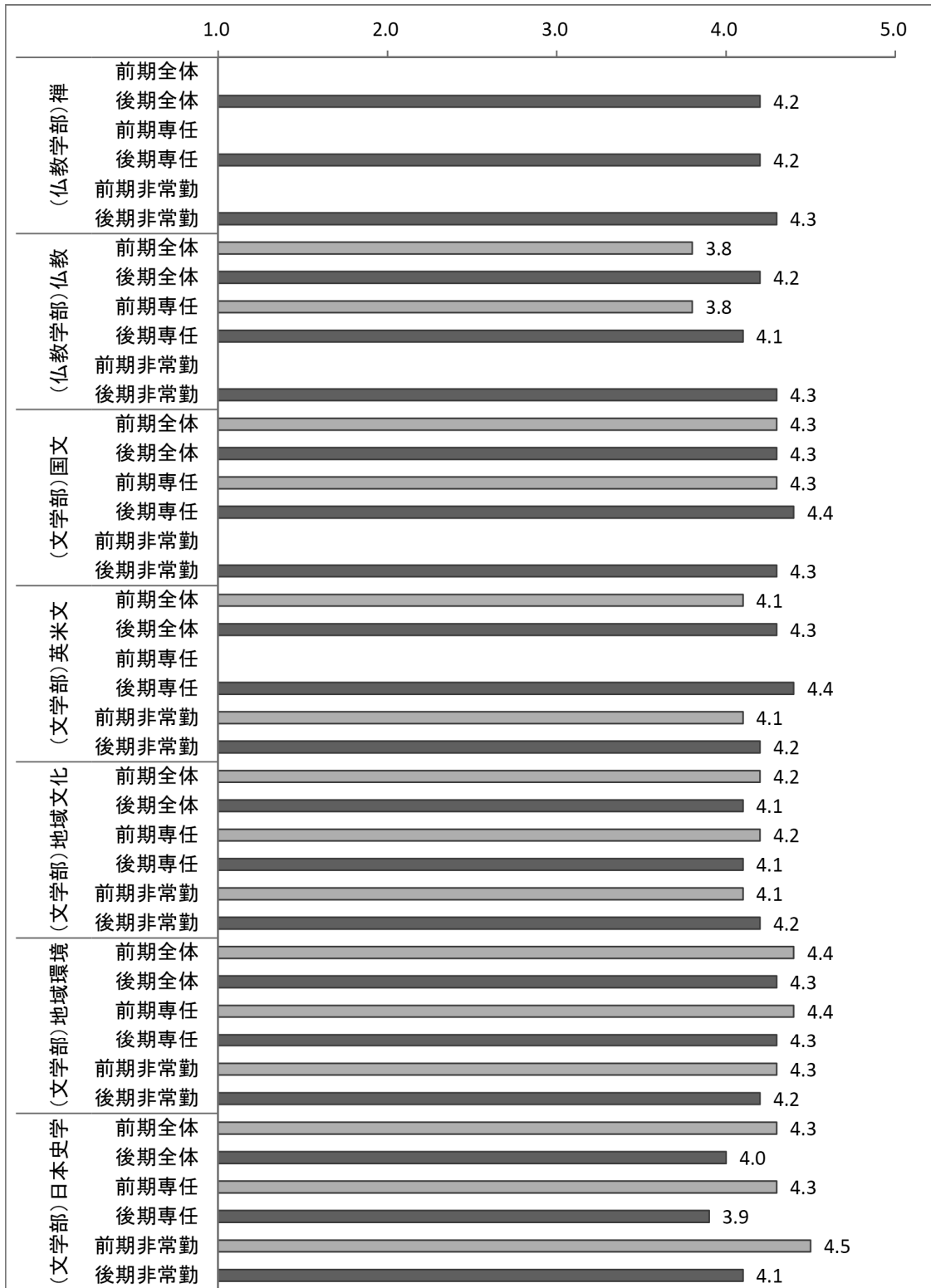


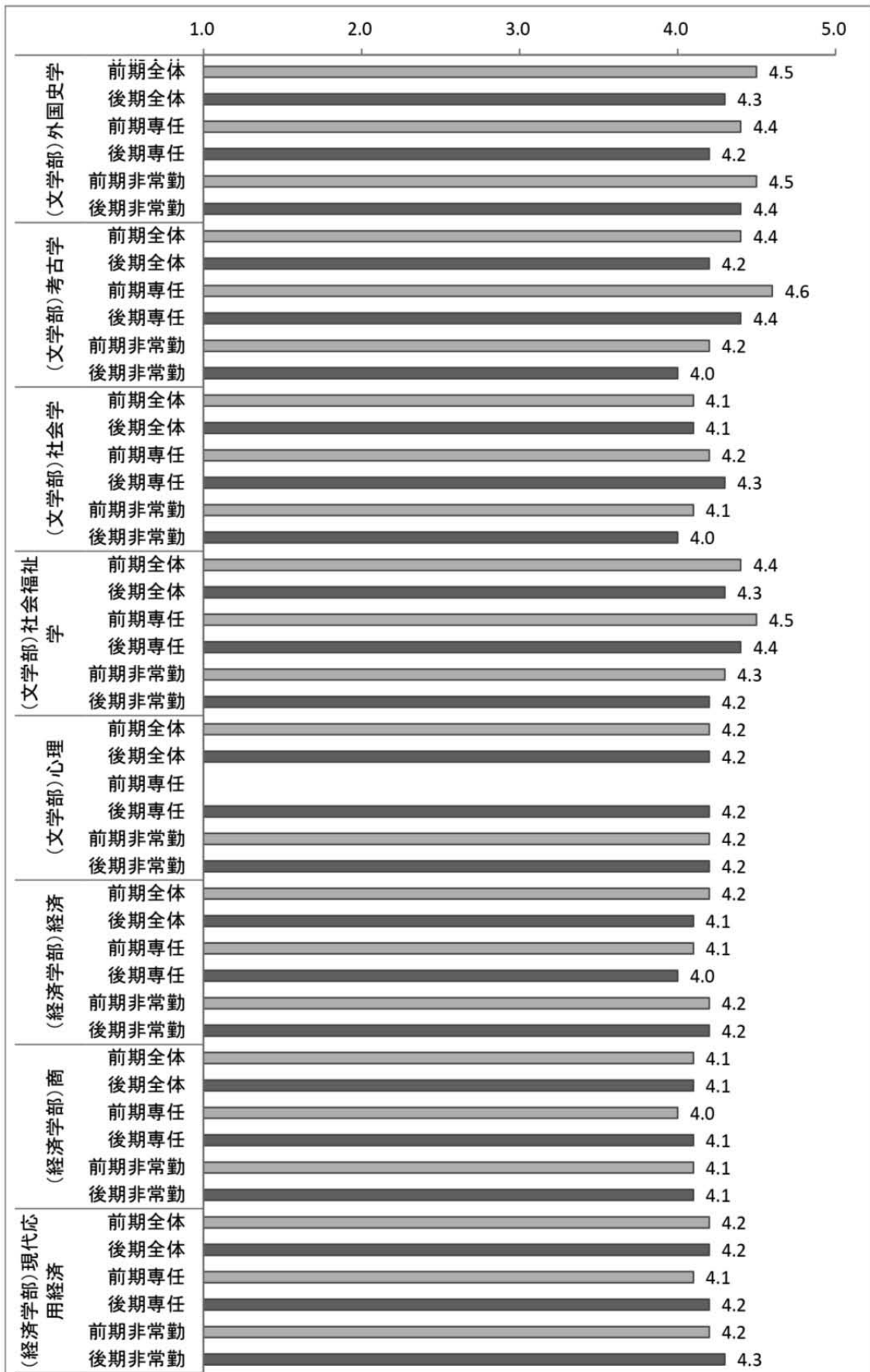


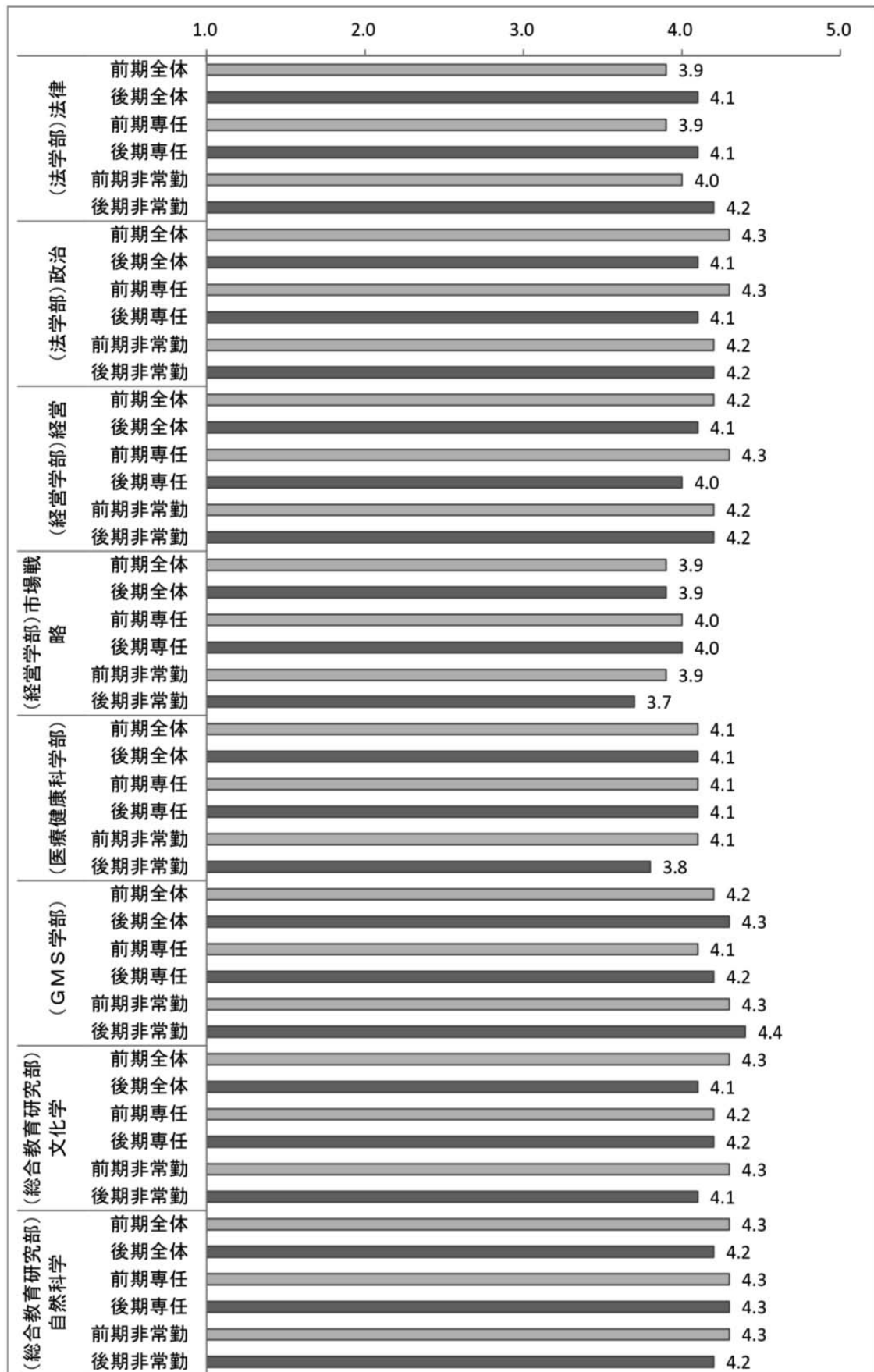
VI. Q 1 4. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。

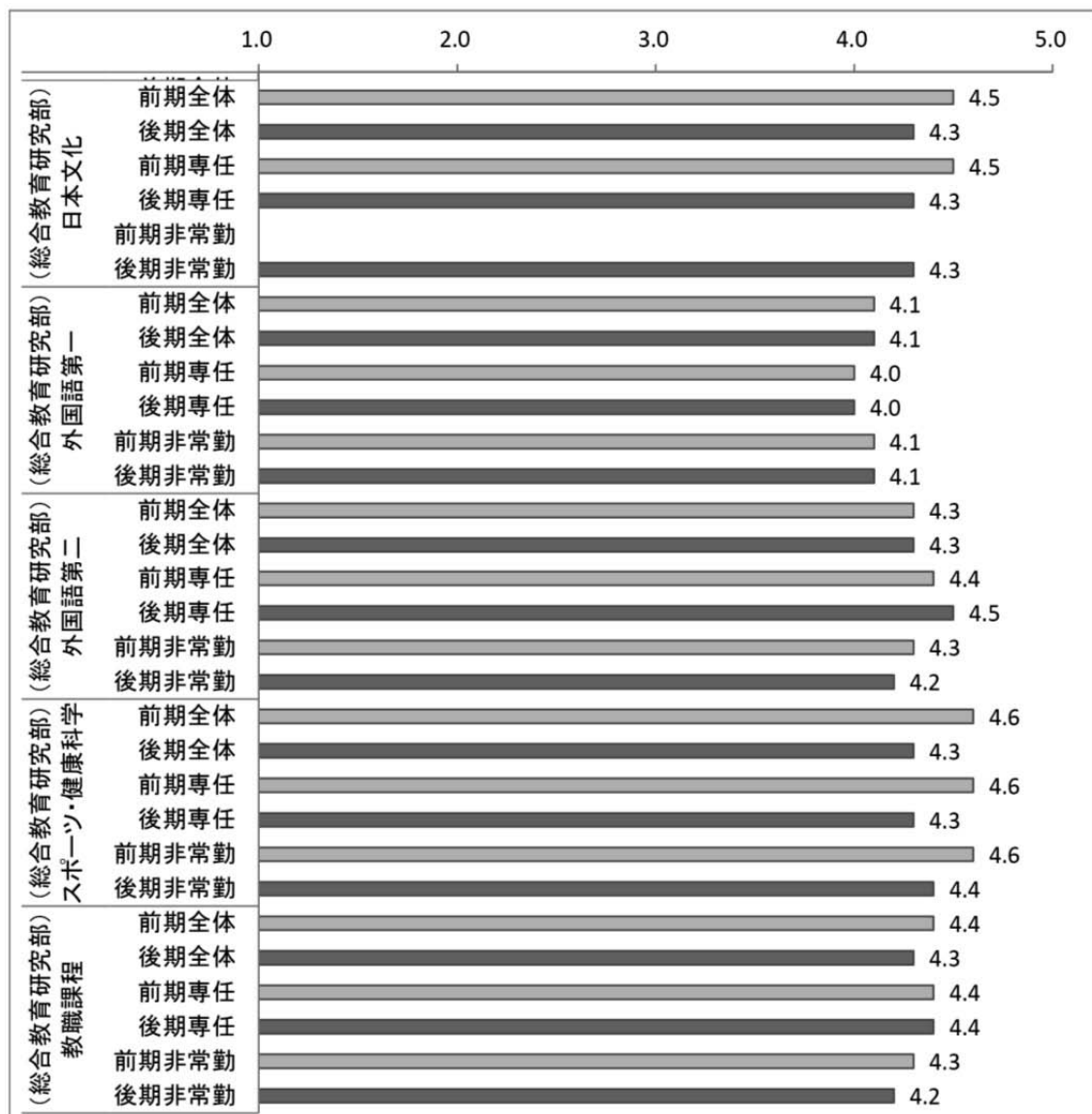
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

ほとんどの学部において、4.0 ポイントを超えており、取り組みに熱意が感じられたと思われる。





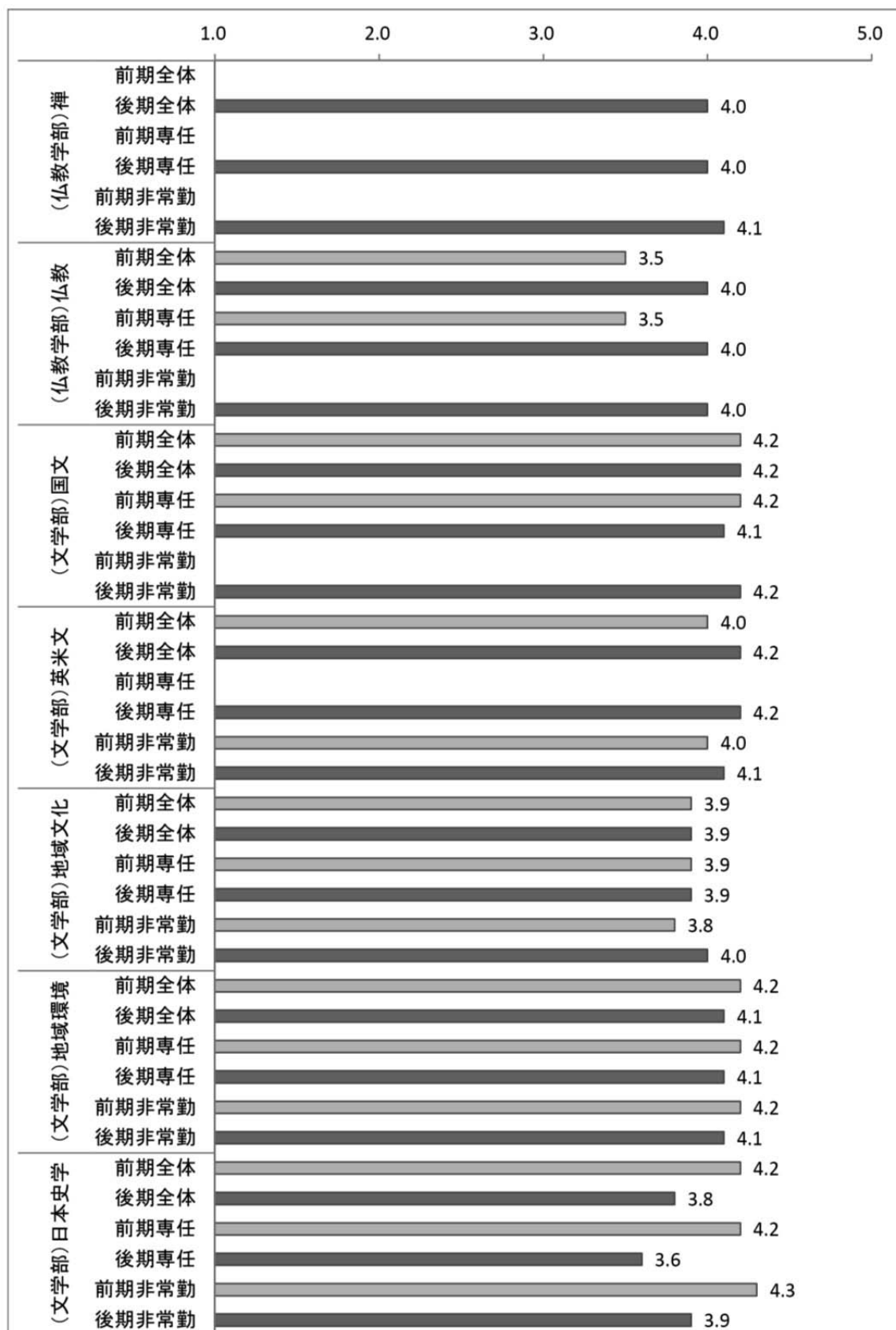


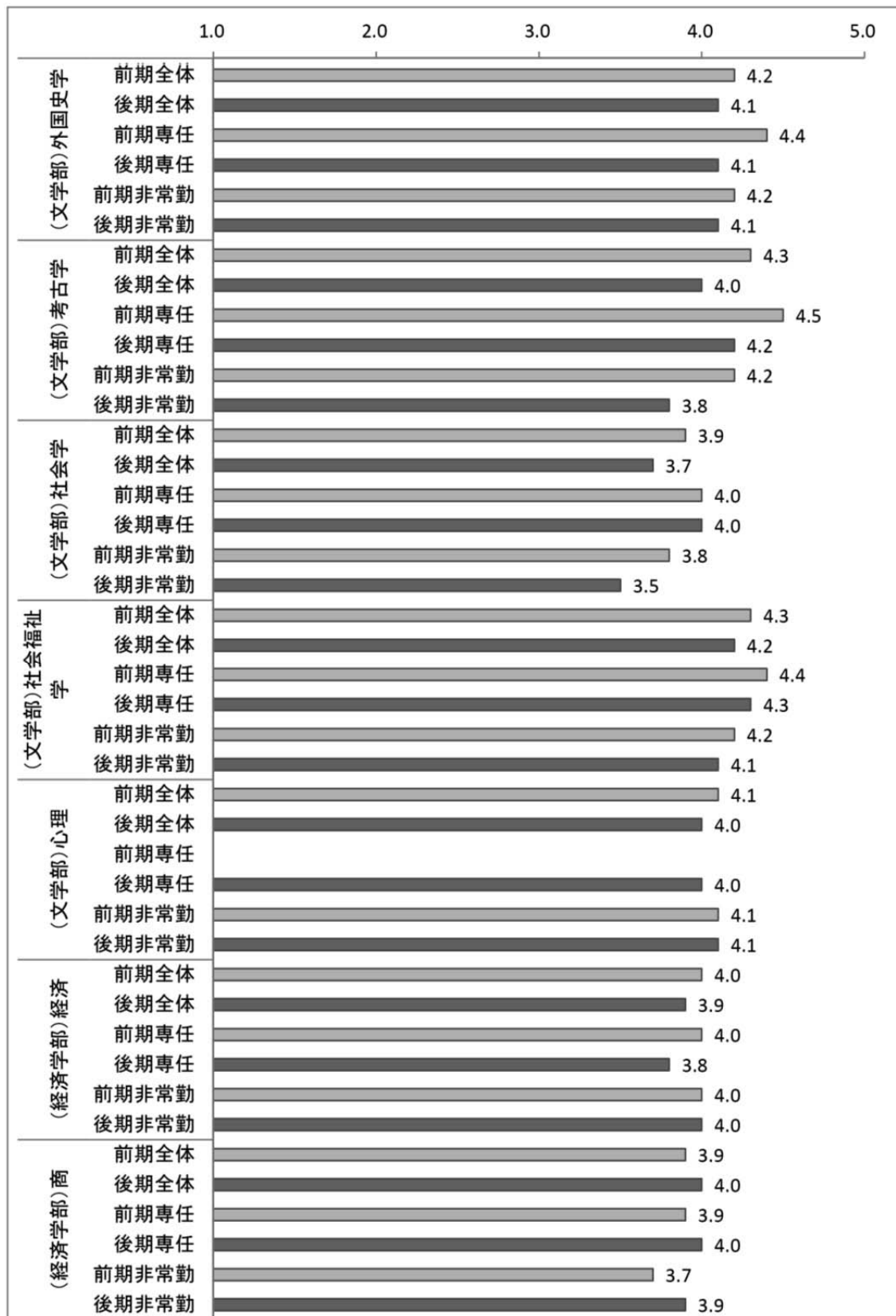


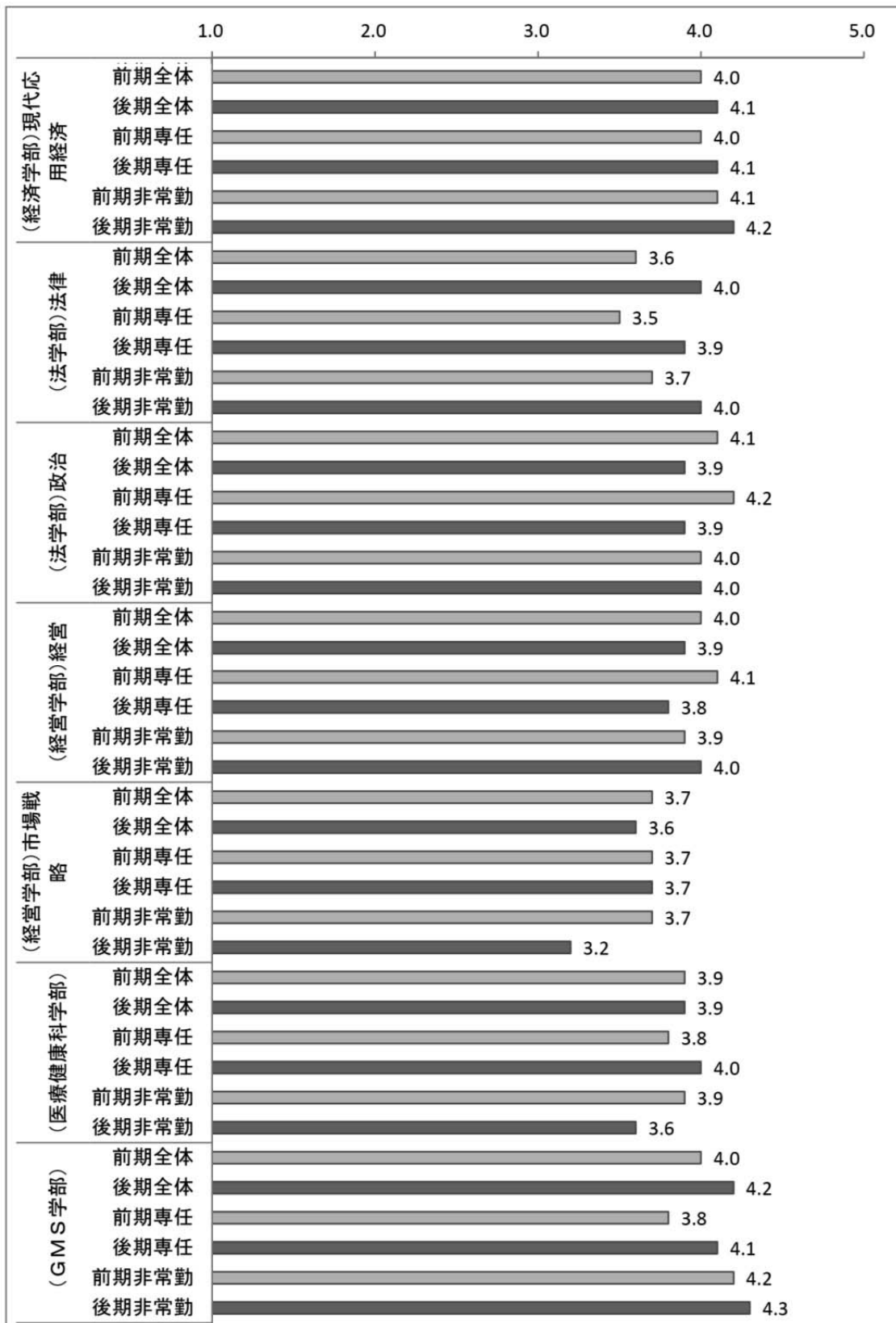
VII. Q 1 5. 教員の話し方や説明の仕方は適切と思いませんか。

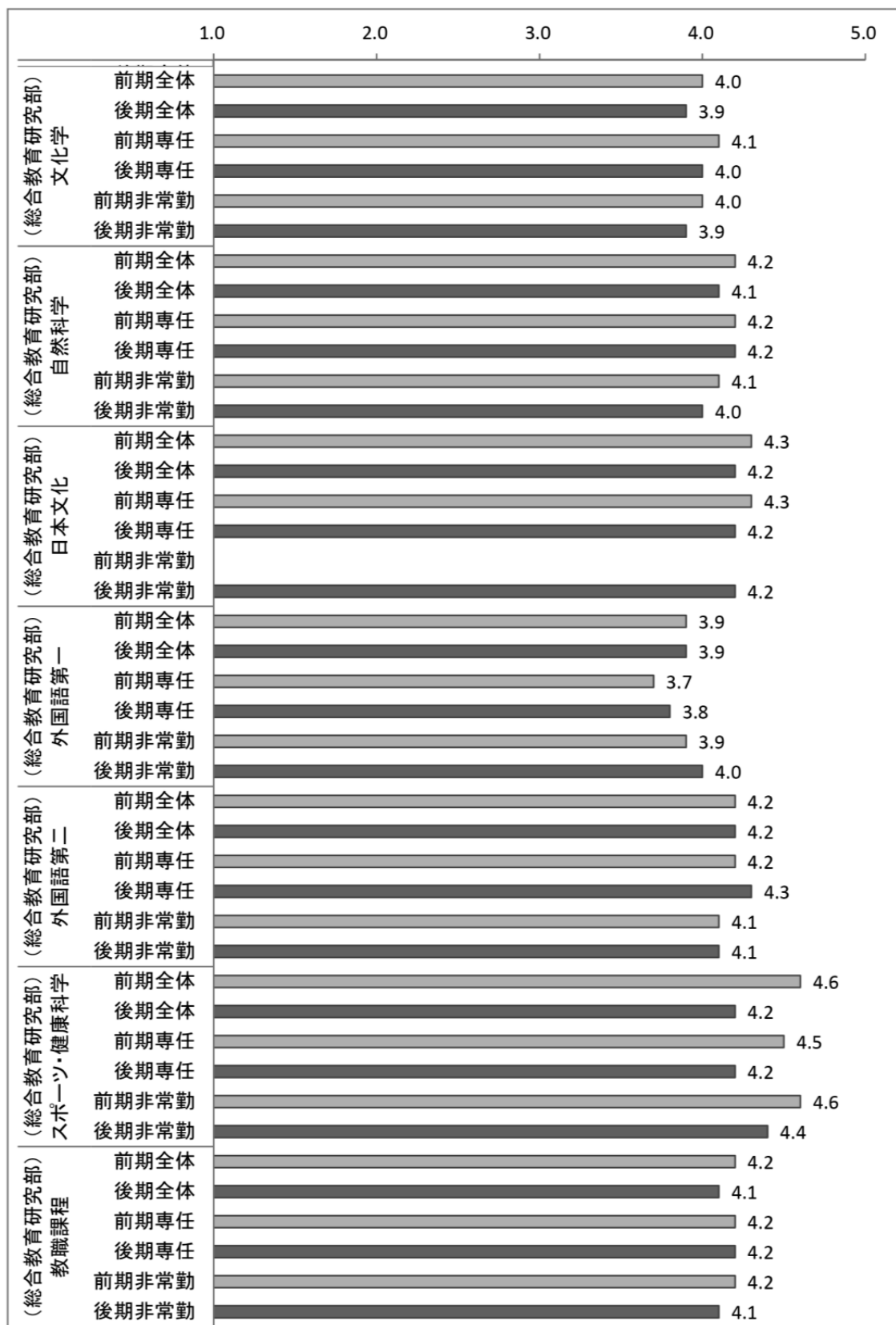
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

3.5~4.5 ポイントに推移しており、結果にばらつきはあるものの、概ね適切であったと思われる。





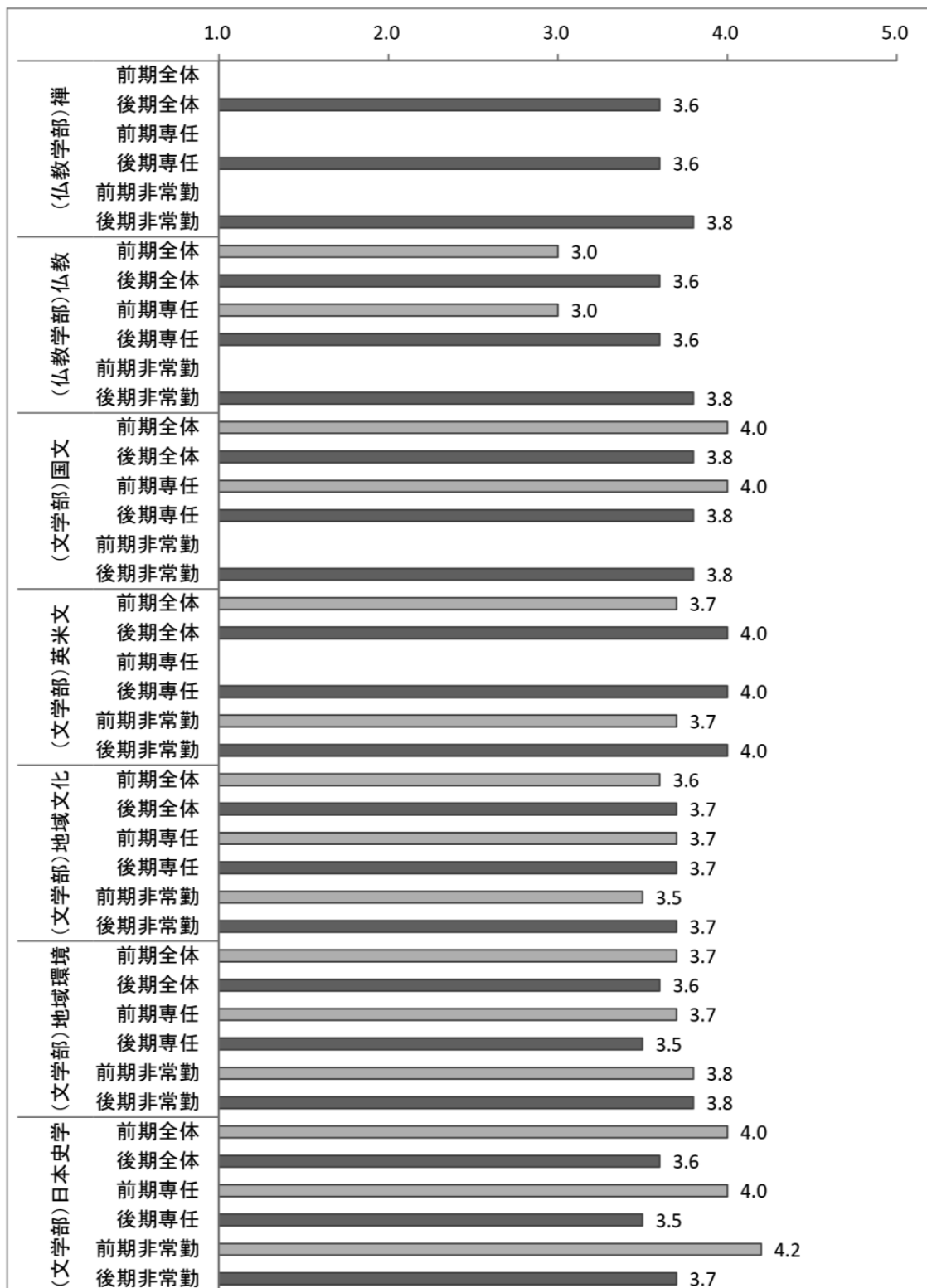


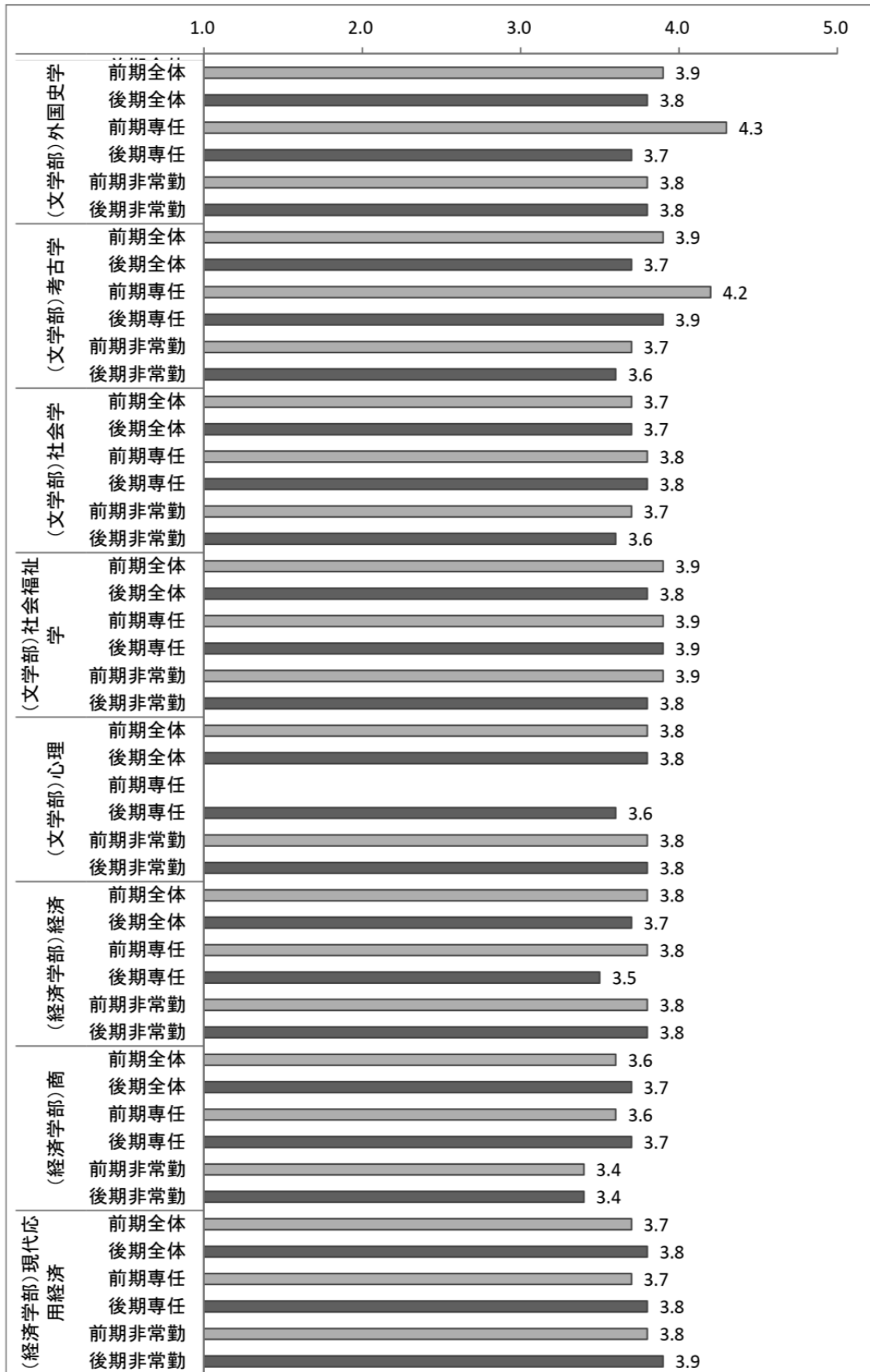


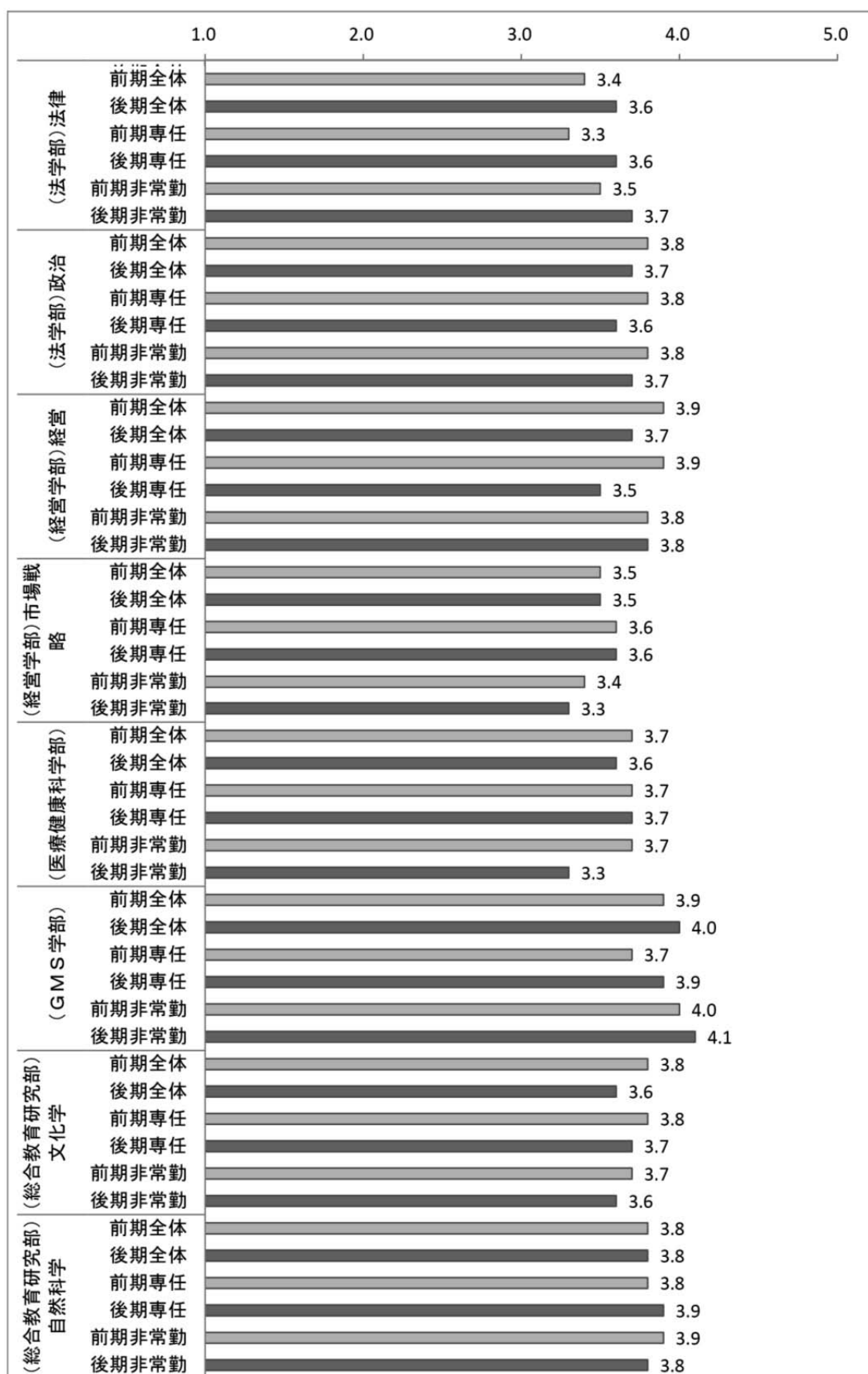
VIII. Q16. この科目の授業内容についてよく理解できましたか。

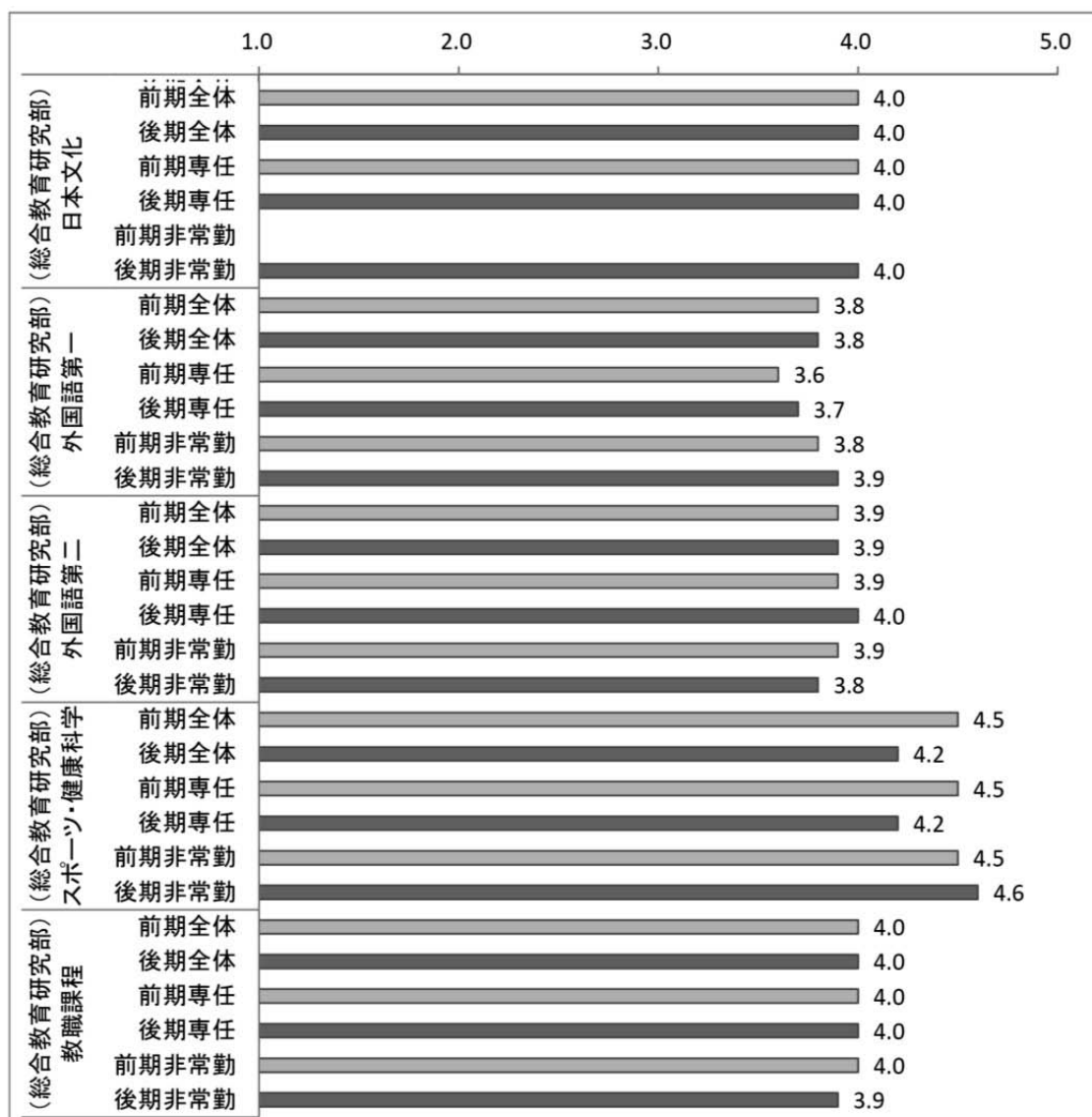
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

4.5～3.5 ポイントの間で推移しており、理解している傾向にあると思われる。





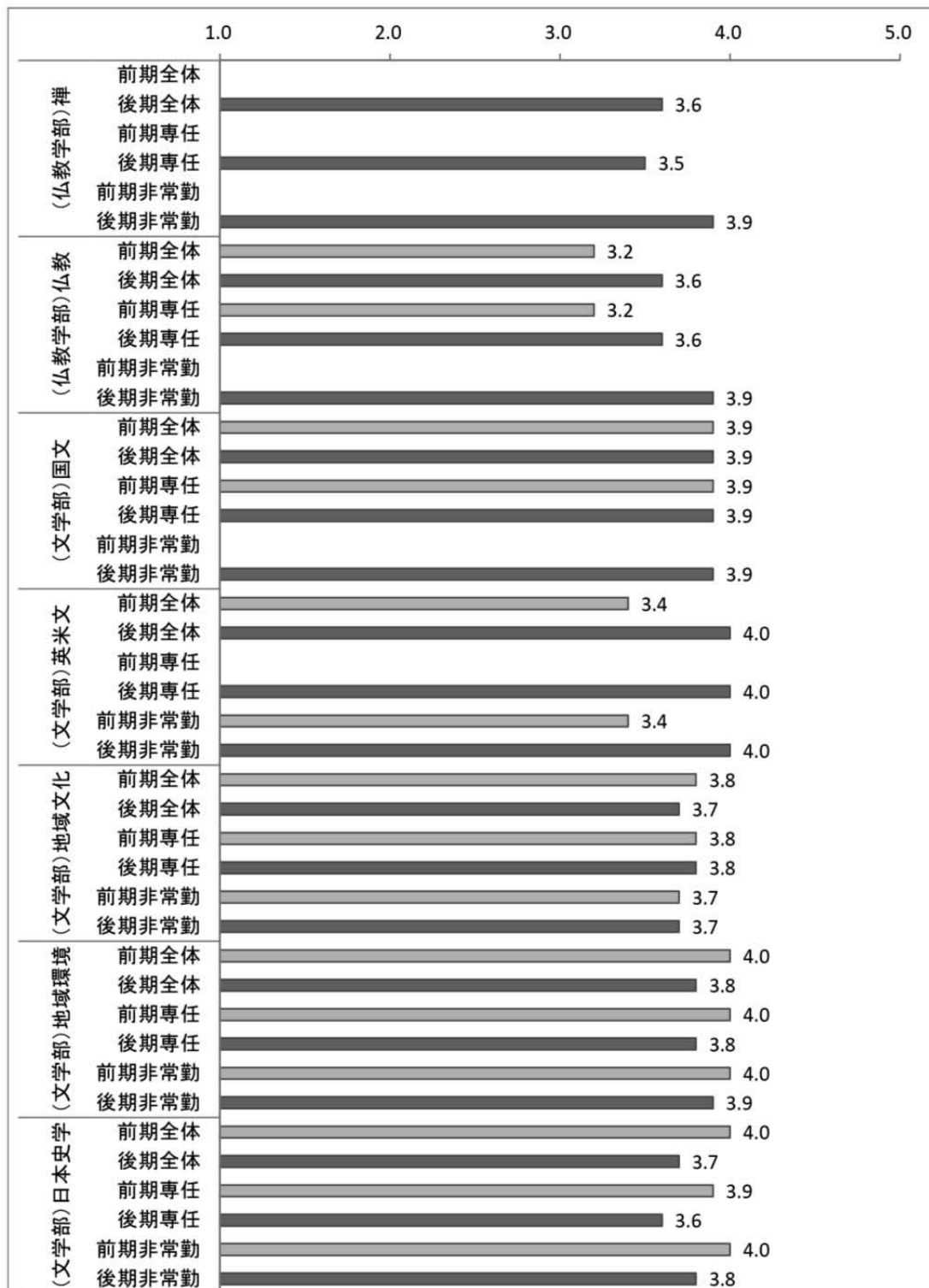


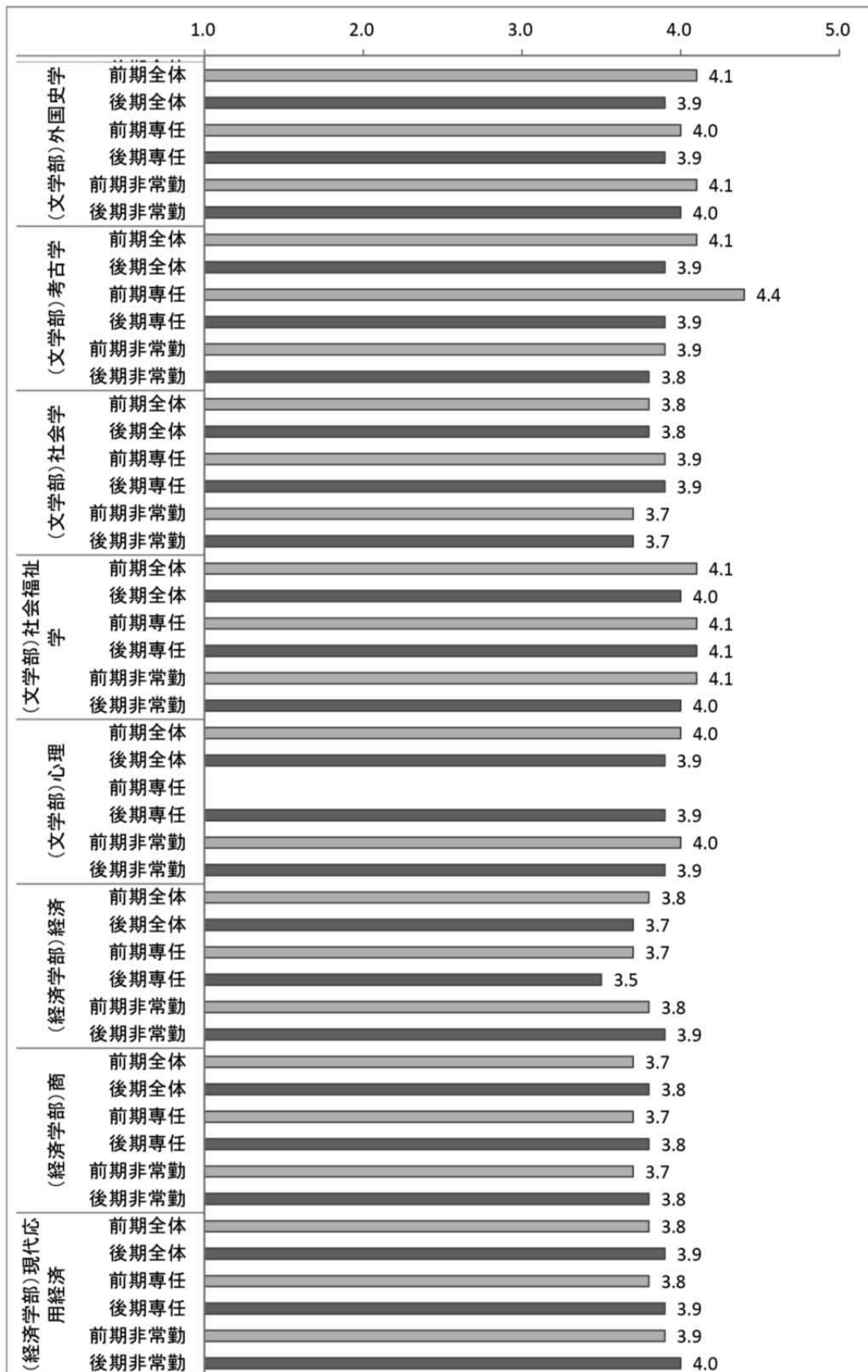


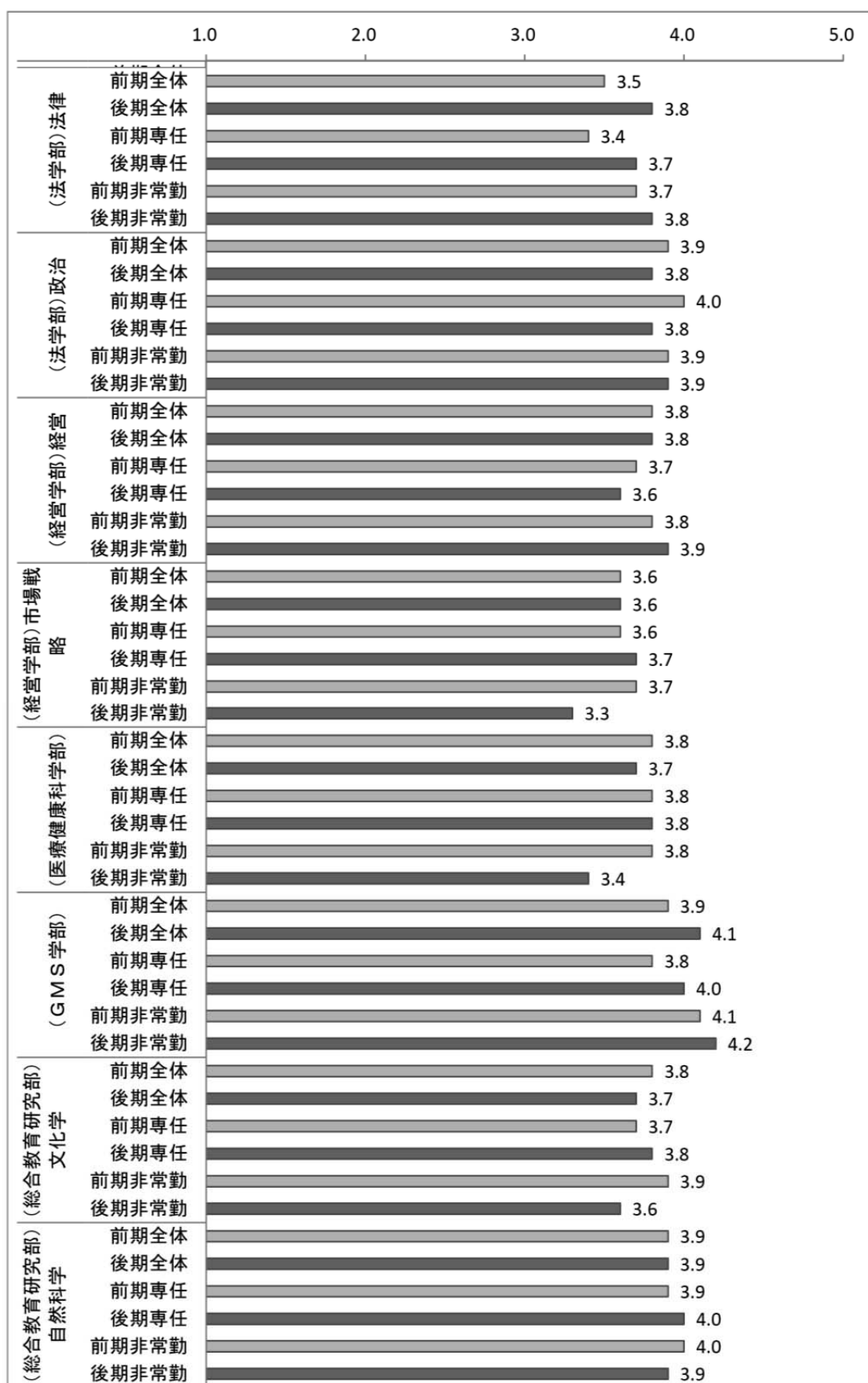
IX. Q 1 7. 授業内容に興味が持てましたか。

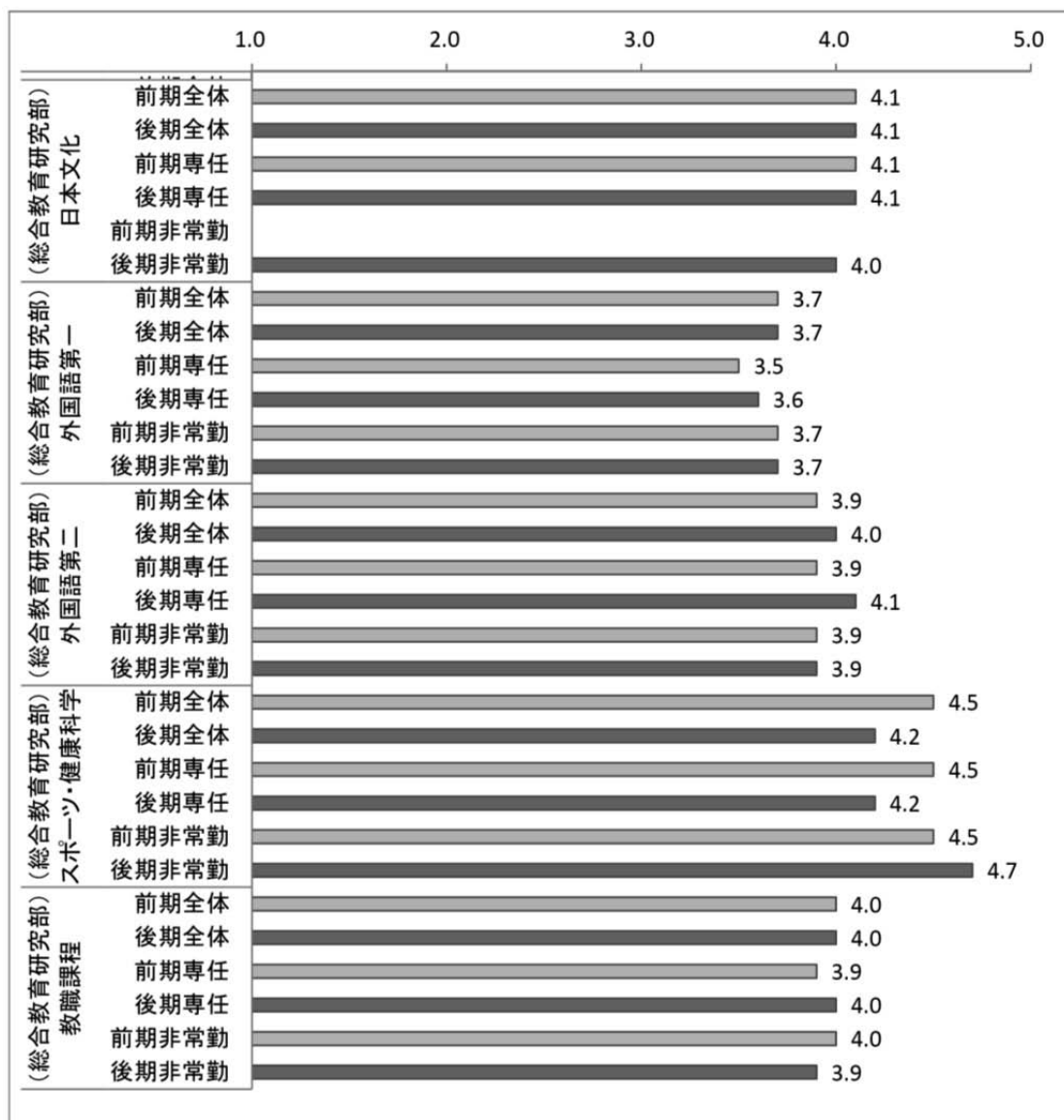
5: 全くそう思う 4: そう思う 3: どちらとも言えない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない

4.0~3.5 ポイントの間で推移しており、興味を持てた傾向にあると思われる。









総 評

駒澤大学 FD 推進委員会小委員会

平成 26 年度委員長 田中 靖 (文学部 教授)

1. 平成 26 (2014) 年度の FD 推進委員会の活動

今年度、本委員会では、(1)研修会、(2)公開授業、(3)授業アンケート、(4)FD NEWSLETTER 等の発行、といった例年通りの仕事と、『FD ハンドブック』の改訂版の発刊、本委員会に対して 9 月に学長より諮問された「教学に関する施策体系」の具体化のための答申作りなどに取り組んだ。以下、これらの取り組みについて、これまでと変更になった点を中心にその概要をまとめ、自己評価を行う。

(1) 研修会

まず、4 月に新規採用教員を対象としたオリエンテーションを実施し、対象となる専任教員 12 名全員と約半数の非常勤講師の参加があった。次に、学外で開催された各種 FD 関係の研修会に対し、前年度よりも多くの参加者を得た。1 月には、「新入生セミナーを振り返る」というテーマで FD 研修会を開催し、教職員合わせて 68 名の参加者があった。「新入生セミナー」とは、新入生にスタディスキル等を身に付けさせることを目的として、今年度から全学的に開講された授業である。これら全ての取り組みは、本学の FD として有効に機能している。今後も、そのコンテンツが個々の教員の授業に還元されるような魅力的な企画を行い、参加者数の増加につなげていく必要がある。

(2) 公開授業

今年度から、学部等での公開授業の検証結果を本委員会に報告することを義務化した。これにより、各学部で公開授業がどのように行われているかについてその実態の一部が明らかとなった。公開授業への参加教員数や、報告書の作成方法は現状バラツキが大きく、全学的な取り組みとしては不十分である。したがって今年度の反省を来年度の改善につなげていく必要がある。しかしながら、全学部から報告書が提出され、今年度の公開授業のエビデンスを残すことができた点は、本学における FD 活動の大きな進捗と言えるであろう。

(3) 授業アンケート

今年度より、これまで紙（マークシート）で行ってきた学生による授業アンケートを、スマートフォンやコンピュータの端末からインターネットを利用して回答するシステムに変更（Web 化）した。回答率は、前期科目で 56.2%、後期科目および通年科目で 40.6%であった。今年度は全学的なカリキュラム改革の年でもあり、これに伴い半期開講科目が大幅に増加しているため単純な比較はできないが、昨年までと比べて後期科目および通年科目の回答率が 10%程度下がった。来年度以降、回答率向上のための工夫が必要になる。

一方、Web 化されたことにより科目ごとの集計はリアルタイム化され、電子データによるきめ細かな結果の解析が可能となりつつある。授業アンケート結果の利用の観点からは

今回の Web 化の効果は大きい。今後、FD 活動に有効に活用していけるように議論を進めるべきである。なお、今年度のアンケート集計結果については FD NEWSLETTER (後述) に掲載した。

(4) FD NEWSLETTER 等の発行

例年通り、本学における FD 活動の推進・広報・報告のための FD NEWSLETTER を 4 回発行した。これらは、紙媒体で全専任教員に配布され、大学ホームページでも公開している。また、授業アンケート結果や FD NEWSLETTER を含む『FD 活動報告書』を発行し(本報告書)、本学と FD 活動で結びつきのある大学等関係諸機関に送付する。

(5) その他の活動

まず、12 月に『駒澤大学 FD ハンドブック 一よりよい教育のために一 (改訂版)』を刊行した。この本は 2009 年に刊行された第一版を 5 年ぶりに改訂したものであり、内容は現状に合わせて全面的に刷新された。

次に「教学に関する施策体系」の具体化のための取り組みであるが、本委員会には 12 項目の諮問がなされ、その答申を提出した。内容は多岐に渡るが、そのうち「学修時間の実態把握」「シラバスの改善」「初年次教育」「高大連携」「入学前教育」などについては既存の仕組みの調整や改善、また、各教員が既に授業の中でなど行っている取り組みを全学的な仕組みとして再構築することで対応できるという結論になった。一方で、「アクティブラーニング、PBL の推進」「ICT 教育の推進」「教員と学生との情報コミュニケーションツールの構築」などは、関係部署間の連携が必要であり、FD 推進委員会のみでの取り組みで実現は不可能である。そのため、本学におけるこれらの定義と調査に始まり、特に「情報システム委員会」と共同で検討することを軸として答申を作成した。「学生授業アンケート結果の公表検討」については、この諮問の前からワーキング・グループを委員会内に設置して検討してきた。目的、対象、内容、時期(期間)、方法などに分けて詳細な検討を行った結果、「平成 27 年度は学部単位で学部 FD 推進部会長及び学長・各副学長への結果内容の報告を行う」という本委員会としての結論を得て答申に盛り込んだ。

2. 今後の課題

以上をふまえ、来年度に引き継ぐ課題のうち、特に重要なものは以下のように整理できる。

- ・講演型と体験(ワークショップ)型の組み合わせによる年 2 回の FD 研修会の開催。
- ・公開授業への教員参加数増加のための工夫と報告書作成方法の見直し。
- ・学生による授業アンケート結果の公開レベルの見直しと、集計・解析結果の活用。
- ・高大連携による入学前教育の推進、特に附属高校と大学教員連携のための仕組み作り。
- ・私立大学等改革総合支援事業に明記されている三つの要件を満たすシラバスの整備。

最後に、FD 活動は継続性を維持し、PDCA サイクルによって改善・発展させていくことが肝要である。次期委員会の方々に期待したい。

6. FD NEWSLETTERの発行

○FD NEWSLETTER 第39号	平成26年 6月30日発行
○FD NEWSLETTER 第40号	平成26年 9月30日発行
○FD NEWSLETTER 第41号	平成26年 12月15日発行
○FD NEWSLETTER 第42号	平成27年 3月15日発行

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 「為すことによって学ぶ」
学生部長 仏教学部教授
長谷部 八朗
- 「対面授業と知的人間成長への支援」
国際センター所長
総合教育研究部教授
上野 勝広
- 平成 25 年度 F D 研修会
総合教育研究部教授
落合 和昭
- 平成 26 年度
新規採用教員オリエンテーション
- 平成 25 年度活動報告
- F D 推進委員会の今後の活動予定

為すことによって学ぶ

学生部長

仏教学部教授 長谷部 八朗

かねてより、私の担当する科目で年 1 回程度、「大学の授業に望むこと」と題したレポートを課している。今年も 5 月に行った。むろん記名だが、「本音を聞かせて欲しい」との要請に応え、受講者は、なかなか熱く、かつ示唆的な意見を返してくれる。内容は種々に亘るが、総じて多いのは、「双方通行型」とか「双方参加型」授業への要望である。もっとも、受講者が増えればそれだけ教員との距離は広がるわけで、抜本的な対策がなされないかぎり、こうした授業はせいぜい少人数の演習などで行うしかない、といった話になる。かくいう私も、この状況は実感するところである。だが受講者の意見には、抜本策よりもむしろ、教員側のちょっとした工夫を求める声が目立つ。たとえば、「質問の双方向性」への期待が挙げられよう。教員は、質問を受けるだけでなく、受講者に、それも授業の中で投げかけてほしいというのである。この場合、当然、受講者にどう答えさせるかが問われよう。しかし、前後の文脈に目を遣ると、そうした意見の背景には、どうやら「話す」授業ではなく「話しかける」授業への期待がうかがえる。ほかに、授業内容との直接間接の関連を問わず、教員の体験談を話して欲しいとの声も少なくない。結局学生は、規模の大小にかかわらず、授業の場における教員との心理的隔たりの縮小を望んでいるのである。その結果、現に会話は交わされなくても、そこから、教員と学生の間で一種コミュニケーションが生まれることへの期待といえようか。

さて、標題に「為すことによって学ぶ」と掲げた。戦後 20 年代に打ち出された社会科教育等の指針である。当時、地域社会を教室代わりに、住民の生活から生徒が問題の所在や解決法を主体的に学ぶ、いわゆる問題解決重視の経験カリキュラムが謳われている。だが、当の理念は十分に根を下ろすことが出来なかった。

翻って上述の意見に目を向ければ、結局それらに通底するものは、「為すことによって学ぶ」ことへの要望ではなからうか。学びの場や形、あるいは学ぶ者の長幼を問わず、こうした理念が教育のコアに据えられねばなるまい。

冒頭のレポートは、このような思いもあって試みてきた。ただ、あくまで意見ゆえ、成績評価とは切り離している。そうとすれば、それを「無用の用」と為し得るか。受講者への課題は、私への課題として投げ返されている。

連載企画：よりよい教育のために

「対面授業と知的・人間的成長への支援」

国際センター所長 総合教育研究部教授

上野 勝広

私たちはIT技術の急速な発展の恩恵に浴し、インターネットを通じて「いつでもどこでも、だれでも無料で大学の講義を聴ける」時代を迎えた（＜日本版ムック：大学の知をもっと身近に＞朝日新聞2014年6月2日8面社説）。「貧富による教育格差の克服」により、大学の知へのアクセスが難しくなった人々にとって、なるほどこれは大きな朗報に違いない。

決して安くはないコストを学生に課している通学型の対面授業は、当然それだけの価値を担保し続ける必要がある。従来から指摘されるように、時間と空間を共にする教員と学生相互のコミュニケーション密度の濃さ、余談や脱線までも含めたライブ感の知的刺激は、通信メディアを介した授業よりもはるかに豊かで満足感が勝る。教員はより高い付加価値を提供すべく、受講学生の知的好奇心を育むよう内容の充実に傾注し、長いと思われる授業時間中の集中力を持続させる工夫もますます重要になろう。もちろん今後は「ネットと教室を組み合わせる授業の質を高める」動きから、両者の強みを生かし教育効果のさらなる向上が期待される。

元気で若いエネルギーにあふれた大学生は、高校生以下にも社会人にもない特権を有している。もうお仕着せで受け身の学習は強いられない。また社会人のようなプレッシャーや責任もまだ負わされない。在学中はのびのびと学びの自由を享受できる。与えられる知識をただそのまま吸収するのではない。学びたいことを選択し、知識を得て、それを土台に自ら問題を発見、その解決を追求し行動してゆく姿勢へと意識改革が求められる。こうした学びをいかに活用して自己の知的・人間的成長を実現できるかが、卒業後のキャリアプランに大きな影響を与え可能性を広げよう。

自由にされてみると、今度は一体何をどうしたらいいのか途方にくれてしまう状況に直面するかもしれない。かくして大学の履修や生活の悩みは、多様で難しい。学生からの相談に積極的に応じて、また時には声かけもして必要な助言のできる体制づくりが大切だ。もちろん選択の最終的な決定権は、学生自身にあるのだと自覚してもらおう。

大学の主人公は学生たちで、教職員は彼らの良きサポート役である。

進学という人生の岐路にあたり縁あって駒澤大学を選んでくれた前途有望な若人たちが、ここに集っている。卒業時には力強い一歩を社会に向かって踏み出せるよう、常に良心的な支援に励むのが、われわれ教職員の務めである。

平成25年度FD研修会

平成25年度FD研修会は、平成26年3月13日（木、14:40～16:10）に、1-201教場で行われた。今回の「テーマ」は「Webによる授業アンケート」、講師は、株式会社ディスコの久保智宏氏であった。

この「テーマ」が選ばれた理由は、今年度、平成26年前期科目より、それまでの紙媒体による手書きの授業アンケートからC-LearningによるWeb（ケータイ・スマートフォン・PC）による授業アンケートに切り替わるためである。そのため、この研修会は、教員にWebによるアンケートに少しでも慣れていただくために用意されたものである。研修会の内容は、

- ① 「学生による授業アンケート」の実施方法
- ② 集計結果の確認
- ③ 教員による授業アンケートの設定方法

であった。

①の「学生による授業アンケート」の実施方法では、まず、講師による模擬「学生による授業アンケート」が具体的な説明とともに実施された。こののち、仮の名前、学籍番号、ログインID、パスワードが与えられ、教員は学生の立場に立って、自らログイン画面にアクセスして、ログインIDとパスワードを入力し、C-Learningにログインして、「学生による授業アンケート」を体験した。このとき、講師より、ほとんどの学生は、ケータイ・スマートフォンの「ポケット定額プラン」へ入っていると思われるが、そうでない学生にはそのプランへの契約の勧めがあった。

②集計結果の確認では、教員は模擬「学生による授業アンケート」の集計の結果を、即時に、スクリーン上で確認することができた。これは教員がアンケート結果を授業が終了した後、すぐに、個人のPCで確認できることを意味しており、この点が、Webによる「学生による授業アンケート」の大きな利点の一つである。

③教員による授業アンケートの設定方法では、授業内アンケートの作成方法を学んだ。これは、教員がすでに用意され

ているアンケート項目以外に、さらに学生に質問したい項目がある場合は、前もってその質問を作成して知らせる方法がある。これによって、教員はアンケートの内容をより多様性のあるものにして、学生に関するより多くの情報を得ることができる。

平成26年度のWebによる「学生による授業アンケート」の質問項目の内容は、昨年度の紙媒体の「学生による授業アンケート」のそれとは、多少の字句の変更以外は、そのままの形で行われる。これはWebによる「学生による授業アンケート」への移行に伴い、多少の混乱も予想されるため、その混乱を最小限度に抑えるためである。

(落合 和昭)



(研修会の様子)

■平成 26 年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も 4 月 1 日に今年度より新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員 12 名、非常勤教員 68 名の計 80 名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では廣瀬良弘学長より本学の建学の理念について、猿山義広教務部長より本学の教育方針等について、FD推進委員会小委員会委員長の田中靖委員長（文学部教授）より本学のFD活動について説明をいただき、事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet（コマネット）」、「ユーザーID」、「YeStudy（e-learning）等の利用について」）、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に係る説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室およびAV教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から教員教育研究費

等に関する説明を行いました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成 26 年 4 月 1 日（火）14：40～16：00

2. 出席者数

80 名（案内状発送 150 名）

3. オリエンテーション次第

- ・学長挨拶
- ・教務部長挨拶
- ・FD推進委員会小委員会委員長挨拶
- ・大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）
- ・質疑応答

質疑応答後、希望者を講師控室、AV教場に案内



(オリエンテーションの様子)

■平成 25 年度FD推進委員会及び小委員会の活動報告

平成 25 年

4 月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催

5 月

- ・第 1 回FD推進委員会及び小委員会を開催

6 月

- ・第 2 回FD推進委員会小委員会を開催
- ・2013 年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施
- ・FD NEWSLETTER 第 35 号を発行

7月

- ・第3回FD推進委員会小委員会を開催

9月

- ・FD NEWSLETTER 第36号を発行

10月

- ・第4回FD推進委員会小委員会を開催

11月

- ・2013年度「学生による授業アンケート」(後期)の実施
- ・平成25年度公開授業の実施(11月26日～12月7日)
- ・第2回FD推進委員会を開催

12月

- ・FD NEWSLETTER 第37号を発行
- ・第5回FD推進委員会小委員会を開催

平成26年

2月

- ・第6回FD推進委員会小委員会を開催

3月

- ・第3回FD推進委員会を開催
- ・平成25年度FD研修会を実施
- ・FD NEWSLETTER 第38号を発行
- ・平成25年度『FD活動報告書』を発行

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成26年度第3回FD推進委員会小委員会
平成26年7月23日(水) 14:00～

※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

編集後記

『FD NEWSLETTER 第39号』をお届けします。

巻頭言を学生部長の長谷部八朗先生、連載企画を国際センター所長の上野勝広先生にお願い致しました。ありがとうございました。

本年度から、学生による授業アンケートは紙媒体からWebに変わり、益々電子化が進んでおります。一方で、ネット社会に潜む、学生たちのコミュニケーション能力の低下を指摘せざるを得ません。教職員や友人、仲間(先輩、後輩)と語り、自己の確立と自立を目指してほしいものです。

大学生活においては、各自の自由な選択に任されているからこそ、自己責任を伴うこともわかってもらいたいのです。

2009(平成21)年10月に発行された『駒澤大学FDハンドブック—よりよい教育のために—』を本年度改訂いたします。我々、教職員は謙虚な姿勢と向上心を持って努力することが大切です。学生自身も学習の大切さと向上心を持って日々の努力が必要であると考えます。

最後に、年度初めのお忙しい中、原稿を寄せていただいた長谷部先生と上野先生に厚く御礼申し上げます。

(落合和昭・秋田浩一)

【タイトル横の写真は、8号館横のアジサイ】

FD NEWSLETTER Jun. 2014 第39号

発行日：2014年6月30日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)

～2014年度「学生による授業アンケート」(後期) 実施のお知らせ～

実施期間：平成26年11月10日(月)～29日(土)

対象科目：全科目対象(集中講義科目、演習科目、
受講生が20名未満の科目は除く)

※本年度よりWEBによるアンケートを実施しています(PC、スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用して回答されます)。

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- オープンキャンパス雑感
入学センター所長 文学部教授
瀧音 能之
- 2014年度「学生による授業アンケート」(前期) 集計結果
- グローバルな世界の読み書き
「国際関係とメディア」の実践について
グローバル・メディア・スタディーズ学部
准教授 芝崎 厚士
- FD推進委員会の今後の活動予定
- 2014年度「学生による授業アンケート」(後期) 実施のお知らせ
- 2014年度「公開授業」実施のお知らせ

オープンキャンパス雑感

入学センター所長
文学部教授 瀧音 能之

7月・8月に各々2日間、9月に1日の計5日間にわたって設定された今年度のオープンキャンパス(以下OC)も無事、すべての日程を終了することができた。

それにしても今年の暑さは、尋常ではなかった。それにもかかわらず、7月も8月も多くの来場者を迎えることができ、どの日も5000人に迫る数となった。そのような中、9月のOCも合わせてトータルで21450人というかつてない大規模な全学を挙げての行事となっている。

しかし、来場者の多さにばかり浮かれてはいられない。この猛暑の中、どうしても数が伸びたのかについてクールに分析することが重要であろう。

昨今のOCには、いくつかの傾向があるようである。1つは、1・2年生からの参加である。これは、高校側がOC巡りを夏休みの課題としていることが背景にある。来場してすぐに立ち去る高校生がいるが、これなどはまさにその典型といえるであろう。また、保護者の方々の増加も傾向の1つとしてあげられ、ご両親でみえることもまれではない。このことは、当然のことながら生徒の受験校選びに保護者の方々の影響が大きくなっていることをものがたっていよう。

それでは、OCの入場者数と本番での受験者数との相関関係はどうであろうか。これは難しい問題で、中には入場者の数を増やしてもそれが直接、受験者の増加にはつながらないという意見もある。しかし、本学の場合、7月・8月に来てくれた生徒の約50%、9月の場合は約80%が受験しているというデータがある。もちろん、データは年々変化するものであり絶対とは言えない。しかし、本学の場合、現場の感触とこのデータとの間に、齟齬はないように思われる。

なぜかという、それは、OCの実施の方法にある。入学センターは、入試課と広報課とからなっており、OCは、広報課が中心となって開催される。しかし、準備段階から入試課も含め入学センター15名の職員が総掛かり態勢で取り組んでいる。これに協力学生が加わる。いわば、手作りのOCである。来場者からのアンケートに、駒大生の明るさ・熱心さ・親切さが多数あげられているのだが、これは決してリップサービスではないと思う。職員たちは、こうした中でその年のOCの手ごたえを身をもって体感し、教員にも模擬授業等で体感していただいている。これが、本学の最大の強みである。

暑い中、定期試験期間中あるいは夏季休業中にご協力いただいた教職員の皆様に改めてお礼を申し上げますとともに、今後のOCへの更なるご協力を切にお願い申し上げます次第である。

2014年度「学生による授業アンケート」(前期)

の集計結果について

2014年度「学生による授業アンケート」(前期)を以下のとおり実施した。今回からC-Learningを利用したWeb上での回答となった。

実施日	平成26年6月2日(月)～6月21日(土)
対象科目	1,265科目
対象者数	83,286人(延べ人数)
実施科目数	1,265科目
有効回答数	46,822件(56.2%)

【質問項目】

Q1. 所属学部学科等

Q2. 学年

Q3. あなたの学生番号・氏名を担当教員に公開してよいか(※この設問で「公開する」を選択しても、実際に学生番号・氏名が公開されるわけではありません)。

Q4. どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

Q5. この授業に何回欠席しましたか。

1: 7回以上 2: 5～6回 3: 3～4回 4: 1～2回 5: 0回

Q6. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数回答可)

1: その他

2: 必修科目または選択必修科目だったから

3: 周りの人に勧められた

4: 資格の取得

5: シラバスを読んで興味を持った

Q7. この授業の予習・復習にあてた時間は1週間に何時間くらいでしたか

1: 1時間未満

2: 約2時間

3: 約3時間

4: 約4時間

5: 4時間以上

Q8. 授業に熱心に取り組みましたか。

Q9. 授業はほぼ定刻通りに行われていましたか。

Q10. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。

Q11. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていたか。

Q12. この授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。

Q13. 教科書・資料・教材・器具・用具等は効果的に使われていましたか。

Q14. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。

Q15. 教員の話し方や説明の仕方は適切と思えましたか。

Q16. この科目の授業内容についてよく理解できましたか。

Q17. 授業内容に興味が持てましたか。

(Q8～17 選択肢)

1: そう思わない

2: あまりそう思わない

3: どちらとも言えない

4: そう思う

5: 全くそう思う

Q18. ～Q20. 担当教員による個別質問

Q21. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q22. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

Q23. 担当教員による個別質問

【氏名公開の可・否の併用、学年別平均値】

授業改善に対する学生の誠実、真剣な意見・要望を集約できるようにするため、学生が氏名公開をするかしないかを選択する方式となっている。氏名公開の可否の割合は、図1のとおりである。氏名公開の可否別の平均値は表1のとおりである。また、学年別の平均値は、表2のとおりである。

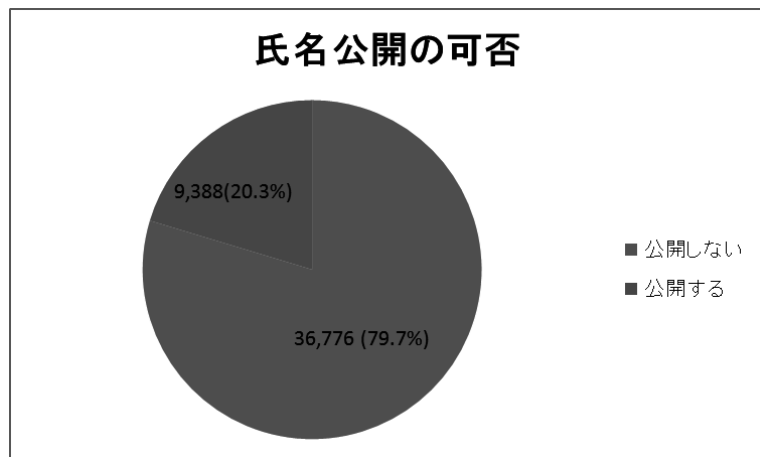


図1 氏名公開の可否の割合

表2 学年別の平均値

学年別	1年	2年	3年	4年	その他
Q5平均値	4.2	3.9	3.8	3.5	0.0
Q6平均値	2.6	3.1	3.7	3.8	0.0
Q7平均値	1.3	1.3	1.2	1.3	0.0
Q8平均値	4.0	3.8	3.8	3.9	0.0
Q9平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	0.0
Q10平均値	4.5	4.5	4.5	4.6	0.0
Q11平均値	4.2	4.2	4.2	4.4	0.0
Q12平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	0.0
Q13平均値	4.1	4.0	4.0	4.1	0.0
Q14平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	0.0
Q15平均値	4.1	4.0	4.0	4.2	0.0
Q16平均値	3.9	3.8	3.8	4.0	0.0
Q17平均値	3.9	3.8	3.9	4.1	0.0
有効回答数	20,971	14,553	7,294	3,346	0

	公開する	公開しない
Q5平均値	4.0	4.0
Q6平均値	3.0	3.0
Q7平均値	1.3	1.3
Q8平均値	4.1	3.8
Q9平均値	4.5	4.3
Q10平均値	4.6	4.4
Q11平均値	4.4	4.2
Q12平均値	4.2	3.9
Q13平均値	4.3	4.0
Q14平均値	4.5	4.2
Q15平均値	4.3	4.0
Q16平均値	4.1	3.8
Q17平均値	4.2	3.8
有効回答数	9,388	36,776

表1 氏名公開の可否別の平均値

【入試形態との関連】

2010年度より、入試形態と学生の授業への取り組み（出席状況、予習・復習時間など）との関連を把握するために入学試験タイプの質問を追加している（Q4）。なお、回答は任意とした（回答率98.7%）。（表3 入試形態別の項目別平均値）

表3 入試形態別の項目別平均値

入試形態別	一般入試	大学入試センター試験 利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校推薦入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q5 平均値	4.0	3.9	4.1	3.7	4.1	3.9	4.6	3.9	3.9	3.7	3.8
Q6 平均値	3.0	3.0	3.0	2.8	3.0	3.0	3.4	3.3	3.3	2.9	3.1
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.6	1.4	1.4	1.5	1.5
Q8 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9	4.0	4.2	4.0	4.0	3.9	3.9
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.5	4.3	4.4	4.5	4.2
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	4.6	4.4
Q11 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.4	4.1	4.4	4.3	4.1
Q12 平均値	4.0	4.0	3.9	4.0	3.9	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	3.8
Q13 平均値	4.1	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	4.3	4.0	4.1	4.1	3.9
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.2	4.3	4.2	4.1
Q15 平均値	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	4.2	4.0	4.2	3.9	3.9
Q16 平均値	3.9	3.9	3.7	3.9	3.7	3.8	4.1	4.0	3.9	3.7	3.6
Q17 平均値	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	3.7	3.7
有効回答数	24,703	4,018	4,770	1,399	4,753	4,738	595	93	342	152	601

【学部学科・専攻・部門別集計結果】

授業担当者の所属別に、専任教員と非常勤教員を分けて集計をした。

表4 教員所属の学部・専攻・部門別平均値

※「-」は前期アンケート対象科目なし

(学部)学科・専攻・部門	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値	-	-	-	3.9	3.9	-	4.6	4.6	-
Q6 平均値	-	-	-	2.8	2.8	-	2.0	2.0	-
Q7 平均値	-	-	-	1.1	1.1	-	1.1	1.1	-
Q8 平均値	-	-	-	3.3	3.3	-	4.1	4.1	-
Q9 平均値	-	-	-	3.9	3.9	-	4.5	4.5	-
Q10 平均値	-	-	-	4.1	4.1	-	4.7	4.7	-
Q11 平均値	-	-	-	4.1	4.1	-	4.2	4.2	-
Q12 平均値	-	-	-	3.7	3.7	-	4.0	4.0	-
Q13 平均値	-	-	-	3.8	3.8	-	4.1	4.1	-
Q14 平均値	-	-	-	3.8	3.8	-	4.3	4.3	-
Q15 平均値	-	-	-	3.5	3.5	-	4.2	4.2	-
Q16 平均値	-	-	-	3.0	3.0	-	4.0	4.0	-
Q17 平均値	-	-	-	3.2	3.2	-	3.9	3.9	-
有効回答数	-			59			117		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境		
	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値	4.1	-	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.2	3.7
Q6 平均値	2.4	-	2.4	3.7	3.6	3.9	3.6	3.2	4.1
Q7 平均値	1.4	-	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
Q8 平均値	3.8	-	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値	4.1	-	4.1	4.3	4.4	4.1	4.4	4.5	4.2
Q10 平均値	4.3	-	4.3	4.5	4.5	4.4	4.6	4.6	4.5
Q11 平均値	4.0	-	4.0	4.1	4.2	3.8	4.4	4.4	4.3
Q12 平均値	3.7	-	3.7	3.8	3.9	3.6	4.1	4.0	4.2
Q13 平均値	4.1	-	4.1	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値	4.1	-	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.0	-	4.0	3.9	3.9	3.8	4.2	4.2	4.2
Q16 平均値	3.7	-	3.7	3.6	3.7	3.5	3.7	3.7	3.8
Q17 平均値	3.4	-	3.4	3.8	3.8	3.7	4.0	4.0	4.0
有効回答数	184			1,034			621		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.4	4.4	4.2	4.0	4.4	3.8	4.5	4.7	4.4
Q6 平均値		2.5	2.2	4.0	3.9	2.0	4.5	3.4	2.6	3.9
Q7 平均値		1.2	1.0	1.9	1.1	1.0	1.1	1.3	1.1	1.4
Q8 平均値		3.9	3.8	4.3	3.9	3.8	3.9	4.0	4.2	3.9
Q9 平均値		4.2	4.2	4.3	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5
Q10 平均値		4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.6	4.8	4.7	4.9
Q11 平均値		4.3	4.3	4.5	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5	4.3
Q12 平均値		4.1	4.1	4.0	4.0	4.1	4.0	4.2	4.5	4.0
Q13 平均値		4.1	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.5	4.3
Q14 平均値		4.3	4.3	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	4.6	4.2
Q15 平均値		4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3	4.5	4.2
Q16 平均値		4.0	4.0	4.2	3.9	4.3	3.8	3.9	4.2	3.7
Q17 平均値		4.0	3.9	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.4	3.9
有効回答数		149			191			134		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.8	3.8	3.9	4.0	4.1	4.0	3.9	-	3.9
Q6 平均値		3.5	3.4	3.6	4.0	3.7	4.1	4.3	-	4.3
Q7 平均値		1.2	1.3	1.2	1.2	1.1	1.2	1.1	-	1.1
Q8 平均値		3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	4.0	3.9	-	3.9
Q9 平均値		4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.3	4.4	-	4.4
Q10 平均値		4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.4	4.6	-	4.6
Q11 平均値		4.2	4.4	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	-	4.3
Q12 平均値		3.9	4.1	3.9	4.2	4.2	4.1	4.0	-	4.0
Q13 平均値		3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.1	4.0	-	4.0
Q14 平均値		4.1	4.2	4.1	4.4	4.5	4.3	4.2	-	4.2
Q15 平均値		3.9	4.0	3.8	4.3	4.4	4.2	4.1	-	4.1
Q16 平均値		3.7	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	-	3.8
Q17 平均値		3.8	3.9	3.7	4.1	4.1	4.1	4.0	-	4.0
有効回答数		1,155			976			608		

(学部)学科・専攻・部門	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1	3.8	3.9	3.7
Q6 平均値		3.5	3.3	3.6	3.4	3.4	3.9	3.5	3.4	3.8
Q7 平均値		1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.6	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値		3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値		4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.4
Q10 平均値		4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値		4.2	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		4.0	4.0	4.0	3.7	3.8	3.5	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値		4.0	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
Q14 平均値		4.2	4.1	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2
Q15 平均値		4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.7	4.0	4.0	4.1
Q16 平均値		3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.4	3.7	3.7	3.8
Q17 平均値		3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9
有効回答数		5,944			2,197			2,353		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.9	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8	4.0	4.1	4.0
Q6 平均値		2.6	2.2	3.6	3.3	2.9	3.5	3.0	2.0	3.7
Q7 平均値		1.4	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値		3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.9	3.9	4.0
Q9 平均値		4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3
Q10 平均値		4.0	4.0	4.2	4.5	4.7	4.4	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値		4.0	4.0	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		3.4	3.3	3.8	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9
Q13 平均値		3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	4.1
Q14 平均値		3.9	3.9	4.0	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.2
Q15 平均値		3.6	3.5	3.7	4.1	4.2	4.0	4.0	4.1	3.9
Q16 平均値		3.4	3.3	3.5	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8
Q17 平均値		3.5	3.4	3.7	3.9	4.0	3.9	3.8	3.7	3.8
有効回答数		562			706			553		

(学部)学科・専攻・部門	(経営)市場戦略			(医療健康科)			(GMS)			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.9	4.0	3.8	4.4	4.5	4.4	3.8	3.7	3.9
Q6 平均値		3.0	2.8	3.7	2.1	2.1	2.1	2.7	2.8	2.6
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.3	1.7
Q8 平均値		3.8	3.8	3.6	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	4.2
Q9 平均値		4.3	4.3	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
Q10 平均値		4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.4	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.2	4.4
Q12 平均値		3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	4.0	3.9	4.1
Q13 平均値		3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	4.1
Q14 平均値		3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.3
Q15 平均値		3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9	4.0	3.8	4.2
Q16 平均値		3.5	3.6	3.4	3.7	3.7	3.7	3.9	3.7	4.0
Q17 平均値		3.6	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	4.1
有効回答数		714			1,182			4,416		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究)文化学			(総合教育研究)自然科学			(総合教育研究)日本文化			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	-
Q6 平均値		3.7	3.3	4.2	4.0	3.9	4.2	4.0	4.0	-
Q7 平均値		1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-
Q8 平均値		3.7	3.6	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	-
Q9 平均値		4.3	4.2	4.4	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	-
Q10 平均値		4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.7	4.7	-
Q11 平均値		4.2	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	-
Q12 平均値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.2	-
Q13 平均値		4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.2	4.2	-
Q14 平均値		4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	-
Q15 平均値		4.0	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	-
Q16 平均値		3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9	4.0	4.0	-
Q17 平均値		3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	-
有効回答数		579			2,627			1,300		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
Q6 平均値		2.2	2.5	2.2	2.3	2.3	2.2	3.0	3.0	3.0
Q7 平均値		1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.2	1.1
Q8 平均値		3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5
Q9 平均値		4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.6
Q10 平均値		4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値		4.1	4.0	4.1	4.2	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5
Q12 平均値		3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5
Q13 平均値		4.1	3.9	4.1	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4
Q14 平均値		4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	4.3	4.6	4.6	4.6
Q15 平均値		3.9	3.7	3.9	4.2	4.2	4.1	4.6	4.5	4.6
Q16 平均値		3.8	3.6	3.8	3.9	3.9	3.9	4.5	4.5	4.5
Q17 平均値		3.7	3.5	3.7	3.9	3.9	3.9	4.5	4.5	4.5
有効回答数		9,230			3,666			2,847		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 教職課程			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.1	4.1	4.1
Q6 平均値		3.8	3.8	3.8
Q7 平均値		1.1	1.1	1.1
Q8 平均値		3.9	3.9	4.0
Q9 平均値		4.5	4.5	4.5
Q10 平均値		4.6	4.7	4.5
Q11 平均値		4.3	4.3	4.3
Q12 平均値		4.1	4.1	4.1
Q13 平均値		4.2	4.2	4.2
Q14 平均値		4.4	4.4	4.3
Q15 平均値		4.2	4.2	4.2
Q16 平均値		4.0	4.0	4.0
Q17 平均値		4.0	3.9	4.0
有効回答数		2,060		

「学生による授業アンケート（前期）」集計結果について

2014年度前期授業アンケートは、前年度と同様の評価項目で実施された。以下の問いの文言を一部修正し、これまで質問項目としていなかった4項目(Q1所属学部、Q2学年、Q3学生番号・氏名の公開の有無、Q4入学試験形態)を加えた形をとり、例年Q1の評価項目をQ5からとした。Q5以下の質問項目は全部で19問(自由記述を含む)と例年通りであった。系統別に分けると、例年通り、「学生の自己評価」(Q5~Q8)、「教員の授業運営に関する評価」(Q9~Q12)、「教員の授業への取り組みに関する評価」(Q13~Q17)、「担当教員による個別質問」(Q18~Q20)、「授業の良かった点・改善してほしい点(自由記述)・担当教員による個別質問」(Q21~23)の5つのジャンルで構成される。

有効回答数は、46,822件と、前年度と比較すると2.42倍と増えたことになるが、これは対象科目数が、前年度461科目から1,265科目に増加したことにより、対象者数が33,618人から83,286人(延べ人数)に増えたことによる。半期科目の増加が顕著となって現れた結果である。

文言の微調整を記しておく、前年Q11「教え方はわかりやすかったですか。」をQ15「教員の話し方や説明の仕方は適切と思いませんか。」と変え、「教え方」の内容を具体的に示す問いにした。またQ12「この科目の授業内容をどのくらい理解できましたか。」をQ16「この科目の授業内容についてよく理解できましたか。」と変え、回答しやすい問いに直した。Q13「この授業で受けた知的刺激に対する満足度はどうでしたか。」については、Q17「授業内容に興味を持ってましたか。」という平易な質問形式とした。

まず、氏名公開の可・否については、「公開する」が9,388(全体の20.3%)、「公開しない」が36,776(全体の79.7%)となり、前年度前期の記入有14.6%と比較すると「公開する」の割合が5.7ポイント増え、更に前年度後期の記入有8.9%と比較すると11.4ポイントの増加となり、例年指摘されていることではあるが、氏名公開可のスコアの方が全ての評価項目について良好な結果がみられる。氏名記入者はアンケートへの責任ある回答が求められているという心理に働き、授業への満足度がより高い傾向にあると考えられる。

次に学年別でみると、有効回答数は、1年生20,971(全体の45.4%)、2年生14,553(全体の31.5%)、3年生7,294(全体の15.8%)、4年生3,346(全体の7.2%)と、例年通り、学年が上がるにつれて減る傾向は変わらない。しかし、前年度同期の学年別割合が39.3%、29.9%、19.24%、11.0%であったことと比較すると、1年生の有効回答数は39.3%から45.4%に増加したものの、4年生の有効回答数が11.0%から7.2%に減り、4年生の有効回答数の減少傾向が大きいことがわかる。選択している授業数が減ることに加えて、就職活動等、学外での活動が増加することにより授業への出席が益々減っていることが考えられるのではないだろうか。このサンプル数の違いを考慮に入れて各評価項目をみてみよう。学年が上がるごとにスコアが著しく上がった項目はQ6(2.6→3.1→3.7→3.8)である。授業を履修した理由を問う項目であるが、学年が上がるにつれて、「2:必修科目または選択必修科目だったから」→「3:周りの人に勧められた」→「4:資格の取得」→「5:シラバスを読んで興味を持った」となり、授業を履修した動機が具体的で明確になっている。同時Q14~Q17の項目についてもスコアが一定して高くなり、学年が上がるに連れて授業内容についての満足度が高くなっている。即ち、シラバスをしっかりと読み、目的をもって授業に臨む姿勢の表れではないだろうか。

続いて2010年度より追加された質問として「入試形態別の項目別平均値」を注意深くみてみると興味深い結果がわかる。その形態は留学生特別入試により入学した学生であることがみてとれる。有効回答数は595と、この項目の有効回答数41,411の内1.4%と極わずかではあるが、全ての項目で他の形態と比較して最も高いスコアを出している。留学生の満足度が比較的高い傾向にあることがわかる。本年度はどの項目も低い形態は特にみられなかった。

学部学科、専攻、部門別については以下の通りである。Q5~Q8「学生の自己評価」のジャンルでは、欠席回数が最も少ない4.7ポイントの文学部歴史学科考古学専攻が最も高く、授業履修の理由で資格取得やシラバスの検討をあげて高得点であったのは文学部歴史学科外国史学専攻の4.5ポイントが際立った。また授業への熱心な取組の項目では、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の4.5ポイントが突出している。Q9~Q12「教員の授業運営」の

ジャンルでは、Q10 休講が最も少なかったのは文学部歴史学科考古学専攻の 4.9 ポイント。シラバスの反映や進み具合で好評価であったのは文学部歴史学科考古学専攻と、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の 4.5 ポイントであった。Q13～Q17「教員の授業への取組」のジャンルでは、教員の話し方、授業の理解度、興味をもてたかどうかの項目で、こちらも文学部歴史学科考古学専攻 4.6、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の 4.5 という結果である。有効回答数の少ない学科が総じて好評価を獲得していることは確かである。

最後に専任と非常勤の比較であるが、今年度は両方の有効回答のある学部学科・専攻・部門は、計 22 となり、そのうち 14 の学部・部門において、非常勤の方が専任よりも評価が高かった（文学部歴史学科日本史学専攻、同学部同学科外国史学専攻、経済学部経済学科、同学部商学科、同学部現代応用経済学科、法学部法律学科、経営学部経営学科、同学部市場戦略学科、医療健康科学部、GMS 学部、総合教育研究部文化学部門、同研究部自然科学部門、同研究部外国語第一部門、同研究部スポーツ・健康科学部門）

以上、2014 年度前期授業評価アンケートの分析結果である。学生授業評価アンケートが実施されて昨年で 10 年。今年は 11 年目に入り、C-Learning による実施という新たな一歩を踏み出した。アンケート内容、実施方法、結果の活用方法など、更に分析を重ね、駒澤大学の益々の発展に寄与することができれば幸いである。

(各務洋子)

連載企画：よりよい教育のために

グローバルな世界の読み書き

「国際関係とメディア」の実践について

グローバル・メディア・スタディーズ学部 准教授
芝 崎 厚 士

大学教育の課題のひとつは、専門的な学問の構造やその学問が問おうとしている問題を理解させ、その問題を自分で考えられるようにすることである。学者と教育者の資質は本来的に偶然にしか一致しないとやや悲観的に

捉えるマックス・ウェーバーも、同様のことを『職業としての学問』で述べている。

筆者の専門である国際関係研究（国際関係論、国際政治学などの総称）の教育も、この課題を負っている。しかし、国際関係研究は国際関係現象を部分的に切り取る学問であると同時に「この世界とは何か」「世界はこれからどうなるのか」という人間と世界との関係を総体的に問う学問でもある。この総体的な問いは、どのような部分的な問いとも常に有機的な関係を持つ。つまり、どのような部分的な問いからも、総体的な問いを考えることができるのである。そしてこの問いはどんな進路を選ぼうとも、一生人間について回る問いであり、国際関係教育はこの問いの問い方、考え方を身につけさせる使命を担っている。

このような考えをもとに初学者向けの「国際関係とメディア」で筆者が行ってきたのは、新聞・ウェブ記事、教科書的概説、各種映像・音楽作品などを小テスト形式で読み解かせ、すべての作業を記述させ提出させる授業である。

文字・画像・映像・音楽など多様なメディア形式を読み解き、解説を聞きながら B4 の答案用紙両面一杯に書き込む作業によって学生は、常に具体的な問題に即して「自分はどの理解したか」「自分は何を思い、何を考えたか」をその場で答えを出していく。

いわば、学問の基礎を学びつつ、グローバルな世界を自分なりに＝能動的に読み書きし掴み取るレッスンを毎週積み重ねていく。幸い学生にも好評で、オープンキャンパスでこの形式を経験して、入学後受講を楽しみにしていたという学生もいたことはささやかな喜びであった。

この授業については 2012 年の日本国際政治学会などいくつかの学会、研究会で模擬授業を含めた報告を行い、参加者からは概ね好意的に迎えられた。今秋の日本平和学会でもその改訂版の報告を、模擬授業込みで行う。例年後期の土曜三限に開講しているので、ご関心の向きがあれば、いつでも（ただし鉛筆を何本か持参の上）ご参加を歓迎する次第である。

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成26年度第4回FD推進委員会小委員会
平成26年10月2日(木) 16:20～
 - 平成26年度第3回FD推進委員会
平成26年10月30日(木) 16:20～
- ※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

2014年度「学生による授業アンケート」 (後期)実施のお知らせ

実施期間：平成26年11月10日(月)～29日(土)

対象科目：全科目対象(集中講義科目、演習科目、
受講生が20名未満の科目は除く)

※本年度よりWEBによるアンケートを実施しています
(PC、スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用して回答されます)。

2014年度「公開授業」実施のお知らせ

今年も例年通り11月下旬から12月上旬にかけて「公開授業」を実施いたします。「公開授業」はよりよい授業の在り方を再考し、教える技術(教授法)について学ぶことができる貴重な機会となりますので是非ご参加ください。

日程等、詳細が決定しましたら、各学部等事務室及びKONMAでお知らせいたします。

編集後記

後期の授業もはじまり、毎日お忙しい日々をお過ごしと思います。さて、今回の「FD NEWSLETTER」は前期の授業の学生アンケートを中心テーマに編集いたしております。今回のアンケートは全てWeb化されてから初めての施行でした。学生さん達も手間どった場面があり、ご指導の先生方には大変お手数をお掛けいたしました。本当にご協力ありがとうございました。今回の「FD NEWSLETTER」の中では、大学全体や各学部ごとの学生さんのアンケートの集約結果を掲載いたしております。各先生方の個人の授業アンケートの結果はもうすでにお手元にあり、それらの結果を基にして、後期の授業を更により良いものへと進化させるべく、熱心に日夜授業改善に取り組んでおられると思います。先生方お手元の詳細な授業アンケート結果に今回の全体像としてのアンケート結果をお加え頂き、学生指導の参考にして頂けると幸いです。他大学の様子を垣間見ますと、学生の授業アンケートを全て公表している所が年々増えております。アンケート結果を見てその大学に興味を持ち、オープンキャンパスに来られる学生さんもいるとの話も聞いております。本大学のFD活動が、アンケート結果だけでは語れない素晴らしい特徴ある先生方の授業を今後とも進化させて頂くための一助になればと思います。

(各務洋子・熊坂さつき)

【タイトル横の写真は、8月のオープンキャンパスの様子】

FD NEWSLETTER Sep. 2014 第40号

発行日：2014年9月30日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- アクティブ・ラーニングと大学図書館
図書館長 法科大学院教授
日笠 完治
- 平成26年度公開授業の実施について
 - 公開授業を終えて
法学部准教授 岡田 好弘
 - 平成26年度「公開授業」を参観して
法学部准教授 田中 優企
 - FD公開授業と意見交換会を振り返って
経営学部教授 鹿嶋 秀晃
- 教育改革 ICT 戦略大会に参加して
仏教学部講師 山口 弘江
- FD推進委員会の今後の活動予定

アクティブ・ラーニングと大学図書館

図書館長

法科大学院教授 日笠 完治

少子化時代の課題が徐々に大学にも迫ってくる。様々な分野で日本が世界をリードして行くためには、その能力を十分に備えた学生を育成しなければならない。今まさに、これが大学に求められていることである。そのために、学長を中心とする学内ガバナンスの強化と組織改革（学校教育法改正）、教育手法ないし技術の改善（FD）、「教育の質」の保証と「学生の能力」の保証、情報通信技術（ICT）の進歩やグローバル化への対応、人間力の向上に必要な教養教育ないし建学の精神に基づいた人格陶冶の指導等が政府方針として掲げられている。駒澤大学も総合的な変革と大きな展望、そしてその積極的実施が必要不可欠となっている。

そのような大きな枠組みの中で、教育関連としては「アクティブ・ラーニング」がテーマである。学習過程が、「聞き・読み・書き・話す」の要素からなるとすると、これらの要素を受動的なものから主体的・積極的なものへと転換する方法や機会を開発提案し、実地に移していくが必要になる。たとえば、教育技法でいうと、従来の予習を「Webを利用した授業前配信講義」とし、授業時間はプレゼンテーション、ディベート、双方向・多方向の質疑応答、グループ討論・研究、問題解決学習（PBL）等の主体的学習活動を行わせることとし、授業後にレポートや確認テストを行う形式の「反転授業」などが提案実験され、またその大人教授業での可能性についても研究されている。

図書館としては、これらの状況変化を踏まえつつ、グループ読書室を3室に増設した。本年は、読書を通じて情報発信力（プレゼンテーション能力）やコミュニケーション能力の向上に寄与するための「ビブリオ・バトル」を2回開催した。また、学生が学外の書店に向いて図書館に必要と思う書籍を選択する「選書ツアー」も実施した。知的好奇心を湧き立てる展示企画にも精力を注ぐと共に、Webで論文等の配信をする機関リポジトリへの積極的取り組み、同時に古典籍等の保管のための地道な努力も続けている。

図書館は、大学における知の拠点である。そして、大学図書館間の連携は密である。少子化時代であっても、有為な人材を育成し世界へ輩出するために、専門的資料の整理保管や閲覧提供だけにとどまらず、丁寧なサービスを心掛けた活動を続けたいと思う。将来的には滞在型の研究学修図書館として、アクティブ・ラーニングの聖地となり、学生が世界に飛び立つためのハブ（中核基地）となることを願っている。

平成26年度公開授業の実施について

平成26年度「公開授業」を以下のとおり実施した。「公開授業」は、授業改善のための教員による相互研鑽を目的とし、工夫に富んだ授業に接し、その体験によるさまざまな発見を通して、今後の授業改善のためのヒントを得ることにある。公開授業は、各学部等のFD推進部会のご協力により、各学部等主体にて実施された。

学部	担当教員	実施日	時限	教場	科目名称	
仏教学部	石井 清純	11/11 (火)	3	禅研-坐禅堂	坐禅	
	熊本 英人					
	村松 哲文	11/28 (金)	2	1-403	仏教美術史	
文学部	寺前 直人	11/27 (木)	4	9-178	考古学特講V	
経済学部	吉田 真広	11/25 (火)	1	9-392	国際金融論 b	
	石川 祐二		3	2研-203	会計史	
	清水 卓		3	9-391	現代西欧経済論	
	鈴木 伸枝		3	1-301	ゲーム理論 b	
	岩波 文孝	11/26 (水)	1	8-360	企業管理論 b/経営管理論 b	
	宮田 惟史		1	1-401	経済学史 b	
	有井 行夫		2	8-255	経済理論 A・資本の原理/ 経済理論 I A・資本の原理	
	北口 りえ		3	8-465	税務会計論 b	
	森田 佳宏		3	1-302	会計監査論 b	
	友松 憲彦		4	8-255	西洋経済史 b	
	小林 正人		11/27 (木)	1	8-255	日本経済論 b
	番場 博之			1	8-465	流通政策 b
	荒木 勝啓			2	8-360	ミクロ経済学
	小西 宏美			2	8-465	ファイナンス基礎 b
	鄭 章淵	2		8-467	アジア経済論 b	
	村松 幹二	3		8-256	契約理論	
	谷敷 正光	3		9-391	教育経済論 b	
	小西 宏美	4		8-257	グローバル・ファイナンス b	
	瀬戸岡 紘	4		1-301	アメリカ経済論 b	
	中濟 光昭	5		8-151	就業力応用IV	
	松田 健	5	8-152	就業力応用IV		
	江口 允崇	11/28 (金)	1	9-392	財政学 b	
	小杉 修二		2	1-404	中国経済論 b	
	山縣 弘志		2	8-151	ロシア・東欧経済論 b	

経済学部	吉田 真広	11/28 (金)	2	8-150	貿易史 b
	友松 憲彦		3	9-392	経済学入門 b
	西村 健		4	8-255	企業経済学 b
	石川 祐二		5	2研-203	管理会計論 b
	曾我 信孝	11/29 (土)	3	2研-209	マーケティング b
	代田 純	12/1 (月)	1	9-391	金融論 b
	姉齒 暁		3	1-303	消費経済論 b
	荒木 勝啓		3	1-302	応用ミクロ経済学 b
	溝手 芳計		3	8-465	農業政策 b
	村松 幹二		4	1-203	制度の経済学
	明石 英人	12/3 (水)	1	9-391	経済理論 Ab
	齊藤 正		2	8-256	現代銀行事情
	堀 龍二		3	8-152	人的資源管理論 b
	小栗 崇資	12/4 (木)	2	8-150	財務会計論 b
	松井 柳平		2	8-152	ミクロ経済学
	石川 純治		3	1-302	会計情報論 b
	舘 健太郎		3	9-392	産業組織論 b
	大石 雄爾		4	9-289	経済理論 B・経済システムの原理/ 経済理論 I B・経済システムの原理
	瀬戸岡 紘		4	1-301	アメリカ経済論 b
	浅田 進史		5	1-203	キャリア・デザイン応用 b
明石 英人	12/5 (金)		2	8-152	社会経済学 b
浅田 進史		4	9-391	経済史 b	
吉田 敬一	12/6 (土)	1	2研-102	中小企業政策論	
百田 義治	12/8 (月)	4	8-466	企業経営学 b	
光岡 博美		5	9-392	社会政策 b	
法学部	岡田 好弘	11/26 (水)	3	8-360	民事執行・保全法
経営学部	豊田 太郎	11/25 (火)	2	8-255	経営学
医療健康科学部	森口 央基	12/2 (火)	1	7-202	医療統計学
GMS学部	服部 哲	11/26 (水)	2	1-401	Web コンテンツ基礎
総合教育研究部	黒住 早紀子	11/25 (火)	5	9-171	教職実践演習 (中・高)
	瀧本 誠	12/2 (火)	2	玉川第2体育館地下・トレーニングルーム	健康・スポーツ実習

■ 公開授業を終えて

法学部 准教授 岡田 好弘

11月26日に「民事執行法・保全法」の公開授業を行いました。3年生からの選択科目であり、法学の基幹科目でもある「民事訴訟法」の発展した科目という位置づけです。

他大学での経験からすると、履修者がそれほど多いことはないというイメージの科目なのですが、本学ではなぜか例年多くの学生が履修登録をしてくれています。

ただ、3年と4年の2学年が履修できるとはいえ、学年定員が300人余の学科で、約300人が履修登録しているのはあまりにも多すぎで、おそらく講義内容よりも水曜の3限という時間割配置の良さなどが原因であると考えています。

履修者の大半は前提知識を欠いているか、あるいは科目内容の習得に前向きであるとは限らないことも考慮し、講義のレベルを維持しつつ、せっかく履修登録してくれた関心の薄い学生を出来るだけ維持するよう工夫できないかと腐心しています。以下では、私の講義運営のスタイルについて述べます。

1.教科書の指定

特定の書籍を教科書として指定しています。できるだけ安価な書籍を指定するようにしています。講義中は教科書のどこの部分について話しているのか、ページ番号などを頻繁に伝えるようにしています。

2.出席チェック

出欠の確認は原則として毎回行います。非常勤講師室備え付けの小さい出席票を講義開始時に配布し講義終了時に回収するという古典的な方法です。配布の際には1人ずつか机ごとに直接手渡しに巡回します。携帯電話等による出席システムは何度か試しましたがうまく行かなかったので現在は使っていません。

遅刻してきた学生には、講義終了時に出席票の端の角をちぎって渡します。学生に心理的圧迫を与えるためです。

欠席・遅刻による不利益扱いはしていません。あくまで学生の出席を促すためです。とりあえず出席し、睡眠や内職しながらでもたとえ10分でも講義を聞けば、欠席するよりも教育効果があると考えています。

3.板書・プロジェクト

講義は黒板へのチョークによる板書を原則とします。字が読みにくいとの苦情をよく受けますが、なかなか改善出来ないのが悩みです。パワーポイントなどのスライド形式は使いません。教室によっては投影が見にくかったり、照明を消すと学生の手許が暗すぎたりすることが多いからです。今後は導入を検討したいと考えています。

4.資料提示

資料提示は印刷物の配布を多用します。文字や画像の情報が学生の手許に確実に残るのが望ましいと考えます。印刷が

手間なのと紙資源の浪費が気にはなります。

具体的なイメージを持ちにくいという科目の特性上、資料映像などもできるだけ上映したいと思っており、ときおり映画の一部などの上映や、ネット情報の検索実演をします。パソコン等の準備に手間がかかるので頻繁にはしません。投影が見にくい教室もあるので残念です。

5.私語等への対応

睡眠・内職などは寛大に対応する方針です。私語がひどい時には講義を中断して静かになるまで沈黙するなどの対処をすることにしていますが、本学において私語で講義が困難になったことはなく、この授業などは驚くほど静かに聴講してくれています。



■ 平成26年度「公開授業」を参観して

法学部 准教授 田中 優企

平成26年11月26日(水)3時限、岡田好弘先生による公開授業「民事執行・保全法」(法学部法律学科フレックスA)を参観する機会を得た。同科目は、私の担当科目である「刑事訴訟法」と同様、いわゆる「手続法」(権利や義務などの実現のために執るべき手続や方法を規律する法)と呼ばれる分野に属するものであり、とりわけ興味深く拝聴した。本稿では、当日の授業の概要を紹介した上で、他の授業でも参考になるとと思われる授業実施上の工夫・配慮について示していくこととする。

当日の授業は、指定のテキスト2冊(概説書及び判例解説集:いずれも初学者向けのスタンダードなもの)に加えて、当日の授業テーマ(現況調査に当たっての執行官の注意義務)に関係する近時の裁判例のコピーやインターネットの関連サイトを用いつつ、板書を交えながら展開された。法律学の授業においては、従来からの議論や裁判例はもちろんのこと、直近の裁判・実務上の動向や現状の分析を提供することも欠かせないものであり、そのような配慮が見受けられた。

これに加え、授業実施上の工夫・配慮として、第一に、当日の授業テーマの前提となる知識の喚起方法が挙げられる。以前の授業で説明がなされた知識について、その重要なポイ

ントを指摘しながら学生に喚起させるのであるが、教員が単に再度提供して済ましてしまうのではなく、学生一人一人が自ら喚起できるように、質問の形で問い掛けていくのである。教員としては、一方的に再度提供してしまう方が時間の関係で効率的であるが、知識の定着という点では、学生自らに頭の中で考えさせて思い起こさせる方が望ましいであろう。

第二に、授業テーマを絞って、内容を詰め込みすぎないということが挙げられる。前述した授業テーマについて、その基本となる考え方を示したリーディングケース(最高裁判所による裁判例)を説明した上で、近時の適用例(下級審の裁判例)なども丁寧に確認しながら、学生に考えさせるという形で進められていた。年間の授業スケジュールを考えると、1回の授業に複数の内容を詰め込みがちであるが、学生の理解の程度・様子なども考慮しながら、あえて1つに絞って、その理解を深めさせるという方法も織り交ぜていく必要がある。

最後に、裁判例を採り上げる際に、学生が、その事案の事実関係について十分なイメージを持つことができるよう、適宜、説明を加えていくという工夫が挙げられる。過去の裁判例の事実関係の中には、現在の学生に理解できない事柄が含まれていることもあるため、学生の目線に立った解説が必要となる。

以上、当該授業の実施上の工夫・配慮について気付いた点を挙げさせて頂いた。私の管見のため、岡田先生が払われた工夫・配慮を多々見落としていると思われるが、ご容赦頂ければ幸いである。

末筆ながら、今回、貴重な機会を頂いたことに、岡田先生に改めて御礼申し上げます。

FD 公開授業と意見交換会を振り返って

経営学部 教授 鹿嶋 秀晃

経営学部では今回の公開授業を豊田太郎先生にお願いした。経営学科1年生400名向けの必修科目「経営学」を2コマ分割した科目である。

当日は、まず片桐学部長から受講生に対して大学がなぜ公開授業を行うのかその意義を説明いただいた上でスタートした。我々は後ろに陣取って講義を聞き、昼休みに昼食を取りながら意見交換会を開催した。

今回FD委員と学部執行部がこの企画を進めるにあたって工夫をした点がある。

第1はなるべく多くの教員が参加でき、かつその後の意見交換会にも出席できるよう2限目の講義を選択した点である。その甲斐もあって公開授業と意見交換会には29名いる教員のうち12名が参加できた。

第2は意見交換会では、各教員が上から目線で授業を評価するのではなく、参加者各々が学んだことを話し合うという

スタイルを意識した点である。豊田先生は教歴10年のベテランであり、そもそも我々が一方的に指導する立場にない。また、一挙手一投足を細かく指摘するやり方では教員のモラルを下げかねないし、それを続けていると次の受け手がいなくなってしまう。私はこの学科主任在任中に、オープンキャンパスの模擬授業で12名の経営学部教員から授業を聞かせていただく場所にいた。そこで一番学んだのは、各先生が個性に富んだ独自の興味の引かせ方、授業運営方針をお持ちでそれが大変勉強になるし、何より授業の進め方を自省するいい機会になるという点であった。話し合いの上でベストプラクティスを共有するというやり方もあるだろうが、教員自らが他の先生の授業に出かけて行って勉強させてもらうというスタイルが元来学究肌の教員にはあっているのではないだろうか。

第3は冒頭にも述べたことだが、大学が組織的に授業改善に取り組んでいる姿勢を学生にも知ってもらうよう努めた点である。「教員の側も一生懸命やっているんだ」という姿を見せていれば、学生に対しても「あなたたちももっと頑張らなさい」と叱咤激励することができる。

さて公開授業の方であるが、今回最も特徴的だったのは、豊田先生の教科書を使った授業スタイルだと思う。理科系出身の教員から1章から順に授業を進めていくのはごく自然なやり方だという意見もあったが、大半の文系教員はこのスタイルに遭遇したのが初めてであった。学生には事前に該当章を読ませておき、当日はそれを前提に授業では補足説明をし、最後に質問の時間を取り、積極的に良い発言や質問をした学生に対してポイントを与えるという参加型の手法を取り入れた授業であった。200名近い1年生をいかに授業に集中させるか、豊田先生ならではの工夫を学ぶことができた。そのせいあってか、後ろの方に座っている学生でも板書以外の先生の発言についてメモを取る姿が散見された。

また意見交換会では、公開授業の話題をきっかけに日頃の授業で困っている問題を相談し合うなどとても良い雰囲気での交流することができた。

連載企画：よりよい教育のために

教育改革 ICT 戦略大会に参加して

仏教学部 講師 山口 弘江

本学で教鞭をとって2年目、初年度とは違う壁にぶつかり暗中模索が続く中、ふと「教育改革 ICT 戦略大会」のパンフレットに目がとまった。そこに躍る「ラーニングコモンズ」「アクティブラーニング」「反転授業」「MOOC」など、昨今の教育界をにぎわす用語に惹かれ、9月4日より3日間にわたって開催された大会の1日目に参加した。ここではその報

告をかねて雑感を述べさせていただきたい。

参加した初日は全体会ということで、6つのテーマによる講演ないしは報告発表がなされた。「ICT（情報通信技術）」を掲げる会とあって、先駆的な教育の取り組みが紹介され大いに刺激を受けたが、中でも最も印象に残ったのは、「大学教育に対する卒業生からの改善要望」という3名の若手社会人（教育システム関連の企業就職者）が意見を語る発表であった。その中で、「学生時代には大学での授業に熱心に取り組んだという実感はない」「今、社会人として役立っていることは、アルバイトなど大学教育以外の場で身につけたものだ」との発言がうち2名から続いて出たのである。

このような意見は自分自身の経験からも頷けることではあるが、教育の現場で奮闘する聴衆者にとっては、耳をふさぎたくないような発言であったろう。そのためか、発表後にはその真意を問直すような質問が寄せられていた。

一方で彼らからは、「社会に出てみて大学で行われる授業内容の重要性を再認識した」「機会があれば学び直してみたい」という意見も異口同音に述べられていた。確かに、これと同様の意見は、本学のオープンキャンパスでも耳にしたことがある。仏教学部の場合、付き添いの父兄には本学の卒業生が少なくない。そういった父兄と面談すると、「学生の頃は授業に興味を持てなかったが、勉強しなおしてみたい」との声が往々にして聞かれるのである。これらの発言からは、卒業生のフォローという面での社会人教育が、今後ニーズとして高まっていく兆しが感じられよう。

さて、結論から言えば、たった1日の大会参加で私の試行錯誤の日々は変わるはずもなく、初日より3日目のICT活用に関する諸報告（本学からは経営学部の青木茂樹教授が発表）の参加の方が具体的な情報が得られたのではとの反省も残った。しかし、若手のうちから意識的にこのような場に参加することは、自身の教育を振り返り、将来の教育の方向性を考える上で不可欠だとの実感を持てた。今後もその思いを忘れず、本学にもこのような取り組みの輪がより一層広がるよう、微力ながら努めていきたい。

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成26年度第6回FD推進委員会小委員会
平成27年1月28日（水）
 - 平成26年度第7回FD推進委員会小委員会
平成27年2月17日（火）
 - 平成26年度第4回FD推進委員会
平成27年3月12日（木）
- *FD活動についてご意見がありましたら、各学部等のFD推進委員会小委員会委員まで申し出てください。

編集後記

今年度も公開授業の時期を迎えた。公開授業は、いつもは教壇に立つ側の教員が、学生と同じ机に座り、他の教員から学ぶ貴重な機会である。公開授業は、普段の自分のルーティーン化した授業を見直すきっかけにもなる。筆者の大学生時代と比べて、授業のやり方が多様化している現在、他の教員の授業運営の工夫から学ぶことは大変多い。

公開授業に参加してみると、教員が様々な点で工夫していることに気付かされる。板書のほうが教育効果が高いということで、敢えて板書を多用する授業もあれば、大講義であっても、学生にネームプレートを配布して学生間のインタラクティブを増やそうとしている授業もある。筆者が所属する経営学部では、今年度、豊田太郎先生の「経営学」の公開授業を実施したが、豊田先生の授業では、授業で説明する理論について、適宜DVD（NHKの経済ドラマ『ハゲタカ』）を見せながら、理論と実務との橋渡しをしているそうである。また、授業中、質問に対して発言があった学生には発言点を与えたりと、大講義であっても学生の積極性を高める工夫をされていた。

現在、FD委員会においても今後の授業運営のキーワードとして、アクティブ・ラーニングが議論されている。文科省によると、アクティブ・ラーニングとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」である。いかに学生の能動的な学修を促していくのかという問題については、すでに各教員が取り組んでいるように思える。今後の課題としては、各教員の授業の工夫や取り組みを共有し、各授業をより改善していく議論を重ねていくことであろう。

（菅野佐織、中濱義章）

【タイトル横の写真は、図書館】

FD NEWSLETTER Dec. 2014 第41号

発行日：2014年12月15日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

（事務局：教務部）

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- FDハンドブックの改訂にあたって
FD推進委員会小委員会委員長
文学部教授 田中 靖
- 2014年度「学生による授業アンケート」(後期)集計結果
- 会計プロクラスの講義について
経済学部客員教授 内山 峰男
- 平成26年度FD研修会

FDハンドブックの改訂にあたって

FD推進委員会小委員会委員長
文学部教授 田中 靖

昨(2014)年末、『駒澤大学FDハンドブック —よりよい教育のために— (改訂版)』が刊行されました。この本は、2009年に刊行された第一版を5年ぶりに改訂したものです。5年前にこのハンドブックが発刊されるまで、本学で授業をする上で必要な情報を系統的にまとめたものは存在せず、教員は主に自らの経験と勘で授業の準備を進めていたものと思います。しかし、それでは授業を「改善」する前に多くの時間を費やしてしまうことは明らかです。この本を企画した当時のFD推進委員会の方々に感謝する次第です。

旧版と今回の改訂版を比較すると、この5年間における本学の変化が良く分かります。具体的には、シラバスの書き方が厳格化され、単位認定基準には予習・復習の時間まで示されるようになり、成績評価は絶対評価を基本とする「優良可…」から相対評価を基本とする「SABC…」となりました。また、eラーニングシステムの利用方法や授業支援ツールなどに関する記載が増え、履修登録・授業アンケートの実施・結果の集計、シラバスの作成・提出・閲覧、成績の提出・学生の成績確認などがいわゆる「Web化」されるなど、技術的な面でも近年の変化の速さを感じずにはられません。

一方で、良かれと思って行っているこのような変化にも当然、負の側面があります。例えば、シラバスは学生に紙で配布しなくなったことにより、明らかに「見られなく」なりました。単位認定基準の明確化・厳格化についても、現実にそぐわない面が多々あり問題が大きいと考えています。危惧していたWeb化にともなう授業アンケートの回収率は、予想通り下がりました。この春の履修登録時の混乱も、履修登録のWeb化が原因の一つであることは明らかです。社会の流れに従って変化を受入れていくことは大切ですが、本当のFDはこれらの現実とよく向き合いながらやっていく必要があります。学生にそっぽを向かれた大学に生き残る道はありません。

最後に、本書には旧版同様、現場で奮闘する多くの教員による「実践編」が掲載されています。本学では、すでに制度的な取り組みを超えて、各教員により学生が求める丁寧な授業が行われていることが分かります。これらの取り組みを全学的な立場から応援する仕組み作りも、今後FD推進委員会に求められる仕事だと感じました。

新しくなった『FDハンドブック』、是非ご活用ください。

2014 年度「学生による授業アンケート」(後期) の集計結果について

2014 年度「学生による授業アンケート」(後期)を以下のとおり実施した。

実施日	平成 26 年 11 月 10 日(月)～11 月 29 日(土)
対象科目	1,668 科目
対象者数	141,755 人(延べ人数)
実施科目数	1,668 科目
有効回答数	57,572 件(40.6%)

【質問項目】

Q1. 所属学部学科等

20: 仏教 19: 国文 18: 英米文 17: 地理 16: 日本史学
15: 外国史学 14: 考古学 13: 社会学 12: 社会福祉学
11: 心理 10: 経済 9: 商 8: 現代応用経済 7: 法律 A
6: 法律 B 5: 政治 4: 経営 3: 市場戦略
2: 診療放射線技術科 1: グローバル・メディア

Q2. 学年

5: 4 年 4: 3 年 3: 2 年 2: 1 年 1: その他

Q3. あなたの学生番号・氏名を担当教員に公開してよいか(※この設問で「公開する」を選択しても、実際に学生番号・氏名が公開されるわけではありません)。

2: 公開する 1: 公開しない

Q4. どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

11: 一般入試 10: 大学入試センター試験利用入試
9: 一般推薦入試 8: スポーツ推薦入試 7: 指定校推薦
6: 附属校推薦入試 5: 留学生特別入試
4: 帰国生特別入試 3: 編入学入試 2: その他
1: 回答しない

Q5. この授業に何回欠席しましたか。

5: 0 回 4: 1～2 回 3: 3～4 回 2: 5～6 回 1: 7 回以上

Q6. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数回答可)

5: シラバスを読んで興味を持った
4: 資格の取得
3: 周りの人に勧められた

2: 必修科目または選択必修科目だったから

1: その他

Q7. この授業の予習・復習にあてた時間は 1 週間に何時間くらいでしたか。

5: 4 時間以上

4: 約 4 時間

3: 約 3 時間

2: 約 2 時間

1: 1 時間未満

Q8. 授業に熱心に取り組みましたか。

Q9. 授業はほぼ定刻通りに行われていましたか。

Q10. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。

Q11. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていましたか。

Q12. この授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。

Q13. 教科書・資料・教材・器具・用具等は効果的に使われていましたか。

Q14. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。

Q15. 教員の話し方や説明の仕方は適切と思えましたか。

Q16. この科目の授業内容についてよく理解できましたか。

Q17. 授業内容に興味がありましたか。

(Q8～17 選択肢)

5: 全くそう思う

4: そう思う

3: どちらとも言えない

2: あまりそう思わない

1: そう思わない

Q18. ～Q20. 担当教員による個別質問(択一形式)。

Q21. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q22. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

Q23. 担当教員による個別質問(テキスト形式)。

【氏名公開の可・否の併用、学年別平均値】

授業改善に対する学生の誠実、真剣な意見・要望を集約できるようにするため、学生が氏名公開をするかしないかを選択する方式となっている。氏名公開の可否の割合は、図1のとおりである。氏名公開の可否別の平均値は表1のとおりである。また、学年別の平均値は、表2のとおりである。

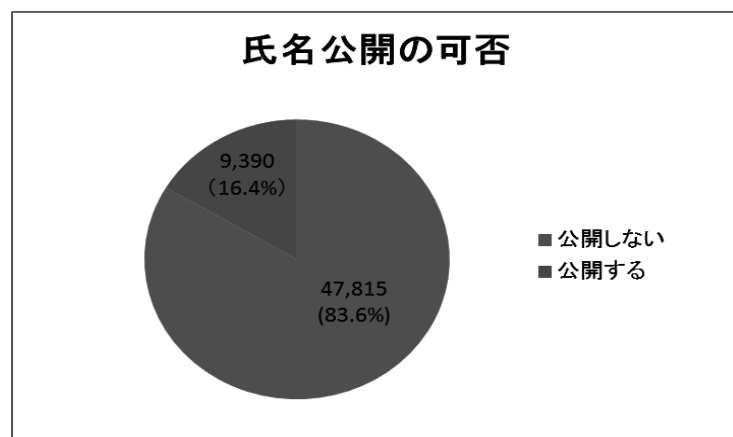


図1 氏名公開の可否の割合

表2 学年別の平均値

学年別	1年	2年	3年	4年	その他
Q5平均値	4.1	3.9	3.6	3.2	3.8
Q6平均値	2.8	3.2	3.7	3.7	4.0
Q7平均値	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3
Q8平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
Q9平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.5
Q10平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4
Q11平均値	4.1	4.2	4.2	4.3	4.3
Q12平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9
Q13平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3
Q14平均値	4.1	4.2	4.2	4.3	5.0
Q15平均値	4.0	4.0	4.0	4.2	4.5
Q16平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9
Q17平均値	3.8	3.8	3.8	4.0	4.6
有効回答数	24,365	17,963	11,062	3,807	8

	公開する	公開しない
Q5平均値	3.9	3.9
Q6平均値	3.2	3.1
Q7平均値	1.3	1.3
Q8平均値	4.0	3.7
Q9平均値	4.5	4.2
Q10平均値	4.5	4.3
Q11平均値	4.4	4.1
Q12平均値	4.2	3.9
Q13平均値	4.3	3.9
Q14平均値	4.4	4.1
Q15平均値	4.3	3.9
Q16平均値	4.0	3.7
Q17平均値	4.1	3.7
有効回答数	9,390	47,815

表1 氏名公開の可否別の平均値

【入試形態との関連】

2010 年度より、入試形態と学生の授業への取り組み（出席状況、予習・復習時間など）との関連を把握するために入学試験タイプの質問を追加している（Q4）。なお、回答は任意とした（回答率 98.5%）。（表 3 入試形態別の項目別平均値）

表 3 入試形態別の項目別平均値

入試形態別	一般入試	大学入試センター試験 利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校推薦入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q5 平均値	3.9	3.9	4.0	3.6	3.9	3.9	4.2	3.3	3.6	3.9	4.1
Q6 平均値	3.1	3.1	3.1	3.0	3.1	3.1	3.4	3.6	3.0	3.3	3.1
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.6	1.5	1.4	1.4	1.4
Q8 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	3.8	3.8	4.2	3.5	4.0	3.8	3.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.5	4.3	4.3	4.4	4.1
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.6	4.3	4.4	4.5	4.2
Q11 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.4	4.1	4.3	4.4	4.0
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	4.2	3.8	4.2	3.9	3.7
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.3	3.8	4.1	4.1	3.8
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.0	4.3	4.3	4.0
Q15 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	3.9	4.2	4.0	3.8
Q16 平均値	3.8	3.8	3.7	3.8	3.6	3.8	4.0	3.5	4.0	3.7	3.5
Q17 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.8	4.0	3.6	4.1	3.9	3.6
有効回答数	30,450	4,950	6,287	1,669	6,061	5,380	721	86	453	271	877

【学部学科・専攻・部門別集計結果】

授業担当者の所属別に、専任教員と非常勤教員を分けて集計をした。

表4 教員所属の学科・専攻・部門別平均値

(学部)学科・専攻・部門	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文			(文) 英米文			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.9	4.2	3.9	3.7	3.6	3.9
Q6 平均値		2.2	2.2	2.7	2.4	2.3	3.9	2.8	2.1	3.0	2.8	2.7	3.1
Q7 平均値		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値		3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.9	3.7	3.9	3.7	3.9	3.9	4.0
Q9 平均値		4.0	4.0	4.3	4.1	4.1	4.0	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3
Q10 平均値		4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	3.9	4.4	4.5	4.4	4.5	4.6	4.4
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.2
Q12 平均値		3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値		3.9	3.9	4.1	3.9	3.9	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q14 平均値		4.2	4.2	4.3	4.2	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.4	4.2
Q15 平均値		4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1
Q16 平均値		3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値		3.6	3.5	3.9	3.6	3.6	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0
有効回答数		1,870			1,747			1,378			1,154		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 地域文化			(文) 地域環境			(文) 日本史学			(文) 外国史学			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.1	4.2	3.9	4.2	4.3	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	3.7
Q6 平均値		3.7	3.5	4.0	3.7	3.5	4.0	3.4	2.9	3.8	3.3	2.7	3.9
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.1	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値		3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8
Q9 平均値		4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.2	4.1	4.0	4.2	4.2	4.0	4.4
Q10 平均値		4.3	4.2	4.3	4.4	4.4	4.3	4.1	4.0	4.2	4.4	4.2	4.5
Q11 平均値		4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.3
Q12 平均値		3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9	4.1
Q13 平均値		3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.1	3.9	3.8	3.9	4.1	4.0	4.1
Q14 平均値		4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.0	3.9	4.1	4.3	4.2	4.4
Q15 平均値		3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1	3.8	3.6	3.9	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値		3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.7	3.8
Q17 平均値		3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9	3.7	3.6	3.8	3.9	3.9	4.0
有効回答数		1,248			830			1,247			1,109		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 考古学			(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.3	4.3	4.3	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	3.9	4.0	3.9
Q6 平均値		3.0	2.4	3.8	3.4	2.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.5	2.8	3.7
Q7 平均値		1.1	1.2	1.1	1.4	1.4	1.3	1.1	1.1	1.2	1.2	1.1	1.2
Q8 平均値		3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.8
Q9 平均値		4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.5	4.2
Q10 平均値		4.0	4.0	4.2	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.5	4.6	4.4
Q11 平均値		4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値		3.9	4.0	3.8	3.9	4.0	3.7	4.0	4.1	4.0	4.0	3.9	4.0
Q13 平均値		4.1	4.2	3.9	3.8	4.0	3.7	4.1	4.2	4.0	4.0	4.0	4.0
Q14 平均値		4.2	4.4	4.0	4.1	4.3	4.0	4.3	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2
Q15 平均値		4.0	4.2	3.8	3.7	4.0	3.5	4.2	4.3	4.1	4.0	4.0	4.1
Q16 平均値		3.7	3.9	3.6	3.7	3.8	3.6	3.8	3.9	3.8	3.8	3.6	3.8
Q17 平均値		3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	3.7	4.0	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9
有効回答数		464			640			900			2,192		

(学部)学科・専攻・部門	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			(法) 法律			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	3.5	3.5	3.6
Q6 平均値		3.5	3.3	3.7	3.5	3.5	4.0	3.5	3.4	3.9	3.4	3.2	3.8
Q7 平均値		1.2	1.2	1.3	1.2	1.2	1.4	1.2	1.3	1.2	1.3	1.4	1.3
Q8 平均値		3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値		4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.1	4.2
Q10 平均値		4.3	4.2	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.3
Q11 平均値		4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1
Q12 平均値		3.9	3.8	4.0	3.8	3.9	3.6	4.0	4.0	4.1	3.9	3.8	3.9
Q13 平均値		3.9	3.7	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	3.9
Q14 平均値		4.1	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2
Q15 平均値		3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.2	4.0	3.9	4.0
Q16 平均値		3.7	3.5	3.8	3.7	3.7	3.4	3.8	3.8	3.9	3.6	3.6	3.7
Q17 平均値		3.7	3.5	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	4.0	3.8	3.7	3.8
有効回答数		4,298			1,270			1,485			5,314		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 政治			(経営) 経営			(経営) 市場戦略			(医療健康科)			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.1	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値		3.3	3.2	3.5	3.1	2.8	3.5	3.2	3.0	3.9	2.0	2.0	2.0
Q7 平均値		1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
Q8 平均値		3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.8	3.7	3.8	3.3	3.8	3.8	3.6
Q9 平均値		4.2	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0
Q10 平均値		4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.1
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	3.9	4.1	4.1	3.8
Q12 平均値		3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.5
Q13 平均値		3.9	3.9	3.8	4.0	3.9	4.0	3.7	3.7	3.5	3.8	3.9	3.4
Q14 平均値		4.1	4.1	4.2	4.1	4.0	4.2	3.9	4.0	3.7	4.1	4.1	3.8
Q15 平均値		3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	4.0	3.6	3.7	3.2	3.9	4.0	3.6
Q16 平均値		3.7	3.6	3.7	3.7	3.5	3.8	3.5	3.6	3.3	3.6	3.7	3.3
Q17 平均値		3.8	3.8	3.9	3.8	3.6	3.9	3.6	3.7	3.3	3.7	3.8	3.4
有効回答数		2,639			3,237			1,194			1,282		

(学部)学科・専攻・部門	(GMS)			(総合教育研究) 文化学			(総合教育研究) 自然科学			(総合教育研究) 日本文化			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		3.8	3.8	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.7
Q6 平均値		3.0	3.4	2.7	3.6	3.5	3.6	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.4
Q7 平均値		1.6	1.4	1.7	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値		4.1	4.0	4.2	3.6	3.6	3.6	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値		4.5	4.5	4.5	4.2	4.1	4.2	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値		4.6	4.5	4.6	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5
Q11 平均値		4.4	4.3	4.4	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q12 平均値		4.1	4.0	4.2	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値		4.2	4.1	4.2	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2
Q14 平均値		4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q15 平均値		4.2	4.1	4.3	3.9	4.0	3.9	4.1	4.2	4.0	4.2	4.2	4.2
Q16 平均値		4.0	3.9	4.1	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値		4.1	4.0	4.2	3.7	3.8	3.6	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0
有効回答数		1,645			4,199			1,978			1,074		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究)外国語第一			(総合教育研究)外国語第二			(総合教育研究)スポーツ・健康科学			(総合教育研究)教職課程			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q5 平均値		4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2
Q6 平均値		2.2	2.5	2.1	2.3	2.6	2.2	3.8	3.8	4.2	3.9	3.8	3.9
Q7 平均値		1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値		3.8	3.7	3.8	4.0	4.0	3.9	4.2	4.2	4.7	3.9	4.0	3.9
Q9 平均値		4.2	4.2	4.2	4.3	4.5	4.3	4.3	4.3	4.6	4.3	4.4	4.3
Q10 平均値		4.3	4.1	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.4	4.5	4.3
Q11 平均値		4.1	4.0	4.1	4.2	4.4	4.2	4.3	4.3	4.6	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値		3.8	3.7	3.9	4.0	4.1	3.9	4.3	4.3	4.6	4.1	4.2	4.0
Q13 平均値		4.1	3.9	4.1	4.2	4.4	4.2	4.2	4.2	4.4	4.1	4.2	4.0
Q14 平均値		4.1	4.0	4.1	4.3	4.5	4.2	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2
Q15 平均値		3.9	3.8	4.0	4.2	4.3	4.1	4.2	4.2	4.4	4.1	4.2	4.1
Q16 平均値		3.8	3.7	3.9	3.9	4.0	3.8	4.2	4.2	4.6	4.0	4.0	3.9
Q17 平均値		3.7	3.6	3.7	4.0	4.1	3.9	4.2	4.2	4.7	4.0	4.0	3.9
有効回答数		7,148			3,053			530			2,080		

「学生による授業アンケート（後期）」集計結果について

2014 年度後期授業アンケートは、前期に引き続き WEB により実施された。例年通り、前期よりも後期の方が対象科目数、対象者数は増加する。本年度前期の対象科目は 1,265 科目、対象者数 83,286 人（延べ人数）に対し、後期の対象科目は 1,668 科目、対象者数 140,860 人（延べ人数）であった。有効回答率に関してみてみると、前期の授業アンケートは 56.2%と WEB 調査以降も例年と概ね変わらない結果を出していた。例年、後期授業アンケートは前期よりも有効回答率が下がる傾向にある。それは対象科目数が増えることにも起因すると考えられる。しかし、今年度の後期アンケートの有効回答率は 40.6%となり、2013 年度の 46.3%、2012 年度の 49.6%と比較してもやや大きく減少したと言えるかもしれない。

評価項目については前期と同様に、前年度までは質問項目としていなかった 4 項目（Q1 所属学部、Q2 学年、Q3 学生番号・氏名の公開の有無、Q4 入学試験形態）を加えた形をとり、例年 Q1 の評価項目を Q5 からとした。Q5 以下の質問項目は全部で 19 問（自由記述を含む）と例年通りであった。

学年別でみると、有効回答数は、1 年生 24,365（全体の 42.6%）、2 年生 17,963（全体の 31.4%）、3 年生 11,062（全体の 19.3%）、4 年生 3,807（全体の 6.7%）と、今年度前期、そして前年度通り、学年が上がるにつれて減る傾向は変わらない。しかし、前年度同期の学年別割合が 35.6%、35.0%、20.7%、8.1%であったことと比較すると、1 年生の有効回答数は 35.6%から 42.6%に増加したものの、4 年生の有効回答数が 8.1%から 6.7%に減り、引き続き 4 年生の有効回答数の減少傾向にある。選択している授業数が減ることに加えて、就職活動等、学外での活動が増加することにより授業への出席が益々減っているのではないだろうか。このサンプル数の違いを考慮に入れて各評価項目をみてみよう。学年が上がるごとにスコアが著しく上がった項目は Q6（2.8→3.2→3.7→3.7）である。授業を履修した理由を問う項目であるが、学年が上がるにつれて、「2:必修科目または選択必修科目だったから」→「3:周りの人に勧められた」→「4:資格の取得」→「5:シラバスを読んで興味を持った」となり、授業を履修し

た動機が具体的で明確になっている。同時 Q13~Q15 の項目についてもスコアが一定して高くなり、学年が上がるに連れて授業内容についての満足度が高くなっている。即ち、シラバスをしっかりと読み、目的をもって授業に臨む姿勢の表れではないだろうか。

続いて前期同様に 2010 年度より追加された質問として「入試形態別の項目平均値」を注意深くみてみる。平均して 4.0 以上が最も多い形態は留学生特別入試により入学した学生である。有効回答数は 721 と、この項目の有効回答数 57,205 の内 1.26%と極わずかではあるが、全ての項目で他の形態と比較して最も高いスコアを出している。留学生の満足度が比較的高い傾向にあることがわかる。本年度はどの項目も低い形態は特にみられなかった。

学部学科、専攻、部門別については以下の通りである。Q5~Q8「学生の自己評価」のジャンルでは、授業に熱心な取組の項目で 4.7 ポイントの総合教育研究部スポーツ・健康科学部門が最も高かった。Q9~Q12「教員の授業運営」のジャンルでは、Q10 休講が少なく通常通りの運営に関して、4.6 ポイントであったのは、文学部英米文学科、文学部心理学科、GMS 学部であった。シラバスの反映や進み具合で好評価であったのは、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の 4.5 ポイントであった。Q13~Q17「教員の授業への取組」のジャンルでは、教員の話し方、授業への取り組みに熱意が感じられた項目について、4.5 ポイントであったのは総合教育研究部外国語第二部門であった。今回は総じて 4.7 ポイントが最高得点であり、4.5 ポイント以上を獲得した項目は少なかったが、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の非常勤においては、6 項目が 4.6 以上という高得点であった。前期同様に有効回答数の少ない学科が総じて好評価を獲得していることは確かである。

今年度から始まった WEB によるアンケート調査は利便性が高くメリットが大きいことは確かであるが、有効回答率の減少に関しては便利であることが逆の結果に繋がることもあるという解釈にもなるであろう。今年度の結果は初めての試みとして記憶に残し、次回は WEB 調査の強みが更に成果につながることを期待したい。

（各務洋子）

連載企画：よりよい教育のために**「会計プロクラスの講義について」****経済学部客員教授（公認会計士）****内山 峰 男**

会計プロフェッショナルクラスは公認会計士・税理士資格を目指している学生を対象にゼミ形式の授業を行い、さらに大原簿記学校に通い資格受験の講座を受講するプログラムです。全国的にも、資格取得を大学としてバックアップしている大学は多くありますが、専門学校の授業を卒業に必要な単位として認定しているのはユニークな存在です。これまで資格取得を目指す学生は、大学に通いながら専門学校に通うというダブルスクール生活を過ごさなければならず、大学には籍を置いただけで、生活の中心は専門学校でした。経済的にも時間的にも負担が重く、限られた学生生活の期間で、将来の就職のことも考えながら学習活動を続けているのが実情です。試験に合格するためには大学のカリキュラム4年分以上の勉強をしなければなりません。それ以外は何も勉強していない者が多かったようです。私は、資格取得の勉強とともに大学生としての本来の勉強もしてもらいたいと考えております。合格するだけでなく、大学の授業と関連させながら、社会人として必要な能力を身につけて貰いたいと考えております。私が担当する講座では大学ゼミの役割をはたし、これまで実務で経験してきたことを生かして、これから会計のプロフェッショナルとして将来活躍できる人材を養成したいと考えております。

私がこのクラスを担当して4年になります。これまでの卒業生が全部で47名、在校生が今春2年生となる5名を含め15名になります。これまでの資格取得者は公認会計士試験合格者5名（うち在学中合格者3名・卒業後合格者2名）、税理士1名（卒業後合格者1名）です。在学中に簿記日商1級検定や税理士の1部の科目に合格する学生は多くおりますが、公認会計士試験の在学中合格はなかなか難しいのが現状です。卒業生の多くは、取得した資格を活用して、監査法人や会計事務所、金融機関、コンサルティング会社、事業

会社にて経理・財務職として就職しておりますが、更に試験取得を目指して大学院に進学している者も毎年何人かおります。

昨今、会計が学生から敬遠されているといわれています。事業会社においても、この職種は近い将来、深刻な人材不足の状況になるかと危惧されています。会計の業務は、組織の形態を問わず経済活動を映し出す影の様な活動であるものの、必須の活動であり、組織活動の透明化やコンプライアンスの重要性が叫ばれる今日、重要度が増しこそすれ、決してなくなることはありません。これから、この業界を目指す者にとっては、今が学習のチャンスであり、決して無駄になる知識ではなく、将来有望な職業になると考えています。今、このことを信じた学生が、将来成功してくれることを祈っております。

平成 26 年度 F D 研修会

平成 26 年度 FD 研修会は、1 月 28 日（水）午後 4 時から 5 時 30 分まで 1-301 教場で行われた。テーマは「新入生セミナーを振り返る」で、本年度実際に「新入生セミナー」を担当された内藤寿子先生（総合教育研究部日本文化部門）と中村公一先生（経営学部経営学科）のお二人から経験に基づく初年次教育のあり方についてお話いただくとともに、「新入生セミナー」のシラバス作成を担当された岩崎皇先生（総合教育研究部外国語第二部門中国語）から、これまでの取組や今後の問題点などについて語っていただいた。

第一報告者である内藤先生は、以前の実質的な初年次教育科目である「フレッシュマンセミナー」と比較する形で「新入生セミナー」について報告された。ポイントは、「フレッシュマンセミナー」では「書く」という行為を経験させることに重きを置いたが、履修者数が 50 名を超える「新入生セミナー」では新聞を利用したグループワークおよび口頭発表が授業の中心になったことで、ある程度まとまった人数にリテラシー教育を行う上で、こうした内容の変更は有効であったように思われる。入学からのオリエンテーションという目的を達するには半期では短いという指摘も興味深いものだった。

第二報告者である中村先生は、学部の目標に沿った形での授業運営という点が特徴的だった。経営学部の初年次教育らしく、ビジネススキルの基礎としてスタディスキルが位置づけられていた。内容に関しては、グループワークが中心で、グループメンバーを入れ替えることで授業の活性化が図られていた。初年次教育の専門家ではない教員が「新入生セミナー」を担当するならば、しかるべき研修が必要なのではないかという指摘や、教場の形状が教育効果に大きく影響を及ぼしているという指摘は、重要であろう。

最後の報告者である岩崎先生からは、「新入生セミナー」設置の経緯や統一シラバスの内容について解説していただいた。準備に3年以上かけたこの科目の導入は、本学の学士課程教育の歴史において大きな改革であることがあらためて確認できた。また、担当者全員に行ったアンケート結果からは、「クラス人数の小規模化」、「役立つコンテンツの開発」、「成績評価基準の設定」、「教科書の作成」などが今後の課題であることが明らかになった。

教務部としては、「新入生セミナー」を、本学がFD推進を図る上での貴重な取組の場として、これからもしっかりとサポートしたいと思う。

(猿山 義広)



(研修会の様子)

『駒澤大学FDハンドブック』発行のお知らせ

駒澤大学FD推進委員会では、FD推進委員会小委員会を編集担当とし、FD推進活動の一環として『駒澤大学FDハンドブック—よりよい教育のために—』(改訂版)を作成しました。

本ハンドブックは、2009年に発行した第一版を改訂したもので、教育支援のてびきである基本編と授業改善の事例を集めた実践編で構成されています。

講師控室にて本ハンドブックを配付しておりますので、ご自由にお持ちください。今後の教育活動にご活用いただければ幸いです。



【Contents】

はじめに

I. 本学におけるFD活動の取り組み

II. 基本編〔教育支援のてびき〕

- ・シラバス
- ・授業
- ・授業支援ツール
- ・試験
- ・成績評価
- ・学生による授業アンケート
- ・公開授業
- ・Teaching Assistant (TA)
- ・授業上での配慮
- ・オフィスアワー
- ・学生による授業アンケートを振り返って

III. 実践編〔授業改善のくふう〕

編集後記

平成 27 年度新規採用教員オリエンテーション 開催のお知らせ

新規採用の専任教員及び非常勤講師を対象にした「平成 27 年度新規採用教員オリエンテーション」を、平成 27 年 4 月 1 日（水）に本部棟中央講堂にて開催いたします。

オリエンテーションを開催する目的は、本学の建学の理念、教育目的を理解いただき、授業に臨んでいただくこと、本学の様々な施設や事務手続きをお知らせし、授業を円滑に進めていただきたいこと、そして実際の授業運営にあたって、個人情報保護やハラスメント防止に留意していただきたいこと等をお伝えすることにあります。

編集後記

『FD NEWSLETTER』第 42 号をお届けします。

ご寄稿いただきました諸先生に感謝申し上げます。

巻頭言を駒澤大学FD推進委員会小委員会委員長の文学部教授田中靖先生にご執筆いただきました。田中先生が直示されたように、駒澤大学の教職員が『FD ハンドブック』改訂版を活用することを望みます。

FD推進委員会委員長・学長廣瀬良弘先生は『FD ハンドブック』「はじめに」において、「育成支援型の教育制度の構築」を提唱し、「学生の「質」の総合力向上を図」らねばならないと述べておられます。そのためには教育の質の向上が求められ、FD活動の重要性がより一層増していると思われまふ。その経緯については、小委員会委員長田中先生が執筆された「FD推進委員会小委員会の活動報告と今後の方針」を是非ご一読いただきたいと思います。

「学生による授業アンケート（後期）」集計結果の分析をGMS学部教授各務洋子先生にご執筆いただきました。各務先生が指摘されているように、今年度より変更になったWEBによるアンケート調査については、その利便性以外のメリットを今後見出してゆくべきではないかと思ひます。また、数値化できないもの、数字の背景にあるものに対する配慮は常になさ

れるべきものと思ひます。

経済学部客員教授（公認会計士）内山峰男先生には、連載企画として「会計プロクラスの講義について」をご執筆いただきました。公認会計士・税理士資格取得を目指す学生を対象としたゼミ形式の授業を担当されてきた立場から、その実績を踏まえて展望を示されております。資格取得を目的とする講義のありかたを見つめ直す契機となると思ひます。

「平成 26 年度 FD 研修会報告」を教務部長猿山義広先生にご執筆いただきました。「新入生セミナーを振り返る」として行われた今年度のFD研修会は、初年次教育を充実することの重要性を痛感させる内容でした。

今後とも教職員の皆様がFD活動に関心を持ち、ご意見・ご要望を寄せて戴ければと存じます。

（松田 健・飯塚 大展）

【タイトル横の写真は、本部棟より望む中庭の様子】

FD NEWSLETTER Mar. 2015 第 42 号

発行日：2015 年 3 月 15 日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

（事務局：教務部）

【付録資料】

- 駒澤大学 F D 推進委員会規程
- 平成 26 年度 駒澤大学 F D 推進委員会委員名簿
- 平成 26 年度 駒澤大学 F D 推進委員会小委員会委員名簿
- 平成 26 年度 駒澤大学 F D 推進部会委員名簿

○駒澤大学FD推進委員会規程

〔平成16年4月1日
制 定〕

改正 平成21年4月1日

改正 平成25年4月1日

(趣旨及び設置)

第1条 駒澤大学及び駒澤短期大学に、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)を推進するため、駒澤大学FD推進委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(FDの定義)

第2条 この規程において「FD」とは、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるために行う、各学部等の組織的な取り組みをいう。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業評価の実施に係る企画・運営に関すること。
- (2) 教員の教授方法等の改善のための支援に関すること。
- (3) 各学部等が行うFDの支援に関すること。
- (4) FDに係る、施設・設備等の改善に関すること。
- (5) 講演会及び研修会等に関すること。
- (6) その他FDの推進に必要な事項に関すること。

(構成)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 各副学長
- (3) 各学部長等
- (4) 各学部等から選出された者各1人。ただし、総合教育研究部は3人 計10人
- (5) 教務部長
- (6) 幹事 若干人

2 委員会の委員長は学長とし、副委員長は教育・研究担当の副学長とする。

3 第1項第4号によって選出された委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 欠員を補充するために選出された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 委員会は、委員長がこれを召集し、その議長となる。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

4 F D推進委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決議し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

(小委員会)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員会に小委員会を設置することができる。

2 審議事項、構成、運営等については、委員会で制定する内規に定める。

(F D推進部会)

第7条 各学部等にF D推進部会を設置する。

2 部会長は各学部長等とし、構成員については各学部等が決める。

(事務所管)

第8条 委員会の事務所管は、教務部とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経てこれを行うものとする。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

平成26年度駒澤大学FD推進委員会委員名簿

平成26年4月1日現在

委員長	学 長	廣 瀬 良 弘
副委員長	教育・研究担当の副学長	桑 田 禮 彰
委 員	学生支援担当の副学長	久 保 田 昌 希
〃	仏 教 学 部 長	金 沢 篤
〃	文 学 部 長	谷 口 泰 富
〃	経 済 学 部 長	小 栗 崇 資
〃	法 学 部 長	大 山 礼 子
〃	経 営 学 部 長	片 桐 伸 夫
〃	医療健康科学部長	瀬 尾 育 式
〃	グローバル・メディア・ スタディーズ学部長	川 崎 賢 一
〃	総合教育研究部長	池 上 良 正
〃	仏 教 学 部 教 授	飯 塚 大 展
〃	文 学 部 教 授	田 中 靖
〃	経 済 学 部 教 授	松 田 健
〃	法 学 部 准 教 授	中 濱 義 章
〃	経 営 学 部 准 教 授	菅 野 佐 織
〃	医療健康科学部教授	熊 坂 さ つ き
〃	グローバル・メディア・ スタディーズ学部教授	各 務 洋 子
〃	総合教育研究部教授	佐 藤 憲 昭
〃	総合教育研究部教授	落 合 和 昭
〃	総合教育研究部教授	秋 田 浩 一
〃	教 務 部 長	猿 山 義 広
		(以上 委員22名)
幹 事	教 務 部 事 務 部 長	柿 沼 富 雄
〃	教 務 部 学 務 課 長	秋 沢 久 美 子
〃	教 務 部 教 務 課 長	桜 田 千 津
		(以上 幹事3人)
書 記	教 務 部 係 長	鎌 田 麻 美
〃	教 務 部	板 橋 幸 子
〃	教 務 部	菊 原 音 絵
〃	教 務 部	堀 創 一
		(以上 合計29人)

平成26年度駒澤大学FD推進委員会小委員会委員名簿

平成26年4月1日現在

委 員	仏 教 学 部 教 授	飯 塚 大 展
〃	文 学 部 教 授	田 中 靖
〃	経 済 学 部 教 授	松 田 健
〃	法 学 部 准 教 授	中 濱 義 章
〃	経 営 学 部 准 教 授	菅 野 佐 織
〃	医 療 健 康 科 学 部 教 授	熊 坂 さ つ き
〃	グ ローバル・メ ディア・ ス タデ ィー ズ 学 部 教 授	各 務 洋 子
〃	総 合 教 育 研 究 部 教 授	佐 藤 憲 昭
〃	総 合 教 育 研 究 部 教 授	落 合 和 昭
〃	総 合 教 育 研 究 部 教 授	秋 田 浩 一
〃	教 務 部 長	猿 山 義 広

(以上 委員11人)

幹 事	教 務 部 事 務 部 長	柿 沼 富 雄
〃	教 務 部 学 務 課 長	秋 沢 久 美 子
〃	教 務 部 教 務 課 長	桜 田 千 津

(以上 幹事3人)

書 記	教 務 部 係 長	鎌 田 麻 美
〃	教 務 部	板 橋 幸 子
〃	教 務 部	菊 原 音 絵
〃	教 務 部	堀 創 一

(以上 合計18人)

平成26年度 駒澤大学FD推進部会委員名簿

(平成26年4月1日現在)

学部等	部会長	委員
仏教学部	金 沢 篤	角 田 泰 隆 奥 野 光 賢 飯 塚 大 展 岩 永 正 晴 熊 本 英 人
文学部	谷 口 泰 富	高 田 知 波 モート、セーラ 田 中 靖 小 泉 雅 弘 長 尾 讓 治 小 野 浩 一
経済学部	小 栗 崇 資	番 場 博 之 小 林 正 人 岩 波 文 孝
法学部	大 山 礼 子	赤 松 晃
経営学部	片 桐 伸 夫	熊 倉 正 修 小 本 恵 照 藤 原 篤 志 菅 野 佐 織 若 山 大 樹
医療健康科学部	瀬 尾 育 弐	青 木 清 熊 坂 さつき 原 田 和 正 近 藤 啓 介
グローバル・ メディア・ スタディーズ学部	川 崎 賢 一	各 務 洋 子 芝 崎 厚 士 絹 川 真 哉 杉 森 建 太 郎
総合教育研究部	池 上 良 正	河 谷 淳 坂野井 和 代 内 藤 寿 子 落 合 和 昭 小 黒 昌 文 秋 田 浩 一 豊 田 千 代 子

平成 26 年度
F D 活動報告書

発行日	平成 27 年 3 月 31 日
発行	駒澤大学 F D 推進委員会 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1 丁目 23 番 1 号 TEL 03-3418-9444 FAX 03-3418-9114
事務局	駒澤大学教務部

 清華大學